



湖南省ニ於ケル郵便區域別及局所數

清國新式郵便局ハ其郵便區域トシテ湖南省ヲ二區ニ分チ一ハ岳州局一ハ長沙局ニ屬シテ郵便物ノ取扱ヲ爲ス目下岳州局ニ屬スル本局及ヒ分局八個所郵便取扱所十五ヶ所長沙局ニ屬スルモノハ本局及ヒ分局七ヶ所郵便取扱所十七箇所アリ而シテ岳州局管内ノ局所中洋銀五拾弗以下ノ郵便爲換ヲ取扱フモノハ岳州居留地局並ニ岳州城内局又洋銀十弗以下ノ郵便爲換ヲ取扱フモノハ常德、辰州ノ兩局ニシテ長沙局管内ノ局所中洋銀五十弗以下ノ郵便爲換ヲ取扱フモノハ長沙、湘潭、萍鄉三局洋銀十弗以下ノ郵便爲換ヲ取扱フモノハ衡州、寶慶、郴州ノ三局ニシテ其他ハ悉ク普通郵便物ノ取扱ヲ爲スニ過キス而シテ此等郵便局所ハ清國內ニ於テハ海關所轄ノ郵便局所在地ニ對スル郵便物ヲ取扱フト同時ニ世界各國ニ對スル郵便物ノ取扱ヲ爲シ又小包郵便物ノ交換ヲ爲シツ、アルモ郵便爲換ニ至テハ未タ他外國ニ對シ其取扱ヲ爲サス

郵便物名	内地					外 國				
	1 地方	2 内地	3 聯合	4 日 本	5 香港澳門青島	1 地方	2 内地	3 聯合	4 日 本	5 香港澳門青島

封 書	一仙	二仙	十仙	三仙	四仙	一仙	二仙	十仙	三仙	四仙
葉 書	二仙	二仙	八仙	三仙	二仙	二仙	二仙	八仙	三仙	二仙
往 復	一仙	一仙	四仙	一仙五厘	一仙	一仙	一仙	四仙	一仙五厘	一仙
新聞紙	五厘	一仙	二仙	二仙	二仙	五厘	一仙	二仙	二仙	二仙

但シ本表ハ清國各地郵便局共通ナリ

一號若クハ數號一類メニシタル者六ツケラム及ヒ以下ニ付キル(但シニキログラムヲ超セハカラス)

二「オンス」半ニ付キ  
五厘以上一東シタルトキ  
二「オンス」半ニ付キ一仙

三「オンス」半ニ付キニ  
五〇グラムニ付キニ  
仙商用印刷物ハ一包ニ  
付キ其重量ニ拘ラス最  
低十仙ノ料金ヲ徴收ス

見本品 九〇グラム以下ニ付キ 一〇仙  
二四〇グラム以下ニ付キ 二〇仙  
三六〇グラム以下ニ付キ 三〇仙  
(以上ハ重量最上限)

五〇グラムニ付キニ  
仙一包最低限四仙ヲ徴  
收ス

(B) 書 留

一 通 五仙

配達受領證付 一〇仙

小包	内地	外 國
牛キログラム以下ニ付キ	一〇仙	二〇仙
一キログラム以下ニ付キ	一〇仙	二〇仙
二キログラム以下ニ付キ	一〇仙	二〇仙
三キログラム以下ニ付キ	一〇仙	二〇仙
四キログラム以下ニ付キ	一〇仙	二〇仙
五キログラム以下ニ付キ	一〇仙	二〇仙
但シ重量以上ノ最高限ヲ超過スルカ又ハ一立方呎以上ナルトキハ内地飛脚便ヲ要スル地方ニ對スル小包ハ受領セズ	同シク	同シク

一、内 國 各 地	二、外 國
地方 料金	聯合國料金
内地 料金	日本 料金
一 郵便物配達區域内	四 日本ト清國間ニ相互ニ受授スル郵便物
二 清國郵便局所在地	五 香港、澳門、青島、威海衛ト清國各地郵便局間相互ニ受授スル郵便物

(以下省略ス)

此外詳細ノ件ハ清國郵便局ニ於テ販賣スル大清郵政章程ヲシテ Chinese Imperial Post, Tariff of postage. ニ就キ參看ス

舊式郵便局ノ取扱事務及料金

清國舊式郵便局ハ信局ト稱シ長沙ニ其本局ヲ有シ郵便物ノ送付ニ付キ左ノ送付料ヲ徴收スト云フ

一 府ヨリ直接ナル他府及ヒ一地方ノ送付料 一三文

一 府ヨリ他府ニ送付スル場合中間府ヲ通過スルトキハ 一六文

第八卷 第十二章 交通及通信

三七六

一府ヨリ他府ニ送付スル場合中間ニテ二府ヲ通過スルトキ 二〇文  
 同 中間ニテ三府ヲ通過スルトキ 二四文  
 同 中間ニテ四府ヲ通過スルトキ 二八文  
 省外ヘノ送付(但シ漢口、漢陽、武昌ヘハ二十四文) 一〇〇文

右送付料ハ其發信人及ヒ受信人ヲ信局ニテ知悉シ居ルトキハ到着地拂ヒ然ラサル場合ニハ發信人ニテ半額受信人ニテ半額ヲ仕拂フモノトス小包ノ送付料ハ省内ハ一斤六十文他省ニハ水路ヲ送付スル場合ニハ一斤ニ付百文乃至二百文ヲ徵收シ陸路ヲ送付スル場合ニハ百六十文乃至二百四十文ヲ徵收ス又小包送付料ハ必ス發送人ニテ之ヲ仕拂フヘキモノニシテ其配達ニ際シ受信人ハ配達人ニ必ス酒手若干ヲ給スヘキモノトス

此等信局ハ毎月十二回ノ郵便ヲ發送スルモ茶季ニ入ルトキハ十六回ニ發送數ヲ増加ス其郵便發送日ニ當リテハ其輸送者ハ重ナル商店ヲ奔走シテ郵便物ノ取集メヲ爲ス而シテ其蒐集シタル郵便物ハ種類ヲ區別シ行囊ニ入レ行囊ノ外部ニ札ヲ附シ其札ニハ行囊内ノ郵便數ヲ記載ス其行囊カ目的地ニ達スルヤ同所ニ於テ之レヲ開キ一々到着簿ニ登記シ書信ニハ信局ノ印ヲ押捺シ之ヲ配達人ニ交付シテ配達セシム

此外信局ニ於テハ爲換手形並ニ現金輸送ノ引受ケヲ爲スモノニシテ信局ノ最モ利益アル事業ナリトス今左ニ其料金ヲ記載ス

▲手形(每一千兩ニ對スル輸送手数料)

發送地	北京	南京	上海	長沙	湘潭	常德	津市
長沙	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
湘潭	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
常德	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

▲現金(每一千兩ニ對スル料金)

發送地	湖北	四川	江蘇	江西	廣東	雲南	貴州
長沙	一五〇	三〇〇	二二〇	二〇〇	二五〇	三〇〇	二〇〇
湘潭	一五〇	三〇〇	二二〇	二〇〇	二五〇	三〇〇	二〇〇
常德	一五〇	三〇〇	二二〇	二〇〇	二五〇	三〇〇	二〇〇
津市	一五〇	三〇〇	二二〇	二〇〇	二五〇	三〇〇	二〇〇
發送地	北京	南京	上海	長沙	湘潭	常德	津市
長沙	二五〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
湘潭	二五〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
常德	二五〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
津市	二五〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

▲第二款 電信

電信ハ清國ニ中國電報官局ト中國電報商局トノ二局アリテ共ニ相連絡シ湖南省ニ在ルモノハ中國電報商局ナリトス共ニ

長沙中國電報信局ノ電報料表

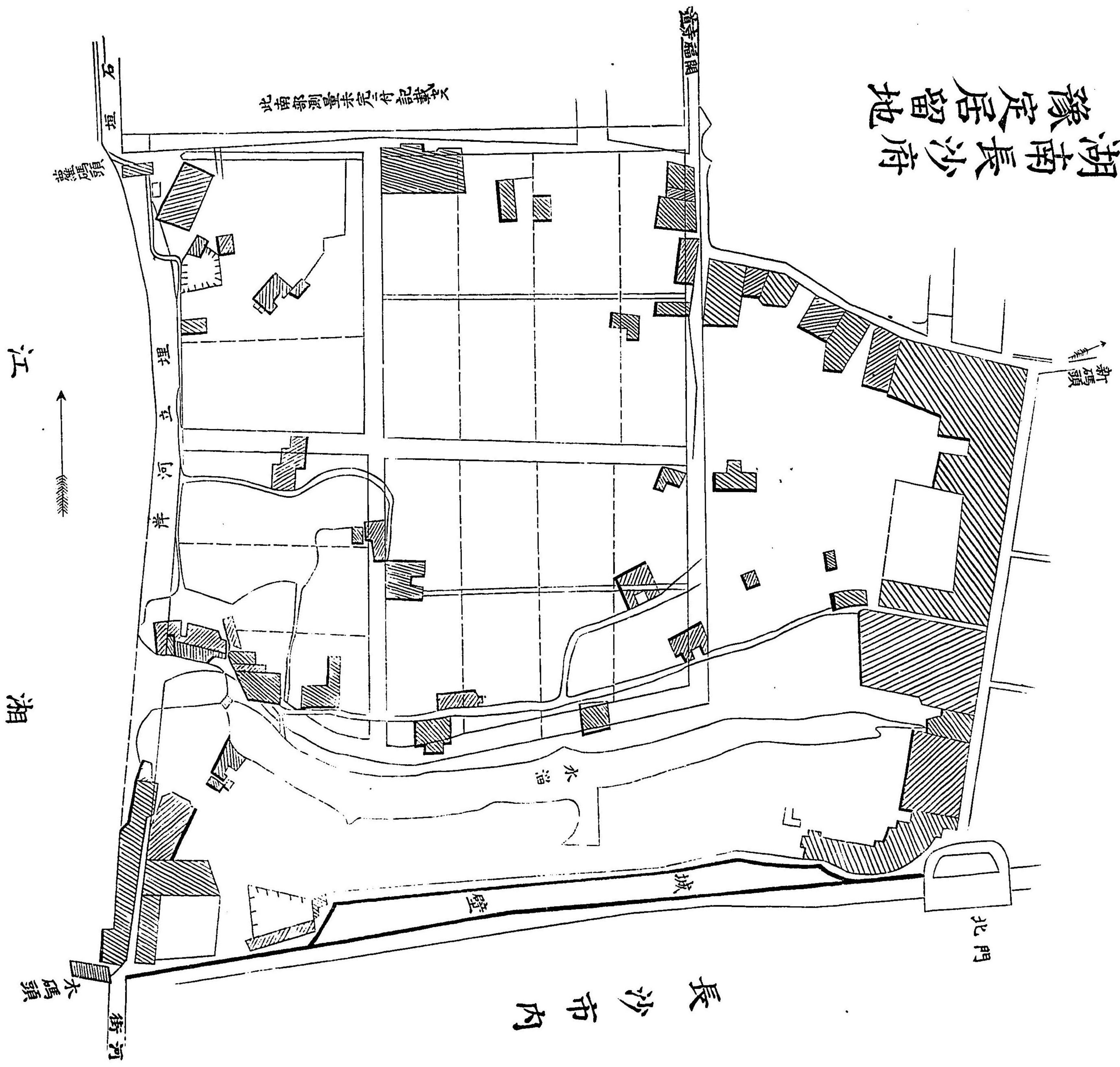
電報爲換ヲ取扱ハス  
今左ニ世界各國及ヒ清國各地ニ對シ長沙ヨリ發スル電報料表ヲ左ニ掲ク(但シ一語料金ニシテ發受者ノ姓名番地等ハ悉ク料金ヲ要ス)

宛 名 地 名	外 國 語		清 國 語	
	普 通 暗 號	普 通 暗 號	普 通 暗 號	普 通 暗 號
日 本	一弗十仙	一弗四仙	同	同
臺 灣	八十四仙	八十四仙	同	同
朝 鮮	九十六仙	九十六仙	同	同
歐 羅 巴 各 國	二弗十仙	二弗十仙	同	同
但シ左ノ各地料金ハ				
歐露及「ゴトカサス」「スエス」經由	七十五仙	同	同	同
同 「テヘラン」經由	二弗三仙	同	同	同
土 耳 其 「フアオ」經由	一弗八十仙	同	同	同
同 北方經由	二弗十仙	同	同	同
北 米 各 地(太平洋經由)	二弗十仙	同	同	同
桑 港	二弗二十仙	同	同	同
加州各地及ヒ華盛頓州	二弗二十仙	同	同	同
「イリノイ」	二弗二十仙	同	同	同

「コロムビア」「メイン」「イサツチエモツド」	二弗二十五仙	同	同	同
「ニューヨーク」「メンシラヴァニア」	二弗四十仙	同	同	同
「オシタリネ」「クエベク」	二弗四十仙	同	同	同
同上各地(歐羅巴經由)	三弗四十仙	同	同	同
加州 華 盛 頓 州	三弗二十五仙	同	同	同
「イリノイ」	三弗二十五仙	同	同	同
「コロムビア」「ニウヨーク」州「メンシラヴァニア」	三弗二十五仙	同	同	同
「メイン」「イサツチエモツド」「紐育」「オランダ」州「クエベク」	三弗十五仙	同	同	同
南 米 各 地	四弗十仙	同	同	同
「アルゼンチン」「メチケイ」「ウルグエイ」	四弗十五仙	同	同	同
「ボリビヤ」「チリ」「ベル」	四弗五十五仙	同	同	同
「ブラジル」「ベルナンブゴ」	三弗八十仙	同	同	同
同 上 各 地 (歐羅巴經由)	四弗六十五仙	同	同	同
「アルゼンチン」「パラグエイ」「ウルグエイ」	四弗六十仙	同	同	同
「ボリビヤ」「チリ」「ベル」	五弗四十仙	同	同	同
「アルジル」「ベルナンブゴ」	四弗十仙	同	同	同
清 國 各 港	三十二仙	三十二仙	十六仙	三十二仙
重 慶	三十二仙	三十二仙	十六仙	三十二仙



湖南長沙府  
豫定居留地



長沙市內

湘江



石堰

立埋岸河

街河

水碼頭

北門

新碼頭

城

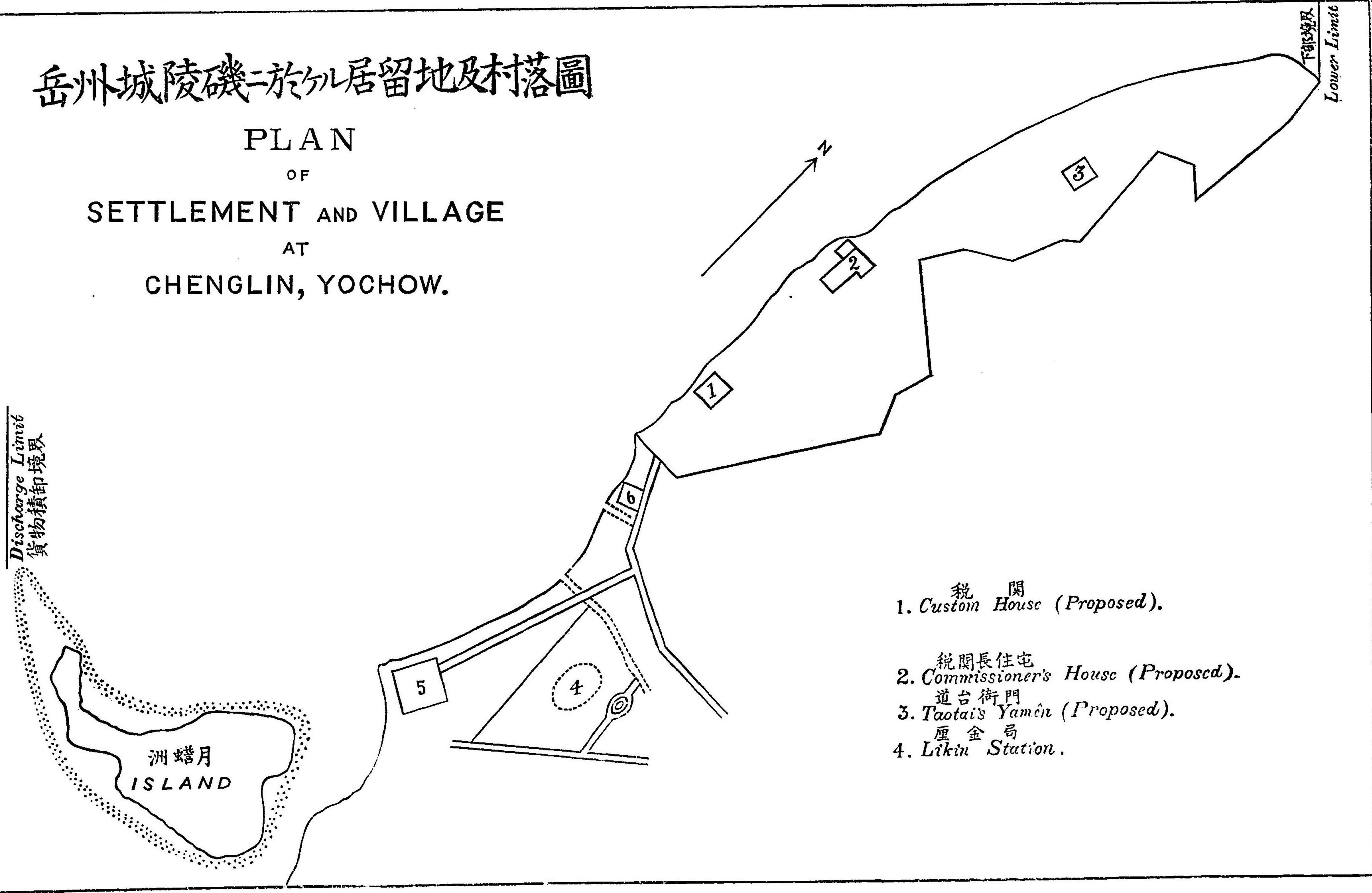
水溜

此南部測量完付記載云

岳州城陵磯二於外居留地及村落圖

PLAN  
OF  
SETTLEMENT AND VILLAGE  
AT  
CHENGLIN, YOCHOW.

Discharge Limit  
貨物積卸境界



- 稅 關  
1. *Custom House (Proposed).*
- 稅關長住宅  
2. *Commissioner's House (Proposed).*
- 道台衙門  
3. *Taotai's Yamên (Proposed).*
- 厘金局  
4. *Likin Station.*

### ●第十三章 居留地

岳州及長沙ノ位置並ニ開港

湖南省ニハ岳州、長沙ノ二開港場アリテ岳州ハ洞庭湖岸ニアリテ其名稱岳州ト云フモ開港場タル位置ハ岳州ノ下流約五哩城陵磯ト稱スル地ニシテ一千八百九十九年即チ明治三十二年清國自ラ開港シタル地ナリ長沙ハ岳州ヨリ更ニ湘江ヲ溯ルコト約五十哩ノ長沙城外ニシテ明治三十六年上海ニ於テ調印シタル追加日清通商航海條約第十條ニ依リ明治三十七年七月一日開港シタル地ニシテ居留地ハ長沙城北門外並ニ汽船碇繫場トシテ西門外ヲ以テ之レニ充テ共ニ雜居制ヲ採用セリ

岳州居留地ノ區域及借地料

一、岳州居留地ノ區域ハ北ハ紅山頭ヨリ劉公廟ニ至ル線中部ハ劉公廟ヨリ城陵磯村落ニ至ル線、南ハ嶺洲島ヲ以テ境トシ居留地内ノ地所ヲ分テ上中下ノ三等ト爲シ其借地料上等ハ一畝一年一百弗中等一畝一年八十弗下等一畝一年五十弗トシ此外地租トシテ一畝三弗ヲ徵收スル外地所ニ對シテハ何等ノ課稅ヲ行ハス而シテ其居留地内土木事業ノ經費ハ此地ニ於テ積卸スル貨物ニ對シ正稅ノ百分ノ二ヲ賦加シ其經費ニ充ツ(詳細ハ岳州居留地規則參照)

長沙居留地ノ區域並ニ借地料

一、長沙居留地中北門外ノ部ハ湘江沿岸ノ延長約一萬二千八百呎與行四千八百呎又西門外ノ汽船碇繫地ハ湘江沿岸約一萬八百呎與行三四百呎アリ地所ハ一二三等ノ三級ニ區別シ其租借期限ヲ三十ヶ年トス其租借料ハ一租借期間一畝百五十元二等一畝一百元三等一畝八十元ニシテ毎年一畝ニ付キ地租二元ヲ徵收ス而シテ居留地ノ土木其他ノ經營費トシテ租借料ノ百分ノ四ニ相當スル額ヲ毎年徵收セラル(詳細ハ長沙居留地規則參照)

以上二個ノ居留地ハ其開港日尙ホ淺キカ故ニ未タ何等ノ設備ナク又外國商人ニシテ土地ヲ購入シテ居留地内ニ於テ營業ニ從事スル者ナシ

右兩地ニ關シテハ地圖ヲ附シタレハ就テ參照スヘツ



●第十四章 公私上ノ設備

税關

一、税關ハ長沙岳州ノ兩港ニ洋海關アリテ一般税關事務ノ取扱ヲ爲ス

商務總局

一、商業會議所及ヒ商業團體ニ至テハ岳州長沙ノ如キモ未タ外國人ノミニテ組織シタルモノナシ然レトモ北京商務部ヨリ湖南省ニ對シ委員一名ヲ派遣シテ商務總局ナルモノヲ設立シ湖南商人トシテ連絡ヲ保チ傍ラ清國人ノミニテ設立シタル商務總會(商業會議所)アルモ未タ清國人ニシテ商業會議所ノ性質ヲ知悉セス單ニ商務部ノ勸誘ニ因テ設立シタルモノナルカ故ニ何等商業上ニ關スル利益ヲ講究スルニ非サルモノ、如シ然レトモ商業團體トシテハ古來清國政府ノ商人ニ對スル保護不十分ナルヲ以テ其自衛上各業者等ハ其業務ノ性質ニ應シテ同業組合ヲ組織シ其團結頗ル強固ナリ

商務總會

一、學校ハ湖南省ニ高等學堂、中學堂、小學堂、幼稚園、師範學堂ヲ設ケ又實業學堂ノ設ケアリテ悉ク官立若クハ地方有志者ノ設立ニ係リ專門學科ノ教授ニハ重ニ日本人ヲ雇聘ス此外陸軍士官學校及ヒ地方幼年學校アリテ日本陸軍少佐一名豫備軍醫一名ヲ雇聘シ其教育ニ從事セシム

學校

一、病院ト稱スヘキモノ清國人ニテ設立シタルモノナキモ外國宣教師カ布教ノ手段トシテ慈善病院ヲ設立シ居ルモノアリテ悉ク英米兩國醫師是ニ當レリ

病院

一、寺院トシテハ未タ日本人ノ着手シタルモノナキモ日本曹洞宗僧侶一人長沙城北門外開福寺ニ僧學堂ヲルモノヲ開設シテ清國僧侶ノ教育ニ從事スルモノ來湖南人ハ僧侶ノ教育ナルモノヲ度外視シテ何等趣味ヲ感セス又清國寺院ノ組織上僧侶ニシテ其宗教ノ繁榮及ヒ人心ノ教導上ニ熱心スルモノナキカ故ニ思ハシク學校發達セサルモノ、如シ

寺院

一、教會場トシテハ各國耶穌宣教師熱心布教ニ從事シ信徒數モ追次増加シツ、ナルモノ、如シ其布教ノ模様ヲ左記述ス

教會場

(イ) 羅馬教 一、*Protestantism* 派 衡州ニハ二百年以前其根柢ヲ設立セリト云フ

(ロ) 「アウガستن」派 二十五年前ニ岳州ニ教會ヲ設立シタルニ當時官吏ノ抵抗ヲ受ケタルモ引續キ今日ニ至リ日下岳州、常德、澧州ニ十六ヶ所ノ分教會ヲ有シ傳教者歐人二十餘名清國人數名アリ此外附屬ノ學校一校小學校七校女子小學校五校、孤兒院一ヲ有ス

(ハ) 「プロテスタント」一、清國內地傳道教派 三十一年以前湖南布教ニ着手シタルモノニシテ一千八百七十五年六月初メテ岳州ニ家屋ヲ借入レテ住居シタルモ宣教師ト其助手ハ僅ニ四月ニシテ同處ヨリ追除ケラレ其後殆ント二十年間全ク岳州ニ其教會ノ設立ヲ試ミサリシカ一千八百八十六年ニ至リ貴州境界ニ漸ク一家屋ヲ借入レ之ニ住シタルニ此處モ亦三ヶ月間ニシテ去ラサルヘカラサルニ至レリ其後當地方受持傳教師ハ五年ノ長日月間住スルノ家屋ナク湖南内地ヲ各處ニ轉輾シテ終ニ其事業ノ成功ヲ見スシテ死シ一千八百九十八年漸ク湖南ニ堅確ナル根柢ヲ据ルコトヲ得其傳道方面ヲ重ニ湖南西部ト決定スルニ至レリ爾來其布教地ヲ擴張シ長沙、常德、辰州等ニ支教會ヲ設クルニ至レリ

(ニ) 倫敦教會派 其本會ヲ岳州ニ設ケ數年間ハ湖南各地ニ於テ所屬傳教者カ其根柢ヲ固ムルヲ待チ「トクトル、グリフィス、ジョン」ハ千八百九十七年自ラ衡州ニ遊ヒ同地ニ一根柢ヲ造リ一千八百九十七年以後大ニ飛躍ヲ試ミ其支派ハ廣東、廣西ニ至ル大商業路ニ沿フテ設立セラル、ニ至レリ衡州ノ教會ハ其後一千八百九十年並ニ一千九百年ノ二回土人ノ破壞スル處ト爲リタルモ其賠償ヲ清國政府ヨリ得テ更ニ改設シ目下衡州ニハ患者四五十人ヲ容ル、病院ヲ設立セリ而シテ其布教範圍ハ重ニ東部湖南ヲ目的トセリ

(ホ) 「エール、ミツシヨン」ハ明治三十七年ヨリ人ヲ湖南ニ派シテ其傳道事業ニ着手ノ準備ヲ爲シツ、アリシカ本年ニ入り米國「エール」大學ヨリ數人ノ講師ヲ派遣シ長沙ニ「エール」大學ヲ設立シテ清國人ノ教育事業ニ着手スルニ至レリ其課程ハ普通學、大學豫科、大學ノ三門ニ分チ各四年ノ課程即チ十二ヶ年間ノ卒業トシ大學ニハ經學、歷史、文學、神學、醫學、土木、鑛山學、外國語學ノ專門アリテ先ツ第一年ニ生徒四十名ヲ收容スルノ豫定ナ

●第十五章 土地家屋ノ賣買並ニ貸借價格

一、土地家屋ノ賣買價格ハ其位置ト家屋ノ構造ニ依リテ大ニ相違シ之ヲ記述スルノ標準ナキモ普通ノ住宅ニシテ室數十四五室ヲ有スルモノ長沙城内ニテ土地共約二萬兩内外ト見ハ大差ナカラン乎貸借モ亦其價格一定セス然レトモ普通住宅室數十四五室ヲ有スルモノ敷金トシテ一ケ年分ノ家賃外ニ家賃月約二十弗内外ト見ハ大差ナカルヘシ

●第十六章 普通労働者並ニ奴婢ノ賃銀

労働者ハ外國人向キ清國人向キノ二様ニ區別スヘキモノニシテ外國人向キハ其賃金高値ニシテ清國人向キハ低廉ナリトス其賃銀ハ大抵左ノ如シ

料理人 (清國人ニシテ西洋料理)	月二十弗乃至三十弗
料理人 (清國人ニシテ清國料理)	月十弗乃至五弗
家僕 (清國人ニシテ外國語ヲ話ス者)	月十五弗乃至八弗
家僕 (清國人ニシテ外國語ヲ話サル者)	月八弗乃至三弗
以上ハ外國人ノ家屋ニ使用シ食料ハ主人ヨリ給ス若シ食料自辨ナルトキハ月二弗乃至三弗ノ高賃ヲ仕拂ハサル可ラス	月五弗内外
料理人 (清國人ノ使用スル者)	月五弗乃至三弗
奴婢 (同)	月二弗乃至一弗

婢ハ清國ノ習慣トシテ多ク奴隷トシテ購入使用スルモノニシテ十二三歳ノ女子一人大抵八十弗乃至百弗ナリト云フ

大工	一日	二十五仙乃至十仙
左官	一日	二十仙乃至十仙
瓦及ヒ煉瓦工	一日	二十五仙乃至十仙
輜夫	一日	二十五仙(月雇一人三弗乃至四弗五十仙)
苦力	一日	二十仙乃至十仙(月雇一人三弗内外)

以上ハ悉ク食料自辨ナレトモ食料ヲ給スルトキハ更ニ低廉ナリトス  
其他ノ賃銀ハ以テ推察スヘシ

●第十七章 物價

油	米	一石(我約四斗八升内外)	五弗六十仙
上	米	一石(同)	四弗五十仙
鷄	鷄	一斤(骨羽共)	十九仙二厘
鷄	卵	一個	九厘乃至一仙二厘
猪	肉	一斤(骨共)	十四仙四厘
猪	油	一斤	十九仙二厘
羊	肉	一斤(骨共)	十六仙乃至十四仙
牛	肉	一斤(骨共)	十仙乃至七仙六厘

第八卷 第十七章 物價

白魚	一斤	九仙六厘乃至八仙
白魚	一斤	三十二仙乃至十六仙
芋菜	一斤	十八仙
白葱	一斤	八仙
竹筍	一斤	四仙六厘
大根類	一斤	三仙二厘
波菜	一斤	一仙六厘
豆芽	一斤	二仙八厘
鰾魚	一斤	一仙四厘
白砂糖	一斤	不定
清國製醬油	一斤	十四仙四厘
タミルク	一罐	十二仙
鴛印「ミルク」	一罐	一弗
石炭	一噸	四十五仙
木炭	一噸	八弗
薪	百斤	一弗五十仙
石油	一罐	五十仙
日本酒	瓶詰 一箱(四打入)	一弗五十八仙
麥酒	一箱(大瓶)	十五弗
麥粉	一袋	三弗七十五仙

以上ノ食料品外國輸入ニ係ルモノハ湘江減水シテ汽船ノ停航スル時季即チ十月末ヨリ翌年二月下旬マテハ約二割乃至五割ノ高値ト爲ルモノナリ

角灰	百斤	四百五十文
揚灰	百斤	三百二十文
煉瓦	百枚	一千二百文
六尺磚	百個	九百文
三六九磚	百個	一千七百文
田字磚	百個	二千文
磨磚	百個	四千文
木材	每尺	代價 一貫五六百文
杉木	每尺	代價 一貫五六百文
杉板	四分	一井 代價 一千六百文
杉板	四分	一井 代價 一千六百文

第十八章 本邦人ノ着眼スヘキ事業

第八卷 第十八章 本邦人ノ着眼スヘキ事業

一、商業 湖南省ハ由來鎖國ノ状態ニ在テ外人ヲ嫌惡スルコト甚クシカリシカハ外人ニシテ湖南省内地ヲ遍歴シタル者ナク從ツテ其需用品竝ニ土地ノ生産品ニシテ外國輸出ニ適スルモノヲ發見スルコト能ハス湖南省ハ全ク何等着手セラレタル處ナカリシカ明治三十七年七月一日長沙開港以來外人ノ往來増加シ來リ風氣モ大ニ開發セラレタルモ開港日尙ホ淺ク外人未タ商業上ニ着手スルニ至ラス目下湖南省内ニ於テ商業ニ從事スルモノハ日本人ヲ最トスルモ悉ク小資本ノ雜貨小賣竝ニ賣藥業ニシテ目下ノ處貿易上ニ大發展ヲ爲スノ氣運ヲ顯出セス又米國人ニシテ「シンガー」裁縫器械ノ販賣ニ從事スル者アルモ未タ抄々シキ賣行ナキモノ、如シ

要スルニ湖南商業ハ尙ホ未開ノ状態ニ在ルカ故ニ如何ナル商業ニ從事スルモ大商業ヲ營ムコト困難ナルモ悉ク有利ナラサハナク殊ニ湖南省ノ事業ニ着手シタルハ日本人ヲ以テ嚆矢ト爲スヲ以テ歐米各國ノ商品ニ至ルマテ土人ハ日本商品トシテ之ヲ信スルカ故ニ商人トシテ商業ニ湖南ニ從事セント欲セハ其自己ノ信用ヲ守ルトキハ將來頗ル有望ナリ

二、航路 交通ノ部ニ於テ已ニ陳述シタル如ク目下日清英三國大小汽船ノ漢口、長沙、湘潭、常德等ヲ航行シテ貨客ノ輸送ニ從事スルモノアリト雖トモ湖南ノ水道ヲ研究シ更ニ小水道ニ向ヒ小蒸汽船ヲ廻航シ貨客ノ輸送ニ從事スルトキハ一層輸送業發達ノ見込アリ殊ニ常德、長沙竝ニ常德、漢口間ノ航路ニ至テハ英國汽船湘潭號一回ノ航行ヲ試ミ頗ル好成績ヲ得又其航路モ我海軍ノ測量ニ依リ優ニ湖南汽船會社カ有スル沅江丸ヲ通航セシメ得ヘク其航通期モ亦一ヶ年間八ヶ月間ハ確ニ安全ノ航行ヲ爲シ得ヘシトノ説アリ又長沙ヨリ上流衡州ニ至ルマテ約五百浬里ノ河流ハ其間數十ノ淺灘岩礁ノ横ハルモノアリト雖モ沿岸一帶ノ土地豐富ニシテ水深モ亦夏期中少ナクモ十呎内外ヲ有スルヲ以テ荷物曳船營業ヲ開始スルトキハ長沙、漢口大形汽船ノ「フイーゼン」タルヘク最モ囑望スルニ足ルモノナリ

三、農産物等ニ關スル事項 湖南省全省ハ米穀ノ大産地ナルヲ以テ其産出甚ク豐富ナリ此外湖南西部ニ於テハ茶、蔗、植物油、藍、棉花ノ産出アリ中部ニモ亦蔗、植物油ノ産出アリテ此等農産物頗ル多量ナリ故ニ日本人ニシテ蔗、植物油其他ノ種類ノ産地ニ付キ充分研究セハ將來日本ニ對スル一大輸出品タルノ望アリ

四、工業 至テハ目下摺附木製造所、安質母尼精煉所等不完全ナル工業ニ從事スル者アルノミニシテ工業トシテ見ルヘキモノナシ依テ將來豐富ナル湖南省ノ鑛産物精煉所ヲ設立スルモ一策ナルヘク目下最モ手近ニ着手シテ有望ナルハ醴陵附近ニ産スル多量ノ砒石ヲ採取シテ玻璃ヲ製造スルコト又將來湖南風氣ノ發展ニ投スル爲メ新式煉瓦製造及ヒ「セメント」製造等ニ從事スルコト最モ望アルモノ、如シ

五、採鑛 ニ至テハ湖南省全省鑛物豐富ナルモ官紳相連合シテ一切外人ノ鑛山探堀ニ從事スルヲ許サス因テ眼前幾多ノ金、銀、銅、錫、鉛等ノ諸鑛山横ハリ居ルモ未タ完全ニ着手セラレ居ラサルナリ目下ノ形勢到底外人ノ染指ヲ允サ、ルナリ

六、學校、病院、布教等 學校中日本ニ留學セシムル爲メ日本人ノミヲ以テ組織シタル日本語ノ普通學校ヲ設立スルコト最モ面白キ事業ニシテ日本人ノ力ヲ以テ節制ヲ加ヘ永遠ノ目的ヲ以テ湖南學生ノ養成ニ從事セハ完全ナル教育ヲ施スコトヲ得ルト同時ニ湖南現今ノ學風ヲ一變シ得ルノ望アリ然レトモ清國政府若クハ其他有志ノ釀金ヲ以テ斯事ニ從事セシト到底不可能ナレハ日本ノ資金ヲ用フルノ手段ニ出サルヘカラサルナリ

清國事情第八卷終

第九卷 在沙市帝國領事館管轄區域內事情

(明治四十年一月二十九日附在沙市領事館事務代理本部岩産報告)

第一章 管轄區域

○第一節 管內府、州、縣ノ名稱

湖北省	荆州府	江陵縣	公安縣	石首縣	監利縣	松滋縣	枝江縣	宜都縣
	宜昌府	東湖縣	歸州	長陽縣	興山縣	巴東縣	長樂縣	鶴峯州
	施南府	恩施縣	宜恩縣	來鳳縣	咸豐縣	利川縣	建始縣	
	鄖陽府	鄖縣	房縣	竹山縣	竹筴縣	保康縣	鄖西縣	
	荊門州	當陽縣	遠安縣					
	襄陽府	襄陽縣	宜城縣	南漳縣	棗陽縣	穀城縣	光化縣	均州
	安陸府	鍾祥縣	京山縣	潛江縣	天門縣			
河南省	懷慶府	河南縣	濟源縣	原武縣	修武縣	武陟	孟縣	溫縣
	河南府	洛陽縣	偃師縣	鞏縣	孟津縣	宜陽縣	登封縣	永寧縣
		澠池縣	嵩縣					新安縣

陝 州 靈寶縣 門鄉縣 盧化縣  
 汝 州 郊縣 魯山縣 豐寶縣 伊陽縣

○第二節 地 勢

湖北省ト河南省トハ南北ニ相連ナリ而シテ之ヲ東西ニ兩斷スレハ其東部ハ即チ漢口ノ管轄區域ニシテ其西部ハ即チ當館ノ管轄區域ニ當レリ地勢ハ湖北省中山地ト田野トニ分レ山岳ハ西北部ニ多クシテ其餘ハ概ネ坦々タル田野ノミナリ安陸府、荊州府、荊門州及襄陽地方ノ旅行者ハ到ル處一望際涯ナキ田園ヲ見風趣ノ單調一律ナルノ感アルモ北襄陽ヲ超ヘテ鄭陽府ニ入りテハ山岳稍多キヲ加ヘ更ニ進シテ河南又ハ陝西ニ迫ルニ從ヒ山脈透々タルヲ見ルモ天ヲ摩スル如キ高山ハ陝西方面ニ在リテ人馬行路ノ難殊ニ甚シキモノアリ又西宜昌ヲ過クレハ概シテ山地多ク峻山奇峯連綿トシテ遠ク四川ノ山岳ニ接續シ山水ノ美ハ詩人ノ賞贊措ク能ハサル所ナリ然レト南湖南ニ接スル方面ニ在テハ地勢平坦ニシテ水利交通ノ自由アリ又東漢口領事館ノ管轄區域ニ接スル方面ニ在テハ平坦砥ノ如シトハ形容詞ニアラスシテ事實ナルヲ見ル

○第三節 職業ノ大別

天然ノ必要上平地ニハ主トシテ農業ノ發達ヲ來タシ傍ラ農産物ヲ原料トスル製造業ヲ促生シ山地ニハ木蠟其他植物性諸油ノ原料少ナカラサルヨリ農耕ノ傍ラ其製造ニ從事スルモノ多シ而シテ商人ハ是等農工ノ貨物ヲ集散シ有無相通スル故當地方ニ於ケル職業ハ農工商ノ三ニ大別スルヲ得ヘシ尤工ト稱スルモ性質上工ノ部ニ屬スルカ故ニ斯ク稱スルニ過キスシテ其所謂工業家中織布製油製茶等ノ業ヲ營ムモノ、作業ノ程度及方法ニ至リテハ寧ロ農ニ近キモノ少ナカラス故ニ當地方ニ於ケル職業ノ主要ナルモノハ農商ニシテ工之ニ次キ其他ノ職業ニ至テハ何レモ從屬的關係ヲ有スルモノニシテ之ヲ列舉スルノ價值ナカルヘシ

●第二章 管内特長ノ概念

○第一節 產 物

管内ニ於ケル産物ハ米、大小麥、大豆、落花生、胡麻、菜種、高粱、棉、五倍子、藥材、漆、硫黃、石炭、木炭、石灰、木蠟、植物性諸油、綿布、生絲、絹織物、茶、牛皮、木耳、蜂蜜、鹽魚、黃蠟、麥稈子等ニシテ此中沿岸諸港ヲ經由シ更ニ海外ニ輸出セラル、主ナルモノハ綿、木蠟、五倍子、藥材ニシテ大豆、胡麻、菜種、黃蠟、漆之ニ次キ牛皮及ヒ茶ニ至リテハ殆ント稱スルニ足ルモノナシ此他ノ商品ハ皆内地貿易ニヨリテ消費セラレ當港ヨリ輸出セラル、白蠟ノ如キハ全部四川ヨリ來ルモノニシテ管内ノ産ニアラサルナリ

○第二節 貿易ト天然

當地方ニ於ケル貿易ハ天然ト多大ノ關係ヲ有スル故年柄ノ良否ニ依リテ貿易額ニ差等アルヲ免レス故ニ偶良好ナル年柄ニ際會シテ商利ヲ博シタルモノモ毎年同一ノ利益ヲ期待シ得ヘカラサルト同時ニ其偶凶年ニ際會シテ利益ヲ見サリシモノモ亦之ニ依テ平年ヲ斷シ能ハサルナリ要スルニ農業基本地ニ於ケル商人カ凶年ニ遭遇シテ狼狽スル如キハ恐ノ極ニシテ豐凶ノ年柄ヲ平均シ之ニ應スルノ商策ナカルヘカラス

○第三節 商取引ノ良法

外國貿易上當港ノ地位ハ直接海外ト商取引ヲ爲スニアラスシテ輸出入共上海又ハ漢口ヲ經由セリ是レ當地ニ於ケル商人中上海及漢口ニ分店又ハ代理人ヲ有シ輸入品ニ對シテハ輸出品ヲ仕拂ヒ物々交換トナスモノ少ナカラサルカ故ナリ想フ

ニ此ノ方法ハ當地ニ適シタルノ商取引ニシテ假リニ海外ニ於テ商品ノ仕入ヲ爲ストスルモ金融機關不備ノ爲メ海ト向ケ  
送金ニ依テ失フ所得ル所ヲ償フニ足ラサルヘシ若シ一步ヲ進メテ海外ト直接ニ物々交換ノ方法ニ依リ外國貿易ヲ爲スニ  
至ラハ自然金融機關ノ發達ヲ生シ彼我利スル所アルヘキモ舊慣ヲ墨守スル當地人ニ在テハ到底望ミ能ハサルコトナル  
ヘシ

○第四節 商業取引地

上記ノ理由ニ依リ當港ト漢口及上海間トニハ常ニ貨物ノ來往スルコトナルカ四川地方トノ商業關係モ亦輕視スヘカラサ  
ルモノアリ然レト雖當局ヲ經由シテ出入スルコト故統計表ノ徵スヘキモノナキモ貿易年額數百萬兩ノ多キニ達スルハ事  
實ナルモノ、如シ其他南滿地方湖南及河南トノ取引關係モアレト其取引高ハ遙ニ四川ニ及ハササルキモノアリ後節更ニ  
詳述スル所アルヘシ

●第三章 衣食住ノ状態

○第一節 食物

勞働者ノ外ハ概ネ二食ニシテ午前十時頃及ヒ午後四時ヨリ五時ノ間ニ喫スルヲ常トス此外過早、過中及ヒ消夜ト稱スル  
モノアリ過早トハ朝ノ喫飯前ニ食シ過中ハ午後及ヒ消夜トハ夜八時ヨリ九時ノ間ニ喫スルヲ常トス何レモ菓子、肉饅頭  
又ハ薄粥ヲ使用シ外人ノ所謂喫茶ト大差ナカルヘシ然レトモ當地ノ慣習ニ在テハ富裕者ト雖モ三度ノ喫茶ヲ爲スモノナ  
ク便宜一度又ハ二度ニ過キササル由ニテ又商人間ニ在テハ多ク消夜ヲ喫スルノ慣習アリト云スリ  
菜ハ井ニ盛り同食者相互箸ヲ入ル、コトナルカ一家四五人ノ家族ニテ肉類、魚及野菜取交セ四碗以上六碗ナルハ上等ノ

生活ニシテ割烹ハ多ク料理人ノ爲ス所ナルモ中前後ヨリ以下ハ皆主婦ノ掌ル所ナリ米ノ常食ニシテ菜ノ副食タルハ一般  
ナルモ上等向ノ家ニ在テハ米ハ西洋料理ノ麩包ニ等シク多ク肉食ナルヲ常トセリ而シテ其食卓ニ登ル菜ノ種類及碗數ハ  
朝夕共大同小異ニシテ特ニ注意ヲ惹クニ足ルモノナシ又中等向ノ家ニ在テハ其副食トスル所一日一椀ノ魚又ハ肉類ノ食  
卓ニ登ルアルハ稀ニ見ル所ニシテ一ヶ月内ニ約五六回ナルヲ常トシ又商家向ニ在テハ主家及支配人ヲ除キ其他ノモノハ  
一ヶ月内一日及十五日ノ二回魚又ハ肉ヲ喫スルニ過キスシテ而シテ此種ノ部類ニ屬スルモノ多數ナリト云ヘリ  
料理ニハ上等向ハ猪油ヲ用ヒ普通ハ胡麻ノ油ヲ使用スルモノニシテ其料理法ハ如何ナル品ニモ油ヲ加味シ野菜ニ至ルマ  
テ油氣ヲ帶ヒサルモノナシ

輸入ノ海産物中昆布ヲ除クノ外ハ料理屋又ハ饗宴ノ席上之ヲ使用スルノミニテ富裕者ト雖モ常食トスルモノナシ

○第二節 衣服 衣服ノ名稱及衣服用切地

●●●●●  
衣服ノ名稱

汗 褂 子 「シャツ」

褲 子 「ズボン」下又ハ「ツボン」ニテ其製法ハ一ナレトモ切地ヲ異ニセリ當時褲子ノ上ニ襠ヲ着セ  
スシテ更ニ褲子ヲ穿ツモノ甚タ多シ

襪 褲 「ツボン」下ノ上部ニ着用スルモノニテ「ツボン」下ノ上部西側及後部ヲ斜ニ截斷セル如キモノ  
ナリ

長 褂 子 一名長衫子トモ云フ長衣裳ニテ足ニ達セサル三四寸又ハ四五寸位ノモノニテ皆單製ナレト春  
夏秋冬共之ヲ着スルモノ少ナカラス尤裕及綿入ノ季節ニハ衣服ノ不潔ヲ阻斷スルタメ其上ニ

着スルニ過キササルナリ

背 褂 子 「チヨツキ」様ノモノニシテ單袷縮入共ニアリ單ナルハ多ク麻ニテ作り汗取りトシテ「シャツ」

ノ下ニ着用スレトモ袷及縮入ハ衣服ノ上ニモ下ニモ着用スルアリ或ハ之ヲ被褥ト稱ス

襖 子 洋服ノ上着ニ相當スルモノニテ袷縮入共ニアリ労働者ニ在テハ之ヲ上着トナセトモ其他ハ皆

下着トナスノミナリ

馬 褂 子 長サ膝ニ至リ袖長クシテ又寛ナリ禮服ノ一ナリ

袍 子 長サ足ヲ去ル二三寸ニ達シ單、袷、縮入、毛皮、裏付アリ亦禮服ノ一ニシテ恰モ「フロックコート」ニ相當ス

襪 子 長サ袍子ヨリ短キコト三四寸ニシテ其上ニ着用スルヲ妨ケス禮服中ノ第一位ニ屬シ單、袷、縮入、及毛皮裏付アリ中等社會ニ在テハ之ヲ所持セサルモノ少ナカラス襪子ノ上背及ヒ胸部

ニ身分ニ應シタル畫模様ノ刺繡セル方形ノモノアリ之ヲ襪子ト稱ス官位アル官吏ノ附者スヘキモノニシテ一定ノ資格アルモノ、外之ヲ借用スルヲ得ス

以上ハ男子服装ノ名稱ヲ説明シタルモノナレト婦人ニ在テモ汗褂子及襪子ヲ使用スルコト男子ニ同シク其上ニ襪子又ハ褂子ト稱スル長サ足ヲ距ル一尺計リノ衣服ヲ着用スルカ普通ナレト貧者ニ在テハ短衣ヲ穿ツモノ多シ襪子ノ禮服ナルコト男子ニ同シク又裙子襪邊及紅衫子等ノ區別アレト之ヲ省略ス

衣服ヲ製スルニ輸入織物ノ如何ニ使用セラル、ヤヲ見ルニ生金巾、粗布、晒金巾、畦織木綿等ハ多ク淺黃紺又ハ藍色ニ染メラレ單、袷、縮入及裏地ニ使用セラル尤晒金巾ノ一部ハ白色ノ儘「シャツ」「ズボン」下及靴足袋トシテ使用セラレ又其染色セルモノハ下流社會ニ在テハ之ヲ晴衣トナスモノ多シ緋金巾ハ女子ノ衣服又ハ其裏地トシ「フランネル」及綿

「フランネル」ハ多ク「シャツ」又ハ「ズボン」下ニ使用セラル當港ニ輸入セラル、本邦製綿木綿ハ男女ノ衣服ニ需用セラ

ル、モ婦人ノ褂子用ニ使用セラル、モノ多シ又羅紗ハ概シテ藍色、茶ノ類多ク袍子、背褂子等ニ製セラル、カ未タ需用ノ大ナルヲ見サルナリ

○第三節 風 俗 一夫多妻ノ辯及冠婚葬祭

●一夫多妻ノ辯●

一概ニ清人ヲ稱シテ一夫多妻ナリトスルハ理論上ノ見解ニアラサルモノ、如シ其故ハ婚嫁ノ當時身分ニ應スルノ嫁資ヲ有シ來ルハ正室一人ニテ其他ハ便宜賣買スルニ過キサルモノナレハ内外ニ對シ夫人タル資格ナキハ勿論兒女ヲ生ムモ正室ノ兒女トシテ母子ノ名稱ヲ存シ能ハサルカ故ニ日シテ妻ト稱シ難シ已ニ妻ト稱シ難ケレハ即チ一夫多妻ト稱スルハ理論上ノ見解ニ於テ誤謬ナリト云ハサルヲ得ス

●冠婚葬祭●

冠婚葬祭ハ人生ノ大禮ナルカ當時ニ在テハ別ニ冠禮ヲ舉行スルモノナク冠婚同時ニ行ハレ冠ハ即婚スルノ時ニテ男子十七八歳女子十五六歳ニ達スレハ結婚期ニ入りタルモノナリ冠トハ即冠戴スルノ意ニテ未婚者ハ冠戴シ得サル由ナレト正月ノ如キ祝日ニ際シテハ齊シク冠戴スルヲ妨ケストノコトナレハ強テ冠ノ有無ニ依テ既婚未婚ヲ分別シ難ク畢竟空文ニ歸スルモノ、如シ婚姻ニハ男女雙方ニ媒妁人アリテ其員數ヲ同フシ而シテ雙方ノ媒妁人ニ對シ單ニ男子ヨリノミ謝禮スルノ慣習ナルカ是ハ女子ノ婚嫁スルハ自己ノ家ニ復歸スルモノニテ其親ノ家ニ成育セルハ一時ノ寄生ニ過キストノ見解ヲ取ルノ故ナリト思ハル婚嫁贈答ノ禮ハ婚姻ノ豫約即チ許嫁ノ成立セルトキニ男家ヨリ耳環、釵、指環又ハ腕環ヲ贈ルモアリ又贈ラサルモアリテ一定セス然レト女家ヨリハ必ス庚書トテ紅紙上ニ女子ノ生年月日ヲ認メタルモノヲ贈送ス他日破約ノ場合ニハ之ヲ以テ婚約成立ノ證トナスヲ得ヘン扱テ婚姻三四日前ニ至テハ男家ヨリ酒肴及ヒ衣裳ヲ贈リ女家ヨリハ帽子、長靴、手巾、紙入ヲ禮物トナスコトナルカ貧富ニ依リテ品數一定セス帽子、長靴ハ價貴キノ故ヲ以テ手巾、



紙入ノミヲ贈ル方寧ロ多數ナルカ如シ

葬式ハ儒、佛、道及回々教式ノ四アリ元來清國ニ在リテハ一般ニ孔子ヲ尊敬シ有徳知識ノ傑人ハ皆孔門ニ出テ苟モ業ヲ一世ニ成サントスル志氣アルモノハ競フテ孔子ノ遺教ヲ發揮セント勉メタルタメ偉才ヲ宗教界ニ振ヒタルモノナク佛敎、道教ト稱スルモ精神界ヲ支配スルノ幹能ナキハ勿論僧侶ハ一般ニ度外視サレ少ク文字ヲ解スルモノハ自ラ稱シテ儒敎ナリト云フ然レトモ儒敎ハ宗教ニアラサルカ故ニ其敎派ヲ尋ヌレハ儒者ノ中佛敎、道教及ヒ回々教ニ屬スルモノアリテ純粹ノ儒式ニ依テ葬禮ヲ行フモノハ百中一ヲ算シ難シ扱テ葬式ノ方法ハ道佛共大差ナク死スレハ屍體ヲ棺ニ入ル之ヲ合檢ト云フ合檢後十日又ハ十五日ヲ經テ埋葬スルモノ普通ナレト一ヶ月又ハ二ヶ月ヲ超ユルモノアリサレト一年ヲ超ユルモノニ至テハ甚タ稀ニ見ル所ナリ死後三日間ハ僧侶ノ讀經アリ大概ハ八人ナルヲ常トス爾後七日目毎ニ讀經ヲ乞ヒ五七日ニ至テ完了スルヤニ聞ケリ又回教徒ノ葬式ハ至極簡單ニシテ人死スレハ三日内ニ埋葬スルノ例ニテ貧富ヲ論セス屍體ニハ白布ヲ纏ハシメ葬ムルニ棺材ナク寺院ニ備付ノ棺ニ似タル容器ニ入レテ墓地ニ運搬シ屍體ノミ埋葬スルノ慣習ナリ

法事供養即靈祭ハ佛敎、道教共一週忌ニ僧侶ノ讀經ヲ乞フ者アルモ稀ニシテ一般ニハ春季ノ清明節及ヒ秋季ノ清曆七月一日ヨリ十五日ニ至ル間ノ盂蘭會ニ爲スヲ普通トス其方法ハ粗惡ノ紙ニ死人名宛ニ誰某ヨリ錢若干ヲ贈ルト認メ幾百枚トナク結束シテ之ヲ燒棄スルナリ此他盂蘭會中ニハ河燈ト稱シ無數ノ紅燈ヲ水流ニ放ツアルモ是ハ慈善家ノ捐金ニ依リ購燈幽鬼ヲ弔フモノニシテ特種ノ靈ヲ祭ルニアラサルナリサレト回教徒ニ在テハ是等ノ祭禮ナク一週忌ニ寺ノ和尚即阿洪ト稱スルヲ請シ來リ讀經後茶菓ヲ喫スルノミナリ又死後三年間ハ位牌ニ燈火ヲ捧ケ朝夕食物ヲ供スルノ禮アリ但子ノ親ニ奉スルノ禮ニシテ子死スルモ親ノ之ヲ爲サ、ルヨリ見レハ儒敎ノ所謂三年ノ喪ヨリ來レルモノニシテ宗教ノ意味ニアラサルナリ

### ○第四節 家 屋

家屋ハ一般平家建ニシテ通常ノモノニ在テハ七八人ノ家族ニテモ三間ナルヲ普通トス中間ノ一室ハ應接間ニシテ左右ノ兩室ハ寢室ナリトス室内ニハ多ク板椽ヲ張レルカ貧人ニ在テハ土間内ノ寢臺ニ起臥セリ最モ板椽ノ上ニ更ニ毛氈ヲ布クカ如キハ身分アル富裕ノ人ニシテ常人間ニハ見サル所ナリ窓ハ多ク高キニ失シ室内陰鬱空氣ノ流通宜シカラサレハ衛生ニ適シタルモノト云フヘカラス

家屋ニ二重又ハ三重ト稱スルハ二棟又ハ三棟ノ意義ニシテ譬ハ前面ニ一棟アリ後面ニ一棟アレハ二重ノ家ナリ而シテ此母家ヲ連接スルニ左右兩端ニ廂代ハリノ小屋ヲ建ツルアリ此小屋ハ廂房ト稱シ棟ヲ分ツモ重ニ算セス所謂廂ノ義ナラン於是母屋ト母屋トノ間ニ廂房ヲ兩側トナシ方形ノ空地ヲ存スルヲ見ル是即院子ニシテ盆栽ヲ排列シ我所謂庭ニ相當セルモノナリ通常二重三重ノ家ニ住スルハ無論富裕家ナルヘケレトモ商家ニ在テハ敢テ珍ラシキ事ニモアラスシテ前面ヲ店トシ後面ノ家屋ニ住スルヲ普通トナスカ故ナリ又人家ノ櫛比セル市街ニ在テ家ト家トノ間ニ煉瓦ノ牆壁アルカ是ハ防火用ノ爲ニ特ニ建造セルモノナリ

## ●第四章 氣候並ニ衛生

### ○第一節 氣 候

氣候ハ當地邊ニ在テハ春季雨多ク春ヨリ夏ニ入ルノ間寧ロ忽變ニシテ雪解ケテ雷鳴ト云フ程ニモアラサレト尙ホ春暖ト思フ中ニ暑氣俄ニ催フシ人ヲシテ衣服變換ニ狼狽セシムルコトアリ五月ニ於テ暑氣ニ入ルコトナルカ五六月ノ交炎熱ノ甚シキ日ハ七八回ニ過キサルヘケレト七八兩月ニ在テハ暑氣ノ高度ニ達シ殊ニ空氣ノ濕氣ヲ帶アルカ爲ニ其炎熱ヲ感ス

ル燠クカ如クナラスシテ寧ロ熱湯ニ蒸サル、カ如シ寒暖計ノ百度前後ニ達スルトキハ室内ノ器物血温ヨリモ暖ク之ニ觸ルレハ一種不快ノ温熱ヲ感ス斯ル事數日乃至一週間ニシテ温度八九十度ニ降リ比較的爽涼ノ天氣トナリ順次如此ニシテ九月下旬ヨリ秋ニ入ルナリ例年平均十一月末ニ至ルマテハ秋ノ季節ニシテ年内ノ好時季ナリトテ人ノ歡迎スル所ナリ秋分ニハ天氣清涼ニシテ雨少ナク空氣澄ミ直リテ亦乾燥セリ十二月ヨリ冬季ニ入り一二月ハ嚴寒ニシテ降雪多キハ此時季ナリ一回ノ降雪約三四寸乃至七八寸ニシテ數日間地上ニ雪ヲ止ムト云ヘリサレト三寒四温ノ譬ニ洩レヌ寒氣強ケレハ暖氣來リ寒暖往來スルモノ、如シ年内濕氣ノ甚シキハ春夏ニシテ乾燥セルハ秋冬ナリ濕氣アル季節ニハ室内ノモノ一トシテ白微ヲ生セサルナシ

管内ノ氣候ハ大略上述セルト大同小異ナルモ宜昌地方ニ在テハ四面高山ヲ繞ラシ夏稍涼シク冬又風當リノ少ナク爲メニ比較的暖氣ナリト云ヘリ襄陽及鄖陽地方ニ在テハ夏季雨多ク冬季積雪一尺ニ及フコトアルモ當地方ニ比シテ寒暖共大差ナキモノ、如シ又河南方面ハ北方ニ在ルカ故ニ寒氣凜烈積雪二尺餘ニ至ル地方モアリテ冰雪ノ交通ヲ害スルアリサレト春夏ハ當地方ニ比シテ雨水稍々少量ナリト云フ

左ニ參考ニ資スル爲メ三十八年一月十八日ヨリ十二月末日ニ至ル迄ノ沙市ニ於ケル氣温及雨雪量表ヲ掲ク

氣温並雨雪量表

氣温ハ攝氏寒暖計ニ依リ 雨雪量ノ單位ハ「ミリメートル」トス

月	氣 温			雨 雪 量
	最 高	最 低	平 均	
一	自十八日 至末日 五、六	〇、二	二、九	三三、五
二	五、五	〇、四	二、九	四二、五
三	九、九	五、二	七、五	九五、六
四	一七、四	一〇、七	一四	一〇五、六

五	月	三〇、八	二一、三	二六	一四七、七
六	月	三〇、七	二二、二	二六、九	三〇四、四
七	月	三三	二五	二八	一一五
八	月	三〇、二	二三、五	二六、八	一五三、三
九	月	二五、一	一九、二	二二、一	一一二
十	月	二〇、九	一四、九	一七、九	五一、六
十	月	一六、八	八、九	一二、八	四〇、六
十	月	八、九	四、一	六、五	四三、五

○第二節 衛 生 疏水、傳染病、種痘及醫師

衛生ハ個人ノ自營ニ任シ政府ノ施設ニ待ツモノナシ市街道路ノ敷石ノ下ニハ疏水溝アリテ汚物ハ自然河ニ流下ス而シテ街上ノ汚物ハ如何ニシテ疏水溝ニ入ルヤト云フニ雨水ノ一掃スルマテハ何人モ之ヲ取除クモノナク臭氣紛々トシテ衛生上有害タルハ勿論ナルヘキモ古來ヨリ慣レ來レル清人ニハ何等ノ感覺ナキモノ、如シ

傳染病及牛疫ノ流行ニ際シテハ何人モ豫防又防遏ノ方法ヲ取ルモノナク惡疫ノ蔓延ニ放任シ時日ノ經過ニ依リ自然ノ消滅ヲ待ツノミナリ、サレハ夏向虎刺刺又ハ赤痢ノ類流行シ多數ノ死亡者ヲ生スル時ニ在リテモ果シテ何種ノ病症ニ屬スルヤ之ヲ断定スルノ醫師モアラサレハ又此豫防法ヲ強行スルノ規定モナク外人ノ爲メニハ危險千萬ノコトニシテ唯各自ノ注意ニ依リ感染ヲ免ル、ノ外ナシ

種痘ノ便益ハ清人ノ認ムル所ニシテ一般ニ行ハル、コトナルカ何人カ之ヲ施サヤト云フニ多ク善堂ノ行フ所ナリ善堂トハ慈善家ノ捐金ニ依テ成立シ慈善事業ヲ行フ目的トナスモノニシテ沙市ニ四ヶ所アリ、善堂内ニ醫師アリテ隨時人ノ

需メニ應シ無報酬ニテ種痘ヲ施セリ種痘ヲ爲スト爲サ、ルトハ個人ノ自由ニシテ何等強制法ノ存スルナキモ今日ニ在テハ種痘ノ便益ニ依ラサルモノナシ最モ善堂ノ醫師ニ非ラサルモ種痘ノ技ニ熟達スル醫師ニ就キ有錢家ノ其施術ヲ需ムルハ隨意ナレト多ク善堂ニテ爲スヲ普通トセリ

醫師ハ父子業ヲ傳フルヲ世醫ト云ヒ儒者ニシテ醫業ヲ兼ヌルヲ儒醫ト云フ此外時醫ト稱スルモノアリ新式ノ方法ニ依リテ醫藥ヲ業トスルモノ、謂ヒナリ醫業ヲ開始スルハ個人ノ自由ニシテ官ノ特許ヲ要セス又一定ノ學歴ヲ有スルモノニシテ始メテ醫師タルヲ得等ノ規定モ存セサレハ醫師ト稱スルモノミニシテ貴重ノ生命ヲ托スルニハ危險ナリト云フヘシ診察料ハ一回百文ヨリ四百文ノ間ニシテ醫師ノ聲價ニ依テ料金ヲ異ニセリ

### ●第五章 貿易

#### ○第一節 貿易上沙市ノ地位

沙市貿易ノ多少ヲ税關統計表ニ依リ算定セントスルハ誤レルモノニシテ出入貨物數量ノ全部統計表ニ上ラサルハ勿論其品名スラ統計表ニ上ラサルモノ少ナカラス是等ハ釐金局ヲ經由シテ出入スルモノニシテ四川方面へハ長江ノ便アリ又漢口方面へハ便河ニ由ルノ便アリテ民船ニ依テ貨物ヲ上下シ税關ヲ經由セサルモノ少ナカラス又河南、湖南及南清地方トノ貿易モ釐金局ヲ經由スルモノ多キヨリ到底税關統計表ノミニ依リテ當港ノ貿易ヲ測定シ能ハサルナリ

當地方ヨリ本邦向重ナル商品ハ棉花及木蠟ニシテ大豆ハ其質好良ナラサルタメ氣受宜シカラス荆州府沿江一帶ノ地方及其附近ヨリ産スルモノ毎年十餘萬石ニテ此中漢口へ輸出スルモノ約五萬石ナリト云ヘリ種粕、油粕、胡麻粕ノ類モ亦本邦向商品ナリ當地方ニ集散スル棉花、年ノ豊凶ニ依テ一定セサレトモ普通ノ年柄ニ在テハ約八萬包ナルモノ、如シ木蠟ノ集散モ亦年ニ依テ消長シ昨年ノ如キハ蠟質ノ成果非常ニ好良ナリシ爲メ當港ニ取引セラレタルモノ約二萬擔ニ上リタ

ルカ此ハ稀有ノ例ニシテ近年ニ在テハ八九千擔ノ間ニ在ルモノ、如シ、サテ八萬包ノ棉花ト八九千擔ノ木蠟トノ賣買ヨリ生スル利益ハ少ナカラサルヘク而シテ其利益ハ外國貿易業者ニ歸スルカト云フニ賣買ノコト案外複雑ニシテ棉花ハ四川へ向ケ輸出セラル、モノ多シ四川省ニ在テハ阿片栽培ノ爲メ棉花ヲ産出セサル故當地方ノ棉花ノ爲ニハ好市場タリ又木蠟モ上海及漢口ニ分店又ハ代理店ヲ有スル清商ニ少ナカラス需用セラレ本邦商人ノ一時ニ買収セントスルモ案外ニ品拂底ナルコトアリ漢口へハ當地ヨリ廻送スル木蠟ノ外四川ノ産地及湖北省中長江河岸ノ産地ヨリ直送スラ以テ相場モ一擔ニ付銀四五錢ノ差アルノミニテ一兩ノ差アルハ稀ナリ此中ヨリ漢口ニ至ル運賃銀一錢三分ト手數料トヲ控除セザルヘカラス元來當港ハ棉花ト木蠟ノ集散上他地方ニ讓ラサル所ニテ而シテ此二品ハ本邦向輸出ノ好商品タルニモ拘ハラズ本邦商人ノ當地ニ在テ當港ノ發達ト同一ノ進歩ヲ爲シ能ハサルハ多少上述ノ意味合ニ依ルモノト思ハル

翻テ本邦ヨリ當地向賣込品ノ如何ヲ稽フルニ棉糸市場ハ本邦系獨占ノ姿ニテ第一位ニ屬シ其他雜貨品モ漸次擴張ノ見込アレトサテ其賣上高ヲ以テ代リ品ニ棉花、木蠟又ハ油粕類ヲ購入ストセンニ是等ノ商品ハ亦在漢口商人ノ需用スル所ニテ漢口ト當港トハ目睫ノ間ナレハ隨時出張員ノ買出シニ來ルアリテ競争上所要ノ品量ヲ得難キ場合アリ又賣上高ヲ爲替トシテ本邦へ送付スルニハ不當ノ爲替手數料ヲ支拂フタメニ利益ノ幾分ヲ烏有ニ歸セシムルアリ次ニ内地ニ在テ賣買ヲ爲スモノ其他ノ商習慣ニ從フヘキコトナルカ當地ニ於ケル商習慣ト本邦ニ於ケルモノトハ無論同一ナラサルモノアリ金錢ノ授受上一定期日ヲ定メナカラ違約セル場合ニ裁判上ノ救済ヲ求ムル如キハ當地商人ノ最忌憚スル所ニシテ期日ニ幾分ヲ納ムレハ殘餘ハ精算期ニ繰リ延ヘ已ムヲ得サレハ又順延ノ姿ナル故本邦ニ於ケル會社組織ニシテ一定ノ社則ヲ有スルモノニ在テハ方圓相容レサルノ點モアレハ當地ニ商業ヲ營マントスルモノ此邊ノ事情モ斟酌セサルヘカラス

貨物集散上内地貿易ノ點ヨリ見レハ當港ノ如キハ重要ノ一地方ニシテ開港以來長足ノ進歩ヲ爲シ附近市場へノ供給上大ニ取引ヲ増加シタルノミナラス洋貨物中四川ニ對シテ亦集散ノ中心點トナレルモノアリ最モ清人ノ商權ヲ外商ニ移ス如キハ至難ノコトナルヘキモ商賣ノ方法ニ依テハ望ヲ屬シ得ヘキノ點少ナカラス

○第二節 漢口及上海トノ貿易

漢口及上海トノ貿易品ハ輸出共本節第六項ニ掲クル品目ノ全部ヲ包含シ特ニ掲記スルノ要ナシ又當港ノ貿易上物々交換トナスノ有利ナルハ既ニ記述セル所ニシテ上海又ハ漢口ヘ木蠟藥材ヲ輸出シ其替リ品ニ海產物ヲ輸入スルモノアリ牛皮及ヒ羊皮ヲ石油ニ換フルモノアリ又四川ノ阿片ニ對シテ洋貨物ヲ得ルモノアリ又更ニ印度ノ阿片ヲ輸入スルモノアリ是等商人ノ店名ヲ舉クレハ上海ニ代理人アリテ漢口ニ分店ヲ有スルモノ洋雜貨商ニ在テハ春生全、廣發仁及廣聚源海產物商ニ在テハ孔同義及ヒ同春和ニシテ阿片商廣嘉合及祥豐厚金細工商天寶、同震及九華ハ上海及漢口ノ兩所ニ分店ヲ有シ又絹物商久章、同豐及ヒ同吉牛皮商永泰福ハ漢口ノミニ分店ヲ有セリ又漢口及上海ノ商人ニシテ當地ニ分店又ハ代理人ヲ有スルモノアリ

○第三節 四川トノ貿易

四川トノ貿易ハ四川商人ノ貨物ヲ携ヘ來リ當地ニ賣リタル代價ヲ以テ需用ノ商品ト交換シ去ルモノニテ一段民船ニテ上下スルヲ常トセリ四川ヨリノ輸入數量ハ年柄ニ依リテ消長スレトモ概シテ一年內ノ輸入高ハ川鹽ト稱スル四川產ノ鹽約二百二十斤入ノモノ年內三十二三萬包阿片一萬擔(最モ其一擔ト稱スルハ普通十六貫目前後ナルニ反シ當地ノ量目千兩ノ謂ニシテ我カ九貫七八百匁ニ當レリ)萬縣及重慶附近ニ產スル赤砂糖百四十餘斤入ノモノ三萬餘桶、四川嘉定府產ノ白蠟千支、每支六餅其重量百五六十斤、藥材ハ川芎、黃連、陳皮、木香、桂皮、大黃、貝母、獨活、姜黃、桔梗ニテ大包四百斤小包百餘斤入ノモノ通計七八千包雲南、貴州產ノ生漆百斤入二千餘桶三百餘斤入木蠟千二三包川糊綿ト稱スル四川產ノ紋縮緬二千餘匹ニテ當地附近ノ市場ニ供給スル外鹽及赤砂糖ハ湖南及河南地方ニ再輸送シ又木蠟、生漆、藥材、白蠟及阿片ハ漢口又ハ上海ヘ向ケ轉賣セリ上記ノ輸入ニ對シ其替リ品トシテ四川ヘ向ケ外出スルモノハ當地方農

家ノ機械ニ係ル經緯共十六手又ハ緯ニ土紡糸ヲ織リタル白木綿幅一尺一寸長三丈八尺物此每捲百反又ハ五十反及幅一尺九寸五分長二丈六尺此每捲三十四反ニシテ通計六萬捲アリ河南省懷慶府及河南府產ノ藥材甘草地黃牛膝白芷等大四百斤小包斤入ニテ通計四千包棉花五六萬包應城縣產ノ石膏三萬餘擔鹽魚即鯉魚ノ鹽漬大桶四百斤小桶百斤以上入ニテ三四萬擔其他石油等ナリ

註 捲トハ包裝ノ名稱ニテ白木綿ヲ適當ノ幅ニ折疊ミ所要ノ反數ヲ重テ其上ヲ白木綿ニテ包ミ麻繩ニテ緊束セルモノナリ

○第四節 湖南トノ貿易

湖南地方トハ水路交通ノ便自由ナレトモ商業ハ多ク漢口ノ取引範圍ニ屬シ當地地方トノ商關係大ナリト云フヘカラス當地方ヨリ湖南ノ津市、常德、澧州、宜陽、長沙、湘潭ヘ向ケ輸出スルモノ四川鹽一萬六七千包赤砂糖三四千桶洋砂糖二千餘包巴木綿三千餘捆漆器千餘捆ニシテ此代リ品トシテ湖南地方ヨリ來ルモノ材木銀十萬兩、竹一萬兩、苧麻四千餘擔、秀油三千餘桶、石鹹五千餘擔及宜陽、桃源近港、昌港邊ノ米十五六萬石ナリトス

○第五節 河南トノ貿易

河南トハ水路交通ノ便ナク多ク驢馬ニ依テ運搬スルコトナルカ河南ヨリノ運入品ハ六十斤入り汾酒四五千罇條粉トテ蠶豆ノ粉ニテ作り長素麪ノ形ヲ成シ「スーブ」ニ入ル、カ又ハ雞豚肉ニ和シテ混食スルモノ二千餘擔狐、羊及灰狐皮計二百擔每捆百個ノ麥葉帽子千個紅棗四百餘包又當地ヨリ運出品ハ四川產ノ藥材二千餘包及ヒ赤砂糖七千餘桶等ナリ

○第六節 南清地方トノ貿易 (上海ヲ除ク)

南清地方トノ貿易モ水路ニ依レルモノニテ蘇、杭州ヨリ絹反物二千餘匹廣東ヨリ扇子三百餘箱廣東及建昌ヨリ雜貨三千箱ノ輸入アリテ當地ヨリ運出スルモノハ廣東、福建ヘ生絲三十餘擔蘇、杭州ヘ白蠟、黃蠟及五倍子若干廣東ヘ色木綿千担蘇、杭州ヘ皮油三千餘擔ナリト云フ

○第七節 稅關統計表

左ニ明治三十六年ヨリ同三十八年ニ至ル四年間ノ輸出入重要品ヲ掲ケテ參考ニ資ス此中當地方ニ於ケル年柄ノ最好良ナリシハ三十六年ナリト云ヘリ又本表ハ稅關統計表ニ依レルモノニテ釐金局ヲ經由シテ出入スル貨物ヲ含有セス

品名	單位	三十八年	三十七年	三十六年	三十五年
阿片	擔	二二	二六	三一	一〇
「マ」ル「ワ」	擔	三七	四一	三四	一四
木綿類	反	三三、三四二	四七、〇七〇	五四、五五九	四四、二一〇
生金(巾米)	反	二、八二〇	一、一六〇	二、四〇〇	一、三三三
同上(上英)	同	一、三六〇	一、九二〇	一、八八〇	一、五六〇
粗布	同	二六、八九〇	三九、四七一	四〇、六八〇	三〇、九六二
雲齊布(米)	同	二二〇	一、〇二〇	一、一七五	五六〇
天竺木綿	同	五、一一六	九、八二二	一一、一三〇	八、〇三二
更紗	同	一七、八五二	一七、六九七	二四、三五六	一八、七七七
色木綿	同	一、〇七一	一、九一四	一、八一六	一、四三〇
「フランネル」	打	一、六五七	一、九三〇	八六五	九七三
「ハンカチーフ」	擔	六、八一五	一三、三四七	一九、六八七	六、九〇九
毛織物	反	五〇〇	五九〇	八五〇	七三〇
吳縐(英)	同	二六〇	二〇〇	五六〇	五四〇
羅紗	同	七四一	八九五	一、三六五	九四〇
羅世伊多	同	四〇六	三四三	三三一	三一九
金屬類	同	四三七	七九一	八一二	六五二
鐵線(釘製用)	同	三〇〇	一、六五四	一、三七〇	六六四
雜品	個	四、三〇二	九、四四四	八、四一四	四、八八四
綿線機械	同	八五	八八	一二五二	五六八
染料	同	一	六、〇〇〇	二二、八五〇	八、二二〇
石油(米)	同	一	一	一一、二〇〇	一
同上(露)	同	一	一	一	一
胡椒	擔	二七三	五〇八	五九九	三三二



ノ漁季モ舊十、十一、十二月最モ盛ニシテ又四民一般ニ最大祝日タル正月ヲ迎フルノ準備ヲ爲スコトナレハ秋冬ハ雜穀、雜貨、油、魚類、吳服、染物商ニ至ルマテ繁忙ノ季節ニ屬シ最モ多ク銅錢ノ需用ヲ喚起スルコトナレハ例年此季節ニ入り價格ノ昂騰スルヲ常トセリ

○第二節 輸入品説明

左ニ當港ノ輸入ニ係ル本邦産品ノ説明ヲ爲スヘシ

綿糸

(一) 綿糸ハ印度並支那紡績糸共同番手中、太、細、不同アリ又其質脆弱ニシテ切斷シ易キヨリ市場ニ排斥セラレ本邦綿糸獨占ノ姿ニテ漢口ヲ經由シテ輸入シ來ルモノ多シ番手ハ何レモ十六手ニシテ織布ノ經糸又ハ經緯共ニ使用セリ藍魚、立馬一時好評ヲ博シタルカ當時ニ在テハ雙喜、舟美人歡迎セラレ殊ニ舟美人ノ如キハ品質價格共當地向格好ノ品ナリトテ賣口最宜シト云ヘリ稅關統計表ニ依リ揭示セルモノ、外民船ニ依リ釐金局ヲ經テ輸入セラル、モノ少ナカラズ

綿布

(二) 綿布ハ何レモ縞物ニテ上海ヲ經由シテ輸入セリ男女共衣服用ナルカ婦人ノ掛子ト稱スル上衣ニ製スルモノ多シ大體ヨリ見レハ當港ニ於ケル需用ハ未タ稱スルニ足ルモノナク年内三百反ヨリ六七百反ノ間ニアリト云ヘリ

綿「フランネル」

(三) 綿「フランネル」ハ米國製品ニ壓倒セラレ此三年間本邦品ノ輸入セラレタルヲ見ス是レ肉薄ニシテ耐久性ニ乏シキカ故ナリトコトナレハ當業者タルモノ反省セサルヘカラス

海産物

(四) 海産物中海參ハ上ヲ青虫參ト云ヒ一擔百二十兩中ヲ刺參ト云ヒ一擔九十兩位ニテ三十兩ノ差アリ多クハ上海ヨリ來リテ漢口ヲ經由スルモノ少ナシ年内ノ需用百三四十擔ヲ越ヘス昆布ハ板昆布ヲ海帶皮ト云ヒ剝昆布ヲ海帶糸ト云フ料理法ハ共ニ肉汁ニ和スルコトナルカ板昆布ハ又鶏、豚肉ニ和シテ混食スルコトアリ剝昆布ノ輸入高約二千箱板昆布ハ二千七八百担島賦ハ當地ニテ墨魚ト稱スルモノニテ年内ノ消費高約八九十擔海月ハ本邦産ナリト稱スルモノアレ

ト思フニ廣東邊ノ産ナルヘク其價モ一擔六兩ニテ剝昆布ノ價ト同一ナルモノナレハ需用多クシテ一年二千擔餘ヲ輸入スト云フ

砂糖

(五) 砂糖海産物商、雜貨商及料理店ノ賣買スル處ニシテ上海ヨリ來ルモノハ漢口ヨリ來ルモノヨリ多ク總テ稅關ヲ通過シ來ル故ニ年内ノ消費高ハ表ノ示ス所ナリ

石油

(六) 石油ノ輸入高五千箱以上一萬箱ナルニ拘ハラス此ノ二三年間稅關統計表ニ記入ナキハ危險物ナリトテ汽船會社ニ於テ積荷セサルヨリ釐金局ヲ經由スルカ故ナリ多クハ米油ニシテ露國産ハ一箱二三百文ノ安値ナルモ品質ノ不良ナル爲メニ需用多カラス

時計

(七) 時計ハ一般ニ之ヲ使用スル程度ニ達セス寧ろ室内ノ裝飾品ト爲スモノニテ年内ノ輸入高八百個乃至千個ナリ

洋傘

(八) 洋傘ハ上海ヨリモ漢口ヨリ輸入セラル、モノ多シ當地人ハ之ヲ兩傘ニ使用セスシテ日傘ニ使用スルコト本邦ノ往時ニ異ナラス其輸入高ハ八千本ヨリ一萬本ノ間ニアリ

上記輸入貨物ハ當地附近ニ於ケル市場ノ需用ヲ充タヌ外松滋、公安、監利、華溶、河溶、遠安、枝江、石首、宜都、荊門州、當陽、沙洋地方ニ供給セリ

○第二節 輸出品説明

木蠟

(一) 木蠟ハ所謂蠟樹ノ實ヨリ製スルモノニテ製蠟ノ原料ナリ其實ハ舊九月ニ成熟シ例年舊十一、十二、一、二月ハ當地ニ於ケル木蠟集散ノ季節ナリ最モ信スルニ足ルヘキ當業者ノ談ニ依レハ巫山ハ平年千七百擔巴東ハ一千六七百擔施南ハ六百餘擔鶴峯州ハ五百餘擔大林廠ハ二千餘擔萬縣ハ一千八百餘擔興山ハ二千七百擔歸州ハ二千餘擔長陽ハ二千七百餘擔長樂ハ約二千擔ヲ產出スト云フ

棉花

(二) 棉花ノ產地中平年産額ノ稍信ニ近キモノヲ舉レハ監利縣一萬包、公安縣三千包、江陵縣五千餘包、沔陽州一萬餘

包、天門縣五千包、江澧縣千四百包、松滋縣一萬包、枝江縣二萬三千包ニテ沔陽、監利、枝江産ノ品質稍良好ナルモノ、如シ此中沔陽州及天門縣産ノ棉花ハ漢口ニ運出スルモノ多シト云ヘリ尤沔、陽州ハ棉花産地トシテ相連續スルカ故ニ之ヲ併記セルノミニテ漢口ノ管下ニ屬セリ

植物性諸油

(三) 植物性諸油中麻油ハ原料胡麻ニテ食用トナス最多シ燈火及頭髮ニモ使用ス當地ニ於ケル製造高一萬五千餘擔近郷ヨリ運入スルモノ六千擔菜油ハ原料菜種ニテ用途ハ麻油ニ同シ當地ノ製造高ハ二千餘擔近郷ヨリ運入スルモノ二千擔棉油ハ原料棉實ニテ食用トナス當地ニ於ケル製造高甚タ多カラス近郷ヨリ運入スルモノ四百擔榨油ハ原料榨ノ核仁ニテ燈火用タリ沙市ノ製造高千餘擔近郷ヨリ運入スルモノ千七百八拾擔皮油ハ原料榨實ノ外皮ニテ製蠟ノ原料ニ交ヘユ當地ノ製造高二千餘擔近郷ヨリ運入スルモノ七八千擔木油ハ原料榨實ノ内肉ニテ附近地方ヨリ來沙スルモノ二萬餘擔製蠟ノ原料タリ一見白色ヲ呈シ恰好ノ原料タル如キ觀アルモ暑氣ニ遭ハハ溶解シ易ク耐熱性ニ乏シ桐油ハ原料梧桐ノ實ニテ木器具及板壁ノ塗用タリ夔州、萬縣、巫山等ニ産ス毎年來沙一千餘擔秀油ハ湖南省、辰州及秀山縣ニ産ス故ニ此ノ名アリ常德ヨリ來ルモノ年内約一千桶ナリ

藥材

(四) 藥材ノ當地ニ來ルモノハ四川及河南産ニテ既ニ詳述セリ

五倍子

(五) 五倍子ハ巫山、巴東、施南、興山、鶴峯、長陽、長樂地方ニ産シ當地地方ニ來ルモノ年内約四千餘擔アリ

黃蠟

(六) 白蠟及黃蠟中既ニ白蠟ヲ説明セリ黃蠟ハ巫山、巴東、施南、興山等ノ地方ニ産シ沙市ニ來ルモノ三百餘擔アリ

菜餅及麻餅

(七) 菜餅及麻餅ハ種粕及胡麻粕ニテ當地ニ産スルモノ麻餅三萬六千擔菜餅ハ九千擔アリト云フ又別ニ當地附近ヨリ來ル外當陽、江口、董市及陽谿邊ヨリ運入スルモノアリ當地ニ於ケル消費ノ殘餘ハ更ニ湖南及漢口ヘ向ケ輸出セラル

生糸

(八) 生糸ハ當陽地方ヨリ當港ニ運入スルモノ年内約一千擔アリテ同地方ノ生糸ハ二百四十匁ヲ以テ一斤トナセリ此他ノ地方ヨリ來ルモノハ何レモ少量ニシテ宜都、枝江、江口、萬城、馬山、李家埠、彌陀寺、董市ニ出ツルモノ通計三十餘擔ニテ一斤ヲ算スルニ二百七十匁ヲ以テスト云ヘリ當地ニテ荆州蠶子及其他ノ絹織物ニ使用セラル、外ハ江西、

牛皮

廣東、福建地方ヘ向ケ輸出セリ

(九) 牛皮ハ牛ノ病死又ハ老死セルモノヨリ得ルノミナレハ年ニ依リテ産額ノ不同アルヲ免レズ當地地方ニ在テハ回教徒ノ外牛肉ヲ食セサル故屠牛スルコト稀ナルニヨリ當地近郷ヨリ來集スルモノ年内水牛皮及ヒ黃牛皮ヲ合セ三四千擔ナルハ寧口好良ナル年柄ニシテ少ナキハ一千擔前後ニ止マルアリト云フ

○第四節 各種商人ノ住所及店名

左ニ參考ニ資スル爲メ當地ニ於ケル主ナル各種商人ノ住所及店名ヲ掲ク

種別	店名	住所
茶	同慶	沙市九十舖街
木蠟漆油苧麻商	德昌	大程街
藥材商	恆春	九十舖街
牛皮商	永泰	便河街
海產物商	同春	青石大街
玉器商	朱光	城隍廟街
銅器商	傅永	大堤街
鐵器商	王致	便河口
金銀器商	同震	青石大街
錫器商	汪全	三府街
棉花商	泰昌	九十舖街



第九卷 第六章 商業

紙類製品商	程義和	同	三府街
扇子團扇商	張潤興	同	七里廟街
玻璃器商	張泰源	同	糸綿街
磁器商	支茂盛	同	藍田巷街
刷具商	支復順	同	三叉路街
農具商	邱復順	同	青龍觀街
漆器商	傅福勝	同	施船埠街
鈕扣商	高天泰	同	七里廟街
帽子商	大吉祥	同	青石大街
木製家具商	梁永興	同	三府街
皮製品商	唐恒泰	同	青石大街
絹布商	久恒章	同	同
羊皮商	永全順	同	同
米及大豆商	慶昌遠	同	劉家場街
大豆粉坊	孫長泰	同	李公橋街
麥粉坊	趙永順	同	黑水塘
砂糖商	萬永元	同	七里廟街
生糸商	張豐盛	同	絲線街
紡織商	日興恒	同	三府街

四一四

石炭商	楊萬興	同	大堤街
煙草商	鄭輝茂	同	青石大街
酒類商	麟興柏	同	七里廟街
洋傘商			
玩具有			
石鹼商			
染料商			
毛織物商	廣發仁	同	青石大街
花布製			
綿布製			
時計			
浴巾			
其他洋雜貨			

○第五節 商習慣

取引習慣、清算期、破産、休日、夜業、依託賣買、利益配當、

商取引ニハ期賣ト現銀トアリ期賣トハ商品ノ授受後一定ノ期日ニ至リ代價ヲ交付スルモノニテ現銀トハ代金引換ノ賣買ヲ云フナリ概シテ云ヘハ輸入品ニハ期賣多ク輸出品ニハ現銀ノ取引ノミナリ期賣ニハ多ク三十日又ハ四十五日目拂ヒナ  
ルガ是トテ商人間一般ノ規定ニアラサル故相互ノ契約ニ依リ期限ヲ長短シ得ヘシ食料品ノ賣買ニ期限ノ長キハ三ヶ月ニ

巨ルアリト稱スルモノアレトモ如此ハ商賣ノ敏活ヲ防害スルノ甚シキカ故當時ニ在テハ名ノミアリテ其實存セサルモノ、如シ綿糸ノ例ヲ舉ケンニ同品ハ受荷後四十五日拂ニテ期日前ニ代價ノ授受ヲナサントスルトキハ相當ノ利子ヲ控除スルヲ普通トセリ又期日ニ至リ支拂ノ遲滞スルアラハ月一分二厘ノ利子ヲ付スルコトナルカ實際之ヲ強行セスシテ多クハ期日ニ七分金ヲ收メ殘餘ハ清算期ニ支拂フモノ、如シサレト棉花、木蠟其他ノ輸出品ヲ購入スルニハ現銀取引ノミニテ就中棉花、菜種、胡麻及ヒ油粕類ノ取引ニハ競争上定期買買ヲ爲スモノ多ク假令ハ十月ニ入り新棉花ノ熟スルトセンニ七八月ノ頃ヨリ十月荷受渡ノ約束ニテ一定ノ相場ヲ立テ、賣買スルナリ而シテ其際手付金トシテ半金又ハ三分一金ヲ交付ス此豫定相場ハ事後ノ變動ニ依リ上下スヘキニアラサル故相場ノ騰貴スルカ又ハ案外品不足ノ場合ニハ義務ノ不履行ヨリ悶着ヲ生シ易キノ憂ヒアレハ契約ノ當時當事者ノ信用ニ注意セサルヘカラスサレト木蠟ニハ定期買買ナク現銀引換法ニテ約束上期限ヲ付スルアルモノ一週間ヲ越ヘスト云ヘリ

清算期ハ舊五月、八月、十二月ニシテ五月、十二月ハ半歲ト一年ノ決算期ナレハ商人間ノ重視スル所ナルカ其最モ重要ナルハ十二月ナリ

破産ニハ管財人ヲ定ムル等ノ規定ナク故意倒産ノ外官廳ノ關係スル所ニアラスシテ到底負債返還ノ見込立タサル場合ニハ債主ヲ集メテ其合議ヲ求メ自己ノ財産全部ヲ擧ケテ償還ニ充テタルトキハ其財産ノ多少ニ關セス義務ヲ完了セルモノニテ事後又債務ヲ負擔セサルモノナリ最モ今後同一商賣ヲ營ミ能ハサルモ特別ノ營業ニ從事スルハ其自由ナリト聞ケリ當地方ニ在テハ父子別居スル場合ニ子ハ父ノ負債ヲ償還スル義務アレトモ父ハ子ノ負債ニ對シ何等ノ關係ヲ有セスト云ヘリ奇ナル習慣ト云フヘシ

休日中當地ニ在テ商業ヲ休止スル程ノ祝祭日ハ舊正月、五月節句及八月十五夜ニシテ節句ト十五夜ハ休業スルモアリ開店スルモアリ午前中營業スルヲ多數ト爲スモノ、如シサレト正月ハ大小商家共十五日間ハ招牌ト稱スル商號ノ看板ヲ取入ル、ヲ常トセリ最モ商賣柄ノ如何ニ依リ二日ニ開業スルモノアリ是ハ茶館トテ飯屋ニ類似スルモノナリ又三ヶ日ヲ經

テ開業スルモノハ藥種屋、食料品商、雜貨商ノ一部ニテ七日ヲ越ユレハ吳服商ニ至ルマテ店舖ヲ張ラサルマテモ買買ヲ開始スルモノ少ナカラス唯大商店ニ至テハ十五日間全ク門戸ヲ閉チテ營業セサルヲ常トセリ最モ營業セサレハトテ歡樂ニ日ヲ送ルニアラスシテ其内部ヲ窺ヘハ商品ノ仕入等本年度ノ商業ヲ講スルニ忙ハシキモノ、如シ

本邦ニ在テハ小僧及番頭ノ數入ト稱スルモノアリ當地ニモ亦同様ノ事アリテ年内舊三月清明節及七月盂蘭會ノ兩度ニハ商店内ノ小僧番頭連相互交替シテ休養日ヲ得ルト云フ

夜業ハ商賣柄ニ依リテ爲サ、ルモアリ其之ヲ爲スハ内外雜貨店、飲食店、藥種商等ニテ夜十二時頃マテ營業セリ

依託賣買中隔地者ヨリ貨物ヲ依託スルハ少數ニシテ多クハ自身ニ貨物ヲ携ヘ來リ問屋ニ寄食シテ其賣買ヲ依託スルナリ問屋ノ口錢ハ買主ヨリ千分ノ三賣主ヨリ千分ノ二ヲ得ルノ例規ナレトモ貨物ノ多少ニ依リ當事者ノ契約上其比例ヲ上下スルコトアリ而シテ此方法ニ依リ賣買セラル、商品ノ重ナルモノハ阿片、紙、木炭、石炭、油類、内國產雜貨等ナリ利益配當ハ年末ノ清算期ニ行ハル、モノニシテ年末ニ至リ主人ハ純益ノ幾分ヲ割キ店員總體ニ分與スルコトナルカ其割合ハ支配人四、次位ニアルモノニテ其他ハ按分比例ノ法ニ依リ給與セリ最モ配當ノ多少ハ主人ノ手次第ニシテ一定ノ標準アルニアラサレハ店員ハ無論之ヲ強請スルヲ得サルナリ又銀行、錢舖、内外雜貨店、吳服商、海產物商等ノ大ナルモノニ至テハ支配人又ハ副支配人ヲ傭聘スルニ當リ利益配當額ヲ約定スルモノ多ク商賣ノ種類及主家信用ノ如何ニ依リ其率ヲ異ニシ一定セサレトモ多クハ千分ノ五ヨリ二十ニ至ル間ナリト云ヘリ斯ル商家ニ在テハ其他ノ雇人ニ對シテハ年末ニ押歲錢ト稱シ二三圓ヨリ五六圓ノ歲暮ヲ給スルノミナリト云フ

○第六節 報關行

報關行トテ商人ノタメ稅關手續ヲ代辦スルノ機關ハ稍大ナル商港ニ見ル所ナルモ當地ニ在テハ賣買ノ大ナラサル上出入貨物ノ稅關ヲ經由セサルモノ少カラサル故特ニ報關行ヲ設置スルノ必要モナク四五年前漢口ヨリ來リテ此營業ヲ開クモ

ノアリタレト數月ニシテ閉店セリ而シテ税關手續ノ代辨ハ當時ハ各汽船會社ノ爲ス所ニシテ手數料ハ商品價格千弗ニ對シ一弗ノ割ナリト云ヘリ

○第七節 特許營業

特許營業トテ行政上監督ノ必要アルカ故ニ此區別ヲ立テタルニアラスシテ當地ニ於ケル今日ノ姿ニテハ單ニ一種ノ開業税ト見做シ得ヘキモノヲ徵收スルタメニ設ケタルナリサレハ請帖銀ト稱シ特許狀ニ對スル一定ノ料金ヲ收ムレハ何業ニ從事スルモ個人ノ自由ニシテ而シテ其請帖銀ヲ要スル商賣ハ賣買ノ種類及性質ニ基カスシテ其大小ニ由レルモノ、如シ故ニ同種ノ營業ト雖トモ卸賣業者ニハ請帖銀ヲ要シ小賣業ノ開店ニハ之ヲ要セサルナリ唯其例外ト見做シ得ヘキハ銀行及錢屋ハ業務ノ大小ヲ論セス自由營業トナシ質屋ハ一般特許營業ノ部ニ屬セル如キアルノミ商號ニ行ト稱スルハ必スシモ卸賣商ノ意義ニアラスシテ一行ノ業ニ從事スルノ意ニ過キサル故小賣商ヲ目シテ行ト稱スルモ強チ不當ニアラサルモ慣習上行トハ卸賣又ハ問屋業者ヲ指示スル語トナレリ而シテ特許ヲ要スルハ此種ノ營業者ニ多シ左ニ其特許料ヲ掲ク典賞(質屋)、鹽行、木貨雜貨行、土行、(阿片商)ニハ千餘串文(一串文ハ銅錢千文)ヲ要シ竹子行、生絲行、花行(綿商)布行、土棉紗行、煙草行、米行、雜糧行、芝麻行、(胡麻商)、藥材行ニハ五百餘串文紙行、煤炭行、馬行、牛行、猪行、果實行、瓦器器行、魚行、羊行、船行ニハ二百餘串文ヲ要スルコトナルカ同一種ノ營業者ニ在テモ業務ノ大小ニ依リ其率ヲ異ニスト云フ

●第七章 工業

○第一節 煉瓦 瓦 沙市郊外

位地 煉瓦及瓦製造所ハ當地ヨリ六七清里程下流ノ窪灣ニ在リ密トハ瓦ヲ燒ク竈ノ義ニテ此地古來ヨリ竈場タルノ故此名稱アリ

製造高 竈ハ大小共計十三個ニテ一竈ノ燒上高一回七百擔ヨリ千二百擔ノ間ニ在リ而シテ每竈月一回製造シ得ルコトナルカ夏向炎熱強キ時ハ焚火ノタメ衛生ヲ害ストテ舊六七月中ノ一部休業シ又十一月以後ニ在テハ寒氣ノタメ泥土凍化シ製造ニ便ナラサルカ故ニ一月中旬マテ休業スル由ナレハ年内ヲ平均シテ計十萬餘擔ナラント云ヘリ

原料 煉瓦及瓦製造用ノ原料タル泥土ハ周圍ノ地質皆之ニ適シタルモノ故便宜採掘シテ原料トナセリ  
製造品ノ種類 煉瓦四十個一擔ニテ百六十文同十個一擔ニテ百二十文以上ハ品質上等ノ分ニテ外同六個一擔ニテ一個十五文宛十二個一文ニテ同七文宛二十二個一擔ニテ同四文宛ノ建築用煉瓦ト又屋根用百六十枚一擔ノ小瓦百六十文ノ分トヲ製造セリ此中六個一擔ノ煉瓦ハ外人向ニテ清人ノ使用セサル所ナリ上記ノ直段ハ竈場渡ニテ之ヲ江上沙市ニ運搬スルニハ每二百擔二串五六百文ヲ要スト云ヘリ屋根用瓦ト建築用煉瓦トノ製造割合ハ相互約半數ノ由ナリ

製造方法 最初泥土ヲ粘リテ木子ト稱スル木製煉瓦又ハ瓦燒形ニ入レ之ヲ竈内ノ容積ニ達スルマテ詰込ミ火ヲ入レテ後封門トテ竈口ヲ閉塞スルナリ燃料ハ薄及蘆荻ノ類ニテ降雨ナケレハ六日ニテ燒上ル時モアリ又天氣都合ニ依リテハ十日ヲ要スル時モアリト云ヘリ燒ケタル後ハ酒水トテ竈ノ上部ヨリ水ヲ注キ入レ土ノ柿色ニ燒ケタルモノヲ黒ニ變色セシムルナリ然ル後ニ竈口ヲ開キ冷却セシムルコトナルカ之ニ三四日ヲ要シ全部ニテ十二日乃至十五日ヲ要スト云ヘリサレト新規燒形ノ詰替等ニ時日ヲ消費シ一竈ニテ月一回製造シ得ルノミナリ

工人ノ賃銀及經濟 工人中高給ヲ得ルモノハ燒竈ヲ爲スモノニテ月三串五六百文又泥土ヲ粘リ燒形ニ入ル、モノ其他雜用ヲ爲スモノハ月二串五六百文ニテ食物ハ主家ノ給スル所ナリ而シテ一竈ヲ燒上クルニハ工人七八人ト燃料約三十串文トヲ要スル由ナレハ之ニ依テ計算スルニ千擔燒ノ竈ニ八人ヲ使用シ此賃銀平均二串九百文ニテ二十三串二百文食物一人月二串文ニテ十六串文燃料三十串文燒形ノ消耗料二串文ト見積リ計七十一串二百文トナル而シテ千擔ノ煉瓦及瓦代ヲ平

均一擔百文ト見做サハ百串文ヲ得ラルヘシ故ニ差引一窠ヨリ二十八串八百文ノ所得ハ製造主ノ利益トナルカ此中ヨリ窠  
消耗料地代及夏向及冬分休業間ノ職工賃銀及食費ヲ控除セサルヘカラス

○第二節 織 布 宜昌

機織工場ノ創設 宜昌ニ於ケル機織工場ハ同市ノ北門外ニ在リ其理事張允茲ナル者本邦ヨリ歸清後其同族四名ト合資會  
社ヲ組織シ三十八年六月始メテ工場ヲ開始セルカ成績好良ニシテ前途有望ナルカ故ニ目下專ラ其擴張ヲ計畫シツ、アリ  
織布種類 同工場ニ在テ機織スル所ハ何レモ綿布ニシテ巾一尺一寸長サ四丈ノ白木綿、巾同上、長サ二丈八尺ノ縞木  
綿、及巾同上、長サ三丈二尺ノ色木綿トス織布用綿糸ハ經緯共十六手ノ紡績糸ナルモアリ又横ニ土紡糸ヲ使用セルモノ  
モアリ土紡糸毎斤紡績糸ヨリ八仙乃至十仙方安値ナルモ量目重キタメ價格上紡績糸ヲ使用スルト大差ナク其賣價ハ白木  
綿一反洋一弗縞木綿ハ同八十六仙色木綿ハ同一弗三十仙ナリト云ヘリ色木綿ハ紺ト淺黃ノ二種ニテ何レモ織上ノ上紺地  
ハ沙市淺黃地ハ後港ニ送リテ染メタルモノナリ  
機業ノ現狀 昨年九月頃ニ在テハ松田式ノ機臺四十臺ナリシカ其後更ニ東京ヨリ取寄セ目下ニテハ百三十臺トナリ外ニ  
管捲機械一臺アリサレ、未タ据付ノ完備セサルタメ百三十臺中現ニ使用セルハ五十臺ノミナリ機械力ハ一臺一日三反織  
ヲ普通トナス由ナレトモ未タ其技熟セサルヨリ一日一臺ノ織上高平均二反ヨリ二反半ノ間ニアリト云ヘリ織賃ハ無地縞  
物共一尺二文ノ割ニテ機工ハ男子ノミナリ  
蒸汽機械ノ据付 大巾縞布機械運轉ノ目的ニテ蒸汽機械ヲ据付既ニ試運轉ヲ經タルカ本月中ニハ愈之ヲ開始スルノ計畫  
ナリト聞ケリ大巾機臺ハ三十臺ニテ一日一臺ノ織布約八十尺位ナラント云ヘリ  
織布ノ需用地 綿布ハ四川地方ニ需用少ナカラス同工場ノ織布ハ宜昌附近ヨリハ多ク四川ニ需用セラルハ同地方ヨリ  
輸入ノ鹽及藥材其他ノ商品ニ對スル代ハリ品トシテ外出スルナリ

○同 荊州

荊州ニ於ケル織布工場ハ上海ヨリ改良機臺ヲ購入シ工女ニ機業ヲ習得セシムルタメ寧波人ノ女教師ヲ聘シテ試驗的ニ創  
設セルハ三十七年八月九日ノコトナルカ爾來恰モ當地ノ穀作ハ引續キテ豐稔ナラサリシタメ商況一般ノ不振ヲ受ケ織布ノ  
賣行モ豫期セシ如クナラサレト兎ニ角將來有望ノ事業ナル故監理其當ヲ得ハ漸次繁榮ニ赴クヘキヤ必セリ同工場ハ當地  
ニ於テ富豪ノ聞エアル沙市人鄧及荊州人戴二氏ノ合資ニ成リ資本金ハ一萬兩ナリト云フ  
原料ハ經緯共紡績糸ニシテ多クハ緯ニ十六手經ニ三十二手ヲ使用シ織布ニ光澤アリテ一見外國製品ニ異ナラス沙市ニ販  
賣店ヲ設ケ卸賣、小賣共ニ營業スルモ小賣ノ力寧ロ需用多キ由ニテ一尺ノ價七十六文ヨリ九十七文ナリト云ヘリ所要ノ  
綿糸ハ上海ヨリ直接輸入シ居レリ  
織布ハ何レモ男女ノ衣服及夜具地ニ使用セラル、縞物ニテ一ヶ月ノ織上高巾二尺長サ五丈ノ匹物漸ク五六百匹位ナリト  
云フ最モ同工場ニハ機臺七十ヲ備フルモ商況不振ノタメ需用多カラサルヨリ當時ハ唯其半數ヲ使用スルノミナリ  
織布ニ從事スル者ハ皆女工ニシテ各反物ノ織代一尺七文ノ割ニテ一日ノ賃銀百三四十文ニ相當スルヲ普通ナリト云ヘリ  
宜昌ニテ織布一尺ノ工賃二文荊州ニ在テ七文ナルハ平均ヲ得サルモノ、如キモ一ハ松田式改良機械ニ依リ一ハ舊式機械  
ニ依ルト又小巾ト大巾トノ差ニ基クモノナリ

○第三節 製 油 沙市

胡麻、菜種及棉實ハ製油ノタメ當地地方ニ消費セラル、モノ少ナカラス就中胡麻ハ沙市ノミニテ年内約四萬石菜種ハ約一  
萬石消費セラレ當港ニ於ケル製造品中ノ重要ナルモノナレハ左ニ參考ノタメ其製油法ヲ説明スヘシ  
胡麻及菜種油共製法ハ同様ニテ最初胡麻又ハ菜種ヲ炒リ菜種ハ之ヲ搗臼ニテ細末トナシタル後胡麻ハ炒リタルマ、ニテ

牛力ヲ用ヒ更ニ之ヲ粉碎スルナリ其方法ハ地上ニ堅牢ナル丸形ノ地盤ヲ作り地盤ノ周圍ニ溝アリテ其中へ胡麻又ハ菜種ヲ入レ直徑約一丈ノ丸形ノ石板ヲ使用シ恰モ藥研ニテ藥ヲ細末トナス如キ方法ニテ地盤ノ周圍ヲ迴轉スルニ依テ細末トナルナリ而シテ其石板ヲ迴轉セシムルニハ地盤ノ中心ニ棒アリ、此棒ヨリ石盤ノ中心ヲ透徹シテ牛ノ首ニ至ル横木アリテ石盤ハ牛ト共ニ迴轉スルノ裝置トナレリ

粉碎セル胡麻又ハ菜種ハ輒ト稱スル圓形直徑二尺餘ノ木條又ハ鐵條ニテ造リタル鍋形ノ容器ニ入ル、コトナルカ比容器ハ木條又ハ鐵條ニテ造リタルモノ故其マ、入ル、トキハ悉ク漏泄スヘシ故ニ之ヲ防クタメニ布ヲ敷キテ後ニ入レ其上ニ蓋ヲナシテ之ヲ蒸スナリ蒸上リタル菜種又ハ胡麻ハ鐵環ノ中へ押込ミ鐵環二個ニテ一塊トナシ其上ニ蒸ヲ敷キ順次斯クシテ鐵環ヲ積重ネ適當ノ數ニ達スレハ之ヲ種桿ト稱スル搾油機械ノ上ニ横ニ駢列スルナリ鐵環ノ大サ竝ニ二個ヲ重ネタルモノ厚サハ油粕ノ大サ竝ニ厚サニ同シ

搾油機械ノ製作ハ至テ單純ニシテ太サ尺餘ノ材木縱四本横四本ニテ長方形ノ井形ヲ上下ニ造リ下部ハ地ヲ距ル二尺位ニアリテ兩方ノ材木間ニ板ヲ駢ヘ其上ニ蒸胡麻又ハ菜種入ノ鐵環ヲ橫列スルナリ十二環ハ即六塊ニテ其量一石ナルカ搾油機上ニハ二三石量ヲ載スルヲ普通トナスモノ、如シ載セ終リタル後勿論空地ヲ存スルコトナルカ其空地ニハ幾個トナク木片ヲ填充シ其上ニ楔二三個ヲ入レ天井ヨリ麻繩ニテ釣下ケタル丸太ヲ以テ順次其楔ヲ打込メハ壓力ノタメニ油出テ、板下ノ容器ニ入ル而シテ搾リ殘リタルハ即チ胡麻粕又ハ種粕ナリ

最初搾リタルヲ一番油ト云フ其次ニ一番粕ヲ牛力ニテ粉碎シ蒸シタル上ニテ油ヲ搾取ス其方法ハ上述セルモノニ同シ之ヲ二番油ト云ヒ最後ノ分ナリ

胡麻一石ヨリ一番油二十五斤乃至三十斤二番油約十斤計三十五斤以上四十斤ノ油ト油粕トヲ得ラルヘク又菜種ハ一二番ヲ合セ油二十斤ト種粕一擔トヲ出スニ過キスト云フ

因ニ記ス油粕ハ一塊十四斤ニテ六塊即八十四斤ヲ一擔トシ胡麻ノ一石ヲ斤量ニ算スレハ約百四十斤ニテ菜種ハ百二十斤ナリ又工人ノ賃銀ハ丸太ヲ振り動カシテ楔ヲ打込モノハ役ヲ要スル多キヨリ一日二百文ニテ其他雜用ヲナスモノハ百文ヨリ百六十文ノ間ニアリト云ヘリ

#### ○第四節 麥藁帽子 河南

麥藁帽子ノ河南ヨリ當地ニ來ルモノ年内千相(一相百個入)ノ多キニ達シ同地方ニ於ケル斯業ノ發達モ想像スルニ餘リマレト商人ハ毎戸ヨリ百個二百個ト集メ來ルニ過キタル由ナレハ或ハ製造所ト稱スルニ足ル程ノモノナキヤモ難計聞ケルマ、ヲ記シテ疑ヲ存ス

#### ○第五節 製 茶 宜都、長陽、興山、鶴峯州、施南

(一) 宜昌府ノ管下製茶ノ地ハ宜都、興山及長陽アリ施南府所管ニテハ施南及鶴峯州アリ各地ニ於ケル製茶ハ宜都及除陽關ニ集散スルタメ稱シテ宜都又ハ除陽關ノ茶トナスモ其實同地ノ産ニアラサルナリ賣買方法ハ漢口ヨリ廣東商人ノ來リテ買收スルアリ又ハ同地商人ノ漢口、沙市及湖南地方へ向ケ運出スルアリ其湖南地方ニ至ルモノハ除陽關ヲ經由ス漢口へ行クモノハ多ク紅茶ニシテ湖南地方及沙市ニ來ルモノハ綠茶最多シ

(二) 宜都製茶ノ地ハ宜都ヲ去ル清里六七十里漢陽埠及橫積埠ニテ産額三十餘擔アリ内紅茶二千擔綠茶千餘擔ニテ宜都ニ於ケル商人義成生ナルモノ、賣買集散スル所ナリ

(三) 長陽茶ヲ産スル年内六千擔乃至六千五百擔ニテ此内紅茶約五千擔其餘ハ綠茶ナリ

興山茶ヲ産スル約七千擔内紅茶五千擔以上ナリト云ヘリ  
鶴峯州ハ年内二萬五千擔以上三萬擔ノ茶ヲ産シ内紅茶約二萬擔ニテ綠茶ハ七八千擔ヲ出テス  
施南ノ茶ハ多ク綠茶ニテ其産額年内一萬擔以上ナリト云フ

### ●第八章 農業

#### ○第一節 小作法

小作法ハ地主ニ於テ土地ヲ耕作ニ適スルノ状態ニ保存スルノ義務アルヨリ見レハ我永小作ニアラスシテ土地ノ貸貸借ニ類スルノ觀アリサレト當地方ノ事一概ニ法律ヲ以テ類推シ難ク大體ニ於テハ我封建時代ノ小作法ニ酷似セリ年貢ハ多ク金納ニシテ唯米田ノミ物納ヲナスノ慣習ナルモ時價ニ換算シテ錢ヲ入ル、モノ少ナカラス小作料ハ土地ノ良否ニ依リ一畝ノ地一年一串二百文ヨリ一串五六百文ノ間ニ在リテ米田ハ粗米一石二斗五升ナリト云ヘリ

註 畝トハ十五弓ニ十六弓ヲ乘シタルモノニテ即二百四十弓ノ面積トナル又一弓トハ五尺平方ヲ稱スルモノニテ本邦ニ在テハ土地ノ丈量スルニ曲尺ヲ使用スルモ當地ニ在テハ普通ノ吳服尺ナル故其一尺ハ我曲尺ノ一尺一寸七分餘ニ當レリ故ニ一弓ノ面積地ハ一坪ニ及ハサルコト約一尺七寸平方地トナル故之ニ依テ一畝ノ地ヲ算定スルヲ得ヘシ

#### ○第二節 棉花

棉花ハ舊三四月播種シ八月成熟ス草取ハ棉ノ三四寸成長セルトキニ一回ト爾後三四回ナリト云フ肥料ニハ多ク灰ヲ用ヒ又其種子ハ洋花、鐵子、湖花及江紅ノ四種アレトモ洋花及湖花ヲ以テ良種ナリト云ヘリ而シテ每畝ノ收穫高ハ約二十斤ヨリ二十四五斤ノ間ニ在ルモノ、如シ

#### ○第二節 稻作 夏米及秋米

夏米ノ播種ハ舊三月ニシテ四月ニ分秧シ五六月ニ成熟ス又秋米ハ舊四月ニ播種シ五月ニ入りテ分秧シ八、九月ニ成熟ス肥料ハ枯草人糞及水裡ノ泥土ニシテ一畝ノ收穫高四石前後ナリト云ヘリ

#### ○第四節 麥作 大麥及小麥

大麥及小麥共舊九月又ハ十月頃ニ播種シ翌年三、四月ニ入りテ成熟ス肥料ハ牛、馬糞及枯草等ニテ一畝ノ收穫高約二石ナルモ大麥ハ小麥ニ比シテ稍小量ナリト云ヘリ麥粉ハ菓子ノ原料タルノミナラス亦食物ノ一部トシテ需用甚々多シ大麥ハ農家ノ麥飯又ハ米ニ和シテ食スルノ外造酒用ニ使用セラル

#### ○第五節 豆作

大豆類ハ舊四月ニ播種シ七、八月ニ入りテ成熟ス多クハ肥料ヲ施サス一畝ノ收穫高約一石五六斗ナリ大豆ハ豆腐及豆油ノ製造ニ使用シ黑豆ヨリハ豆鼓及醬油ヲ製シ青豆ハ食用ニ供スト云フ

#### ○第六節 雜穀

當地ニテ豌豆ト稱スルハ所謂蠶豆ノコトニテ人ニ依リテハ之ヲ大豆ト呼フ者アリ形ノ大ナルカ故ナラン條粉ヲ造ルノ原料ニシテ需用少ナカラス舊九、十月播種シ翌年三、四月ニ成熟ス一畝ノ收穫高約二石ナリ菜種ノ播種及成熟季ハ豌豆ニ同シク其收穫高ハ一石二三斗アリト云ヘリ高粱ハ三月播種シ七月成熟ス其收穫高二石前後ニテ又胡麻ハ四月ニ播種シ八月ニ入りテ成熟スルコトナルカ其收穫高ハ一石四五斗ナリト云ヘリ

#### ○第七節 升量下斤量トノ比較

升、斗、石ハ本邦ニ於ケルモノト順位及名稱ヲ同フスルモ實量ニ於テハ大小ノ別アリ當地ニ於ケル量器ハ本邦ニ於ケルモノヨリモ小ナル故當業者ニ就テ一石ノ斤量ヲ聞クニ胡麻ハ約百四十斤菜種ハ百二十斤大豆ハ百四十五斤麥ハ百四十斤米ハ百五十斤位ナラント云ヘリ然ルニ本邦ニテハ米一升四百目ト算定スル故二石ハ四十貫目トナルカ當地ノ百五十斤ヲ換算スレハ二十四貫目ニ相當スルニ過キサルナリ

○第八節 土地賣買及地價

一畝ノ地價田畑共二三十串文ノ間ニ在リテ土地ノ良否ニ依リ其價ヲ異ニセリ而シテ官納ノ租稅ハ春秋二季ニシテ春季ハ二百四十文ヲ縣ニ入レ百二十文ヲ府ニ納ムルモノハ土饒トテ堤防修築費ニ充ツルモノナリ又秋季ニハ七十五文ヲ納ムルコト故計四百六十五文トナル故ニ貸貸借ノ果實ヨリ之ヲ控除シテ通算セハ年五六分ノ利ヲ見ルニ過キサルヘシ土地ノ賣買ハ賣主ヨリ證人連署ノ賣渡證文ヲ給與シ買主ハ之ヲ知縣衙門ニ持行キテ其契印ヲ受ク之ヲ稅契ト稱スルハ稅ヲ拂フタメニシテ又紅約トモ稱スルハ効力ノ點ヨリ見タルモノニシテ知縣ノ契印ナク効力ナキ文書ヲ白約ト云フ手數料ハ六分六厘ニテ千兩ニ對シ六十六兩ノ割ナリ左ニ土地賣買文記ノ例ヲ掲ク

立永賣基地字人○○○及某々茲有租遺(又自置)基地○○○畝在○○○地方、所有田中樹木等、一概賣與某人管業憑中人某某三而言定價錢○○○串文正領託自賣ノ後任○○○修造課種等事面爲無阻此係自賣已份親族人等無得異說爭論特立此契約爲據、憑中人○○○○

年 月 日

姓

名(目 筆)

●第九章 漁 業

當地方ニ在テハ河、湖共魚族ヲ産スルコト少ナカラサルカ就中紅湖、山湖、白露湖、長湖ニテハ鯉魚ノ漁獲多クシテ鹽魚ニ製シ四川ヘ向ケ外出スルコトハ既ニ述ヘタリ其乾魚トシテ需用ノ多キハ編魚、鰻魚、刀子魚等ニシテ當港ニ來集スルモノハ一萬餘擔此中湖南ニ運出スルモノアリト聞ケリ

漁網ニハ洒網ト稱スル本邦ノ所謂投網及ヒ繒網ト稱スル四ツ手網ノ外拖網及摺篙網トテ二人協力ヲ要スルモノアリ帷網トテ四人協力ノモノアリ又麻單網トテ圓錐形底無シノモノアリ底ニテ直徑三尺位ト思ハル使用ノ方法ヲ說明センニ此網ハ底ヨリ上一尺四五寸ニ至ルノ間ハ二重ナルトモ一見全部底無シノ如クニ思ハル之ヲ水中ニ伏セ其上部ヨリ竹ノ棒ニテ水底ヲ亂刺セハ魚ハ驚キテ浮ミ上リ側邊ノ二重網中ニ入ルノ工風ナリ此方法ニ依リ鯉魚ヲ漁スル少ナカラスト云ヘリ又別ニ一重網底ナシノモノアリ之ハ水中ニ伏セタルノ當時網中ニ伏セ込マレタル魚ヲ刺スノ工風ナルカ水面ヨリハ其有無モ見分ケカタク故此方法ニ依リ職業トスルニ足ル程ノ漁獲アルヤ否ヤハ疑問ナリ

●第十章 金融及度量衡

○第一節 銀 爐

銀爐ノ業務ハ他ノ依賴ニ應シテ兩銀ヲ鑄造スルト又銀塊ヲ購入シ之ヲ兩銀ニ改鑄シテ市場ニ賣買スルトノ二ヲ爲スモノアレト當地ニ在リテハ單ニ他ノ依賴ニ應シテ兩銀ヲ鑄造スルアルノミ沙市ニハ銀爐一ヶ所アリ當地ノ通用兩銀ハ皆五兩銀ニテ銀爐ハ銀塊ヲ受ケタル場合ニ之ヲ一定ノ銀色ヲ有スル兩銀ニ鑄造スルコトナルカ其手數料ハ千分ノ四即千兩ニ對シ四兩ノ割ナリ最他地方ヨリ來ル兩銀其他如何ナル銀塊ト雖トモ市場ニ通用スヘキ故別ニ之ヲ改鑄スル必要ナキモノ、如クナレト當地ノ銀色ニ照シテ打歩又ハ割引ヲ爲スコトナンハ當事者間ニ爭論ヲ生シ易キヨリ改鑄スルノ必要アリト云ヘリ沙市ニ於ケル銀爐ノ鑄造力ハ一日二千兩ナリト云フ

○第二節 通 貨 銅錢ハ清國ノ通貨ニシテ兩銀ハ地方的通貨タリ湖北洋銀ハ通貨ニアラス

當地ニ於ケル貨幣ハ銅錢、湖北洋銀及兩銀ノ三種アル如クニ見ユ而シテ地方政府ニ在テハ漸次洋銀ヲ本位貨トシ小銀貨及銅錢ヲ補助貨トナサントスルモノ、如シサレト是唯推察セル意思タルニ止マリ事實上現今ノ所官納ノ租稅モ銅錢又ハ兩銀ニテ定マリ一弗銀貨面ニハ七錢二分アリ沙市秤ニテハ七錢四分アレト此割合ヲ以テ兩銀ニ換價セサルナリ而シテ民間ニテハ如何ト云フニ無論之ヲ貨幣ト見做スモノナク重量ト實質トニ依リ價值ヲ定ムルコト銀塊ニ異ナラス又小銀貨一弗分ハ一弗銀貨ノ重量ナキヨリ一弗十仙ヲ以テ換價セリ其貨幣ト見做サレサルヤ明カナリ然ラハ實際ノ貨幣ハ兩銀ナルヤト云フニ兩銀ニハ一定ノ銀質ヲ有シ市場ノ通貨トナリテ一般ノ買賣貸借ニ使用セラレ又銀塊ニ依リテ自由鑄造ノ法ヲ立テ市場ニ於ケル通貨ノ多寡ハ單ニ經濟社界ノ金融ニ一任セル如キハ本位貨幣タルノ觀アリ然レトモ當地ニ通用スル規定ノ兩銀モ單ニ五兩銀ト稱スルニ止マリ其量目ヲ保證セサルヨリ授受ノ際ニ一々之ヲ秤量スル如キハ貨幣ト稱スルヨリハ寧ロ銀塊ニ近キモノアリ而シテ銅錢ハ如何ト云フニ其貨幣タルキ疑ヒナク是亦市場ノ通貨トナリテ一般ノ買賣貸借ニ使用セラレ、ナリ唯錢價變動ノ甚シキタメニ貸借關係ハ銅錢ヲ以テ定ムルヲ嫌フアルノミ而シテ銅錢ノ鑄造ハ政府ノ特權ニ屬シ自由鑄造ヲ許サス民間ニ於ケル錢相場ノ高低ニ際シ時ニ濫發シテ經濟社界ヲ紊亂スルコトアリ今日ノ經濟學ニテハ自由鑄造ヲ許サ、ル貨幣ヲ以テ本位貨幣トハ稱シカタク然ラハ清國ニ於ケル貨幣ノ種類ハ何ナリヤト云フニ到底杓子定規ヲ以テ推定シカタク唯目前ニ現ハレタル形ヲ取ルニ若カサルナリ之ニ依テ解釋スレハ銅錢ハ清國全般ニ涉ル唯一ノ貨幣ニシテ兩銀ハ賣買ノ進歩ニ伴フテ發達セル地方的貨幣ト云フノ外ナシ

○第二節 金融繁閑季

金融ハ舊曆一、二月緩漫ニシテ三、四、五月引締リ六、七月復緩漫トナリ八、九、十、十一、十二月ニハ再ヒ引締リ故中十、十一、十二月ノ如キハ年内逼迫ヲ告クルノ時季ナリ其故ハ一、二月ハ清算期後ニテ貨幣ノ需用少ナク且ツ市場ニ農産物ノ現ハル、コトナキカ三、四、五月中ニハ大小麥、菜種及蠶豆ノ商取引アリ加フルニ五月ハ半年ノ決算期タル故例年金融ノ引締リ來ルハ自然ノ理ナリ而シテ六、七月ヲ超ヘ八月以後再ヒ金融ノ逼迫スルコト、ナルカ之レハ棉花、胡麻、大豆其他雜穀及木蠟ノ市場ニ出ツルアリテ全般ノ商業年末ニ向フニ從ヒ益繁忙ナルニ依レルモノニテ既ニ第六節ノ商業繁閑季中ニ説述セリ

○第四節 爲替關係

爲替關係ハ各地ニ於テ銀質及秤器ヲ異ニスルタメ關係ノ實際ヲ知ルコト甚ク困難ナリ沙市ニ於ケルモノハ銀色九九ニシテ九九八掛秤ヲ使用セリ漢口ハ九九八銀色ニテ九九八五秤又上海ハ九三餘ノ銀色ニシテ規平ヲ使用スルカ當業者ノ言フ處ニ依レハ沙市ニ比シテ千兩ノ内十四兩重ク又宜昌ノ秤器ハ同シク三兩重ク重慶ニ在テハ五兩餘輕シト云ヘリ故ニ呼價ノミニテハ到底實際ヲ知悉シカタク相互ニ於ケル銀質ト秤器トヲ比較シタル上ニテ初メテ爲替ニ幾何ノ打歩アリシヤ又割引アリシヤヲ知り得ヘシサレト當港ノ爲替ニハ何地ニ對スルモノト雖トモ到底割引ヲ希望スヘカラスシテ常ニ不當ノ打歩ヲ要セリ計算ヲ容易ナラシムル爲メ試ニ銀行ニ就テ間フニ當地ノ銀千兩ヲ拂込上海又ハ漢口ニ於テ同量ノ純銀ヲ得ルニハ打歩幾何ナリヤト云フニ時季ニ依リ一定セサレトモ相場高キトキニハ漢口ヘハ三十三、四兩上海ヘハ約四兩増ニテ下落セル時ニモ漢口送リ二十六七兩下ラスト云ヘリサレト斯ルコトハ寧ロ稀ナル由ナレハ假リニ其打歩ヲ三十兩トセシニ千三十兩ヲ送リ漢口ニ於テ同量ノ純銀千兩ヲ得ラルヘシ最モ當地ノ銀色ハ九九ニテ千兩ノ純銀量ハ九百九十兩アルヘキ故十兩ハ之カ補足ニ充テ三十兩ヨリ控除スルモ殘餘二十兩ハ手数料同然ノモノニテ不當ノ打歩ト云ハサルヘカラス、然レハトテ之ヲ現送スルトセンニ到達地ニ於テ九九兩色ヲ認メス其以下ニアラサレハ賣買セサル故結局利スル處ナカルヘク是レ當地銀行ノ乘スル所ナリ



當地ヨリ爲替取組ノ多キハ漢口ト四川地方トニシテ約同等ノ地位ニアリ兩者合セテ十分ノ七ヲ占メ上海、湖南地方其他ニテ三分ヲ有スルニ過キスト云フ

○第五節 票 號

票號即銀行家ナルモノハ沙市ニ十一家アリ手形割引貸出預金及爲替賣買ヲナスコト本邦ノ銀行ニ異ナラサレト其方法ニ至テハ大ニ異ナルモノアリ金融機關ノ中質屋ノ外貸借ニハ信用ヲ基礎トシテ抵當物ヲ要スルコトナシ又銀行ハ多ク錢屋及質屋ニ融通ヲ與ヘ商人ト貸借關係ニ入ルアルハ少數ナリ預金モ當座預リハ千兩以上ナラサレハ引受ケス又半年以上ノ定期トスレハ六七百兩以上ヲ預入ル、ト云フ

手形割引ハ單ニ副業トシテ爲スノミナレハ取引高モ多カラスト云ヘリ貸出利子ハ金融ノ繁閑ニ依テ一定セス錢屋及質屋ニハ緩漫ノトキ月六厘ヲ普通トシ五厘ナルハ稀ニテ又逼迫セルトキハ九厘ニ騰貴シ商人ニ對シテハ一般三厘ヲ増收セリ又手形割引歩合ハ概シテ商人ヘノ貸出利子ト同ク又個人ノ預金ニ對シテハ月三厘四厘又ハ半年五分ノ利子ヲ給與スト云フ

○第六節 錢 舖

錢舖ハ沙市ニ三十餘家アリ普通錢屋ト解セラル、故我兩替屋タルカノ如キ感アルモ兩替ハ業務ノ一部ニ過キスシテ大體ニ在リテハ我銀行ニ異ナラス當地ニ於ケル錢屋ハ商業家ノタメ必要缺クヘカラサル機關ニシテ票號ハ既ニ述ヘタル如ク多ク錢屋及質屋ノ金融機關タリ商人ハ必要ノ資本ヲ錢屋ヨリ引出ス替リニ日々ノ賣上高ヲ預入レ五、八、十二ノ決算期ニ清算スルモノアリ利子ハ票號ニ於ケルヨリモ高率ニシテ安キハ月八、九厘高キハ一分二、三厘ナリト云ヘリ無論信用貸借ニシテ擔保物件ヲ要スルナシ爲替事務及手形割引ヲ取扱ヘト業務中ノ重ナルモノハ貸出預入及兩替ニテ兩替ト稱

スルモ貨幣ノ交換ニアラスシテ寧ロ商品ノ賣買ニ似タルモノアリ相場ノ變動瀕繁ナルヨリ或ハ放賣シ或ハ思惑買ヲナスモノアリ損益少ナカラサルモ多趣味ノ業務ナリト云ヘリ預金ハ百兩以上ナラハ其取扱フ所ニシテ利子ハ月五厘又ハ六厘ナリ但銅錢ヲ預入ルノ場合ニハ時價ニ依テ兩銀ニ換算スレハ兎ニ角錢ノ儘ニテハ相場ノ下落セル今日將來ノ騰貴ヲ恐レ無利子ニアラサレハ其預入ヲ好マサル由ナリ業務ノ手廣キ割合ニハ資金少ナク大ナルモ一萬兩ヲ出テスシテ小ナルハ千兩前後ナルカ何レモ信用ヲ基礎トスルカ故ナリ

○第七節 當 舖

當舖即質屋ヲ業トスルモノ十一家アリ擔保物件ヲ要スル本邦ニ異ナラス貸出利子ハ月三分ニテ舊十、十一、十二月ノ金融ノ最モ逼迫セル時季ニ在テハ月二分ヲ超ユヘカラサルハ法令ノ規定スル所ナリ期限ハ二十ヶ月ト二十四ヶ月トアリサレト二十ヶ月分モ多クハ二十四ヶ月マテ延期スルヲ常トセリ又期限ニ至レハ擔保物ノ處分ハ質權者ノ自由タリ入質ノ當時質主ニ紙札ヲ交附スルコトナルカ名宛ナキ故持參者ヲ質權設定者ト見做スノ外ナシ最質物ノ贖品タル場合ニモ質權者ハ更ニ權利ヲ失フコトナク眞ノ所有者モ之レカ辨償ヲ要シ行政上何等ノ監督ナキ故賣札ニ名前ヲ記入スルノ要ナカルヘシ但外國人ノ被害者タル場合ニハ辨償ヲ待タスシテ原物ノ返還ヲ受クル慣例アリ多分ハ他方官ヨリ質屋ニ補償スルモノナラン

○第八節 度 量 衡

當舖ノ外押舖ト稱シ本邦ニ所謂高利貸ニ類スルモノアリ利子ハ百文ニ對スル十文ニテ即月一割ナリ貸出ニハ擔保ヲ要シ三ヶ月縛リニテ最初一ヶ月ノ利子ヲ天引スルコトナルカ其方法ノ餘リ殘酷ナルヨリ地方官ノ禁止スル所トナレリ

尺度ハ廣尺ト稱スルモノ一般ニ使用セラレ吳服太物及土地ノ丈量ニ之ヲ用ヒ大工中又廣尺ニ依ルモノアリ我餘尺ニ比

シテ一尺中五六分短シサレト大工中ハ寸尺ヲ用ユルモノ少ナカラス又綿布中土布ヲ算スルニハ一尺三寸尺ヲ使用スルヲ例規トセリ其製作ハ慣習上個人ノ自由ニ任シ官ノ監督ヲ要スルナシ

量器即秤ニハ五合、一升、一斗、一斛ノ四様アリ一斛トハ二斗五升ヲ云フナリ商人ノ量器ハ年一回鎮江寺ニ於テ知府ノ官吏之ヲ檢閲シ正當ノ證トシテ燒印ヲ施セリ

衡即秤器ハ各行商人ノ議定ニ依レルモノニテ之ヲ公議秤ト稱シ會館内ニ秤器ヲ備ヘ正否ヲ判定スルノ標準トナセリ普通十六兩ヲ一斤トシ百斤ヲ一擔トセリ又兩銀ヲ秤量スルニハ咸豐年間公估局ノ定メタル沙布天平ヲ使用セリ各地ト秤器輕重ノ比較ハ爲替關係ノ項ヲ參照スヘシ

●第十一章 交通及通信

○第一節 電信

當港ヨリ各地ニ至ル洋電報料一語料金左ノ如シ但支那文字ノ符號ニ依ルトキハ半額トス

東 京	洋 銀	九十三仙	臺 灣	洋 銀	七十八仙
韓 國	同	一弗二十三仙	漢 口	同	二十仙
上 海	同	三十八仙	鎮 口	同	三十八仙
九 江	同	二十六仙	南 京	同	三十八仙
北 京	同	四十二仙	天 津	同	三十二仙
芝 罘	同	三十二仙	牛 莊	同	三十八仙
奉 天	同	三十八仙	大 連	同	九十三仙

常 德	同	二十六仙	長 沙	同	二十六仙
重 慶	同	二十六仙	成 都	同	二十六仙
貴 陽	同	三十二仙	雲 南	同	三十八仙
西 安	同	二十六仙	香 港	同	三十二仙
宜 昌	同	二十仙	襄 陽	同	二十仙
荆 門	同	二十仙	老 河	同	二十仙
開 封	同	二十六仙			

○第二節 郵便 帝國郵便及清國郵便

沙市ニ帝國郵便局アリ郵便事務ノ取扱ハ本邦ニ於ケルト同一ニシテ料金ノ相違セルハ清國內局所間及ヒ本邦局所ニ至ルモノ小包ニ百々マテ三十錢四百々マテ三十五錢、六百々マテ四十錢、九百々マテ五十錢、一貫二百々マテ六十錢、一貫五百々止マリニテ七十錢トナシ又爲替ハ小爲替料金五錢通常爲替ハ十圓マテ十錢二十圓迄二十錢三十圓迄三十錢四十圓迄四十錢五十圓止マリニテ五十錢トセリ

清國郵便事務ハ北京ニ於ケル總稅務司ノ監督ヲ受ケテ郵政總事務官ナルモノ、管理スル所ナリ各港中特ニ郵便局長ノ在勤セサル地ニハ稅關長ニ於テ之ヲ兼任セリ當港ノ如キモ郵便事務ハ又稅關長ノ管理スル所ナリ左ニ郵便條例中日常必要ノ點ヲ抄録ス

郵 稅 表 (別表)

第九卷 第十一章 交通及通信

四三四

各種郵便	斤量 (依斤ニ)	清國		外	
		1 配達区内	2 郵便局又ハ取扱所所在地	1 郵便聯合國	2 日 本
信書	毎半「オンス」	一 仙	二 仙	十 仙	三 仙
はがき	往復	二 仙	一 仙	四 仙	一 仙
新聞紙	毎「オンス」四磅止	五 厘	一 仙	八 仙	三 仙
印刷物	三「オンス」以内	一 仙	二 仙	毎「オンス」	毎「オンス」四分ノ三
	八「オンス」迄	二 仙	五 仙	二 仙	二 仙
	一「ポンド」迄	四 仙	十 仙	二 仙	二 仙
	二「ポンド」迄	八 仙	十五 仙	二 仙	二 仙
商品見本	三「オンス」以内	一 仙	二 仙	毎「オンス」	毎「オンス」四分ノ三
	八「オンス」迄	二 仙	五 仙	最低 四 仙	二 仙
	十二「オンス」迄	四 仙	十 仙	十 仙	七 仙
書留	配達證明留	五 仙	五 仙	二十 仙	十 仙
	留	一「ポンド」以内	十 仙	十五 仙	二十 仙
小包	一「ポンド」迄	十 仙	十五 仙	四十 仙	八十 仙
	三「ポンド」迄	十五 仙	二十 仙	四十 仙	八十 仙
	六「ポンド」迄	二十 仙	三十 仙	四十 仙	八十 仙
	十一「ポンド」迄	三十 仙	四十 仙	四十 仙	八十 仙

外國宛小包ハ各國所定ノ小包料ニ清國内地ノ料銀ヲ加ヘタルモノトス

清國內地小包ノ中陝西、甘肅、雲南、貴州、四川ノ五省ヘハ普通料銀ノ倍額トシ重慶宛小包ニシテ宜昌以往船舶ノ運搬ニ依ルモノハ此限リニアラストセリ又汽車、汽船交通ノ便アル地ヘハ容積方一尺重量六「ポンド」ヲ限度トセリ郵便局又ハ郵便取扱所ノ設置ナキ内地ヨリ又ハ内地向ケ信書ヲ發送スル場合ニハ郵便局又ハ郵便取扱所ニ接続スル迄ノ運搬ハ個人ノ營業ニ係ル從來ノ飛脚法ニ依ルヘキコトナルカ其料銀及危險ノ負擔ハ受信人又ハ發信人ニアルモノトセリ

爲替ハ清國郵便局ノ取扱フ所ナルモ未タ送金機關ト認メラル、ノ程度ニ達セス郵便爲替ニ依リテ金銀ノ授受ヲナスモノ多カラサルヨリ其業務モ自然發達セサルコト、思ハル爲替料モ割高ニテ百分ノ二即一弗ニ對スルニ仙ノ割合ナリ而シテ各港ニ於ケル通用圓銀一様ナラサルヨリ郵便爲替ニハ別ニ打歩ヲ要スル地方アリ當港ニハ湖北洋銀通用シ上海及蘇、杭州ニハ墨銀通貨トナリ又福建ハ本邦舊圓銀ノ使用セラル、コトナルカ當地ヨリ是等ノ地方ニ送金スル場合ニハ一弗ノ爲替料三仙ニテ其ノ中一仙ハ銀量ノ差ニ對スル打歩ナルヘシ

○第三節 汽船

汽船ノ定期航通ヲナスモノ六隻アリ大阪商船會社ノ大享丸及大元丸太古洋行ノ洞庭、怡和洋行ノ江和、招商局ノ固陵、快利ナリトス

船賃ハ各會社共同ニシテ左ニ之ヲ表示ス

地名	上等		中等		下等	
	上航貨銀	下航貨銀	上航貨銀	下航貨銀	上航貨銀	下航貨銀
沙市ヨリ宜昌	七兩五錢	同	一兩八錢二分	同	一兩〇四分	同
沙市ヨリ岳州	十四兩	同	三兩三錢六分	同	二兩二錢四分	同

第九卷 第十一章 交通及通信

四三五

第九卷 第十一章 交通及通信

沙市ヨリ新堤 十九兩 同 上 四兩三錢四分 二兩八錢 同  
 沙市ヨリ漢口 二十四兩 同 上 五兩八錢八分 四兩二錢 同

前表ニ依リ上航及下航ニ依テ貨銀ヲ異ニスルハ支那人上等以下ナルヲ見ルヘシ之レ下航ニハ日數ヲ要スル少ナク從テ航行費用モ少ナキトノ點ヨリ勘定高キ支那人ヲ満足ナスルタメニ競争上其率ヲ低減セルモノナラン

四歲以下ノ小兒ハ無賃ナルモ一人以上ナルトキハ四分ノ一ノ船賃ヲ要シ又十二歲以下ノ小兒ハ半額ノ船賃トス又其他特定ノ人ニ對スル割引及往復切符ノ割引ハ旅行ノ際各會社ニ問合ハスヘシ

當港ヨリ上海又ハ本邦向ケ發送スル貨物モ總テ漢口ニテ船移シスルコト故各汽船會社ニ於テ運賃率ヲ定ムルニハ先漢口迄ノ貨銀ヲ定ムルノ規定ナル故左ニ當地漢口間ニ於ケル貨物貨銀表ヲ掲ク但各會社共大體同一ニシテ又荷主ノ掛引ニ依リテハ便宜貨銀ヲ低減スルコトアルヘシ

沙市漢口間貨物貨銀表

種類	單位	貨銀	種類	單位	貨銀
琥珀	每擔	三錢六分四厘	川冬菜	每擔	二錢一分八厘
杏仁	同	二錢一分八厘	紅花	同	二錢六分九厘
雜(黑、白)猪棕	同	二錢五分五厘	錫	同	九分五厘
亂(黑、白)猪棕	同	二錢一分八厘	銀	每千兩	一兩〇〇〇〇〇
水牛角	同	一錢八分二厘	水牛皮	每擔	一錢八分二厘
虎骨	同	二錢一分八厘	姜黃	同	一錢九分六厘
烏梅	同	二錢一分八厘	茶	同	二錢九分一厘
紅糖	同	一錢四分六厘	生漆	同	二錢一分八厘

竹蓆	每相	一錢四分六厘	皮油	同	一錢三分一厘
棕絲	每擔	一錢四分六厘	野絲	同	六錢五分五厘
黃牛皮	每擔	二錢一分八厘	黃白糸	同	一兩四錢五分六厘
書籍	同	二錢一分八厘	白木耳	每斤	七分二厘
硫黃	每斤	四分四厘	核肉	每擔	二錢一分八厘
斑茅	每擔	二錢六分二厘	白蜡	每支	八錢三分二厘
板炭	同	七分二厘	黃蜡	每擔	一錢八分二厘
靈柩	每具	十兩九錢〇二厘	桐油	同	一錢四分四厘
棺材	每口	五兩四錢六分	鉛粉	同	二錢一分八厘
花板	每副	三兩六錢四厘	野胡椒	同	二錢一分八厘
茯苓	每擔	二錢九分一厘	雲南土	同	一兩四錢五分六厘
風藤	同	三錢六分四厘	蓮子	同	二錢一分八厘
石坩	每斤	一錢四分六厘	仙米	同	二錢一分八厘
牛膠	每擔	二錢一分八厘	土布	同	二錢八分〇〇
鴨毛	同	二錢一分八厘	鴨蛋	每千元	三錢六分〇〇
老鹿角	每擔	三錢四分六厘	芝蔴	每擔	一錢二分〇〇
嫩鹿角	每副	三錢〇六厘	棉花	同	四錢三分七厘
顯綉貨	每千兩	一兩一錢一分〇〇	花菜	同	一錢八分二厘
			子同	同	一錢三分〇〇

第九卷 第十一章 交通及通信

木	耳	每擔	三錢六分四厘	菜	子	每擔	一錢二分〇〇
雞	毛	同	三錢一分八厘	菜	餅	同	一錢二分〇〇
山	羊	皮	每張	芝	餅	同	一錢三分〇〇
山	羊	骨	每擔	麻	餅	同	一錢三分〇〇
金	子	每千兩	一兩四錢五分〇〇	荳	餅	同	一錢〇一厘
榕	子	每擔	一錢七分四厘	米	餅	同	一錢〇一厘
細	夏	布	同	爛	猪	毛	同
粗	夏	布	同	漆	毛	同	一錢六分〇〇
青	蔴	同	二錢一分八厘	龍	油	同	一錢三分一厘
火	腿	同	二錢一分八厘	白	菓	同	一錢八分二厘
馬	每匹	四兩三錢七分〇〇	花	菓	同	二錢一分八厘	
石	黃	每擔	二錢一分八厘	椒	菓	同	二錢四分〇〇
假	金	線	同	仁	菓	同	三錢〇〇〇〇
熟	牛	皮	同	假	銀	線	同
寸	香	每斤	五錢〇〇〇〇	砂	仁	同	一兩四錢六分〇〇
戒	烟	九	每擔	雲	石	每擔	三錢六分四厘
下	等	草	同	上	等	草	同
虫	草	同	四錢五分七厘	川	具	同	七錢一分八厘
中	藥	同	二錢一分八厘	上	材	同	四錢三分七厘
下	藥	同	二錢一分八厘	上	材	同	一錢六分二厘
				下	藥	同	一錢八分二厘

土	皂	同	二錢一分八厘	頂	子	每箱	三錢六分四厘
橋	皮	同	一錢九分七厘	烟	灰	每擔	一兩〇九分二厘
木	香	同	二錢六分二厘	上	紙	同	二錢一分八厘
下	紙	同	一錢九分七厘	青	鉛	同	七分三厘
亂	繭	同	二錢九分一厘	亂	絲	頭	同
大	黃	同	一錢七分五厘	羊	皮	同	二錢九分一厘
川	土	同	一兩四錢五分六厘	川	紬	同	二錢二分四厘
土	酒	同	二錢一分八厘	大	頭	菜	同
				大	頭	菜	同

○第四節 民 船

當地漢口間ニハ民船ニ依リ貨物ノ來往少ナカラサルハ既ニ述ヘタル所ナルカ漢口ニハ民船間屋アリテ貨物集散ノ便宜ヲ計ルアルニ反シ當地ニハ斯ル機關ナキタメ民船ニ依リ貨物ヲ發送セントスルモノハ數多キ民船中何レノ船主カ自己ノ貨物ヲ托スルニ足ルヤ否ヤヲ識別セサルヘカラス若シ不良ノ船主ニ逢フテ其貨物ヲ失フコトアルモ救濟ノ途ナカルヘシ發送ノ場合ハ如斯ナルカ荷物着ノトキ間屋ナクシテ如何ニ之ヲ荷揚ケスルカト云フニ漢口ヨリ荷物發送ノトキ送り狀ヲ荷受主ニ郵送シ置クコトナレハ荷受主ハ民船ノ到着ヲ待チ此送り狀ヲ示シテ荷物ヲ引取ルナリ不便且危險ノコトナレト因襲ノ久シキ却テ之ヲ簡便ト思フモノ、如シ運賃ハ汽船ヨリ三四割方安値ナレトモ運搬ニ時日ヲ要シ且貨物ノ浸水シ易キ懼アリ、サレト納稅ノ關係ヨリ見レハ稅關ヲ經由スレハ手續ノ繁雜ナル上其稅銀ハ現納ヲ要スルモ釐金局ニテハ信用アル商人ニ對シテハ年三回ノ清算期ニ納入セシムルニシテハ是亦民船ニ依ルモノ、便宜トスル所ナルヘシ

當地ヨリ民船ニテ各地ニ至ル日數ハ晴雨風都合等天候ニ俟ツ多キ故之ヲ一定シカタシ、サレト通常ノ場合ニ在テハ漢口

六、七、岳州へ三、四日常徳へ五、六日長沙へ十日宜昌へハ四、五日ナルモノ、如シ

○第五節 貨物輸出入集散ノ徑路

四川ト貨物來往ノ徑路ハ長江ニ依ルコトナルカ阿片ノ一部ハ陸路野山關ヲ經テ沙市へ入ルモノアリ河南ハ水利ノ便ナク貨物ノ出入ニハ驢馬ヲ使用セリ強テ水利ノ便ヲ求ムレハ便河ヲ經テ當地ヨリ二百清里程ノ沙洋ニ出テ此處ヨリ襄江ヲ遡リテ餘家店ニ至リ更ニ陸路ニ接スルコトナルカ沙洋ヨリ餘家店ニ至ル間六七百清里ニシテ餘家店ヨリ河南府ニ至ル又八百里程アリテ迂回スルコトナル故貨物ノ出入ニハ此徑路ニ依ルモノ少シト云ヘリ湖南省長沙湘潭地方へハ百七十哩下流ノ岳州ヨリ來往シ常徳へハ當地ノ下流二十哩程ノ藕子口ヨリ三又河ヲ經テ上下シ又津市及禮州方面へハ長江ヲ遡リ太平口ヨリ往來スルヲ通路トナセリ又便河ヨリ漢口へ赴クニハ當地ヲ距ル三十清里程ノ長湖ヲ過キ順次小碼頭ヲ經過シテ了角廟、張家塢、張金河、彭家臺、餘家埠、柳關此處ニ荆州ノ道臺ノ鈔關アリテ船稅ヲ徵收ス鹽家灣此處ニ鹽卡ト稱スル管鹽局アリテ沙市ヨリ運搬スル鹽ハ此地ヨリ下流ニ至ルヲ許サス豐口、黃鳳山、鍋底灣、平坊此處ニ漢陽釐金分局アリ沙市、漢口間ノ貨物ハ便河出發ノ際金龍寺ニテ釐金稅ヲ納ムル外再ヒ當地ニテ納ムレハ漢口ニ至リ又釐金稅ヲ要セス平坊ヲ通過シタル後新灘口ニ於テ長江ニ出ツルコトナルカ之ヨリ漢口ニ至ルマテ百六十五清里ナリト云ヘリ又一路ハ前記黃鳳山ヨリ分岐シテ沙湖ヲ經過シ沌口ニ至リ長江ニ出テ之ヨリ漢口ニ至ル三十清里ナルアリ距離ノ上ニ於テ此徑路近カラシモ水枯ル、ノ地方アルタメ冬分ニ在テハ交通ニ不便ナリト云フ距離ハ通計七百八十清里ナリト稱スルモノ信ニ近キモノ、如シ又襄陽ト貨物ノ來往ニハ多ク驢馬ヲ使用セリ襄陽及考河口地方モ當館ノ管轄區域内ナルモ襄口ニ依リ漢口ト貨物ノ交換ヲ爲ス方便多シ又施南及鶴峯州方面ヨリハ清江ニ依リテ宜都ニ出ツルコトナルカ冬分ハ水枯レ舊二月頃ヨリ舟楫ノ便アル由ニテ同地方ヨリ出ツル木蠟ハ春季ニ至ラサレハ沙市ニ來着セスト云フ

○第六節 管内商業地

荆州府ニ在テハ沙市ヲ除クノ外荆州、草市、了角司、龍灣司、郝穴司、普濟觀、熊口、周老嘴、朱河司、白洛司、柳關江口、董市、陽溪、白洋、西載、街河子  
荆門州ニ在テハ河溶、餘溪河、後港、石回橋、沙洋、當陽、遠安  
襄陽府ニ在テハ樊城、老河口、東家灣、均州  
安陸府ニ在テハ天門、趙市、潛江、直里河、岳家口、仙桃鎮  
施南府ニ在テハ利川、鶴峯、野山關  
宜昌府ニ在テハ長陽、長樂、滋秋、巴東、歸州  
鄖陽府ニ在テハ竹溪、竹山  
懷慶府ニ在テハ河南、陽武  
陝州ニ在テハ靈寶、盧氏  
汝州ニ在テハ郟縣、寶豐  
等ナリトス

○第七節 鐵道敷設後ノ豫想

川漢鐵道ノ敷設ニ至テハ幹線ノ如何ナル徑路ニ出ツルヤモ未タ確定セサルモノ、如シ湖廣總督ト四川總督間トニ於ケル決定ナリトテ新聞紙ノ報スル所ニ據レハ漢口ヨリ來ル幹線ハ當陽及荆門州城ヲ通過シテ宜昌ニ達スルノ計畫ナリト云ヘリ是或ハ一ノ計畫トシテ見ルニ足ルヘキモノナレバ假リニ如此敷設セラル、コト、センニ當陽ハ當地ヲ距ル二百餘清里

荆門州ハ百八十清里ニテ此間ハ支線ノ聯絡スルコトナランカ沙市ハ之ニ依テ如何ナル利益ヲ享受スルヤト云フニ著シキ利益アルヲ見サルナリ其理由ハ鐵道運賃ニシテ高率ニ失セサル場合ニハ漢口ト上海地方トノ交通鐵道開設後ハ沙市ヲ經由スルヨリモ近距離トナレルタメニ直接漢口ヘ向ケ商品ヲ發送スルアルニ至ルヘク當陽ハ落花生ノ產地ニシテ該製油家十八戸アリ又同縣下ニハ生糸千餘擔ヲ産スルコトナルカ從來沙市ニ集散セラル、モノ、一部ハ又漢口ニ集散スルコト、ナルヘシサレト交通機關ノ發達ハ内地向ノ需用ヲ増進シ從テ商業ノ進歩ヲ來スモノナレハ當地ニ在テハ得ル所ヲ以テ失フ所ヲ補ヒ通算上得失平均スルニ至ランカ

### ●第十二章 居留地

税關員官舎ニ隣接シテ怡和及太古洋行ノ敷地アリ其下流ハ即チ本邦居留地ニテ前面三百八十丈此ノ中上部ノ八十丈ハ奥行四十丈ニテ大阪商船會社敷地ト中橋徵五郎氏ノ租借地トヲ含有シ殘餘三百丈ハ奥行百二十丈ニテ後面亦三百丈タリ後方堤防ヲ隔テ、市街地ニ連接シ地形上最優勝ノ地位ヲ占ムルモノナリ

### ●第十三章 公私上ノ施設

帝國郵便局ト洋務局トハ領事館ノ左右ニ在リ洋務局ニ隣接シテ税關アリ税關長ノ官舎ト相接ス下流ニ向ヒ數十歩ニシテ清國郵便局アリ其後方ニ税關俱樂部アリ又商務會ト稱スル商業會議所ハ青石街ニ在リテ會頭ヲ鄧振璣ト云ヒ當地ノ名望家タリ又商業團體ヲ舉クレハ公所ト會館トアリ公所及會館ノ歴史ヲ討究シ其綱要ヲ提記スルハ清國ニ於ケル商業發達ノ研究上最興味アルコトナレト繁雜ニ涉ルカ故ニ之ヲ省略セリ要スルニ會館ハ同郷人間ノ設立ニ係リ權利及利益ノ保護及同郷人間ニ於ケル不良ノ匡正ヲ目的トシ又公所ハ同業者ノ設立ニ係リ商業上ノ利益ヲ進歩スルノ機關ナレト當地方ニ在テハ公所ヲ有スル者職工間ニ多クシテ振ハサルモノ、如シ左ニ會館及公所ノ名稱及所在地ヲ掲ク

金龍寺	共有基本金ヨリ生スル所得年額四千兩、山西及陝西人ノ會館ニテ沙市街首ニアリ
經太會館	所得年額二千兩、安徽人ノ會館ニテ沙市青石街ニアリ
川主宮	所得年額三千兩、四川人ノ會館ニテ沙市青蓮閣街ニ在リ
禹王宮	所得年額千兩、湖南人ノ會館ニテ沙市官殿巷ニ在リ
孤龍會館	所得年額六七百兩、浙江人ノ會館ニテ沙市莊王廟街ニ在リ
梅檀巷	所得年額四五百兩、十三省總會館ニテ沙市毛家巷街ニ在リ
帝王宮	所得年額三千餘兩、黃州人ノ會館ニテ沙市糸線街ニ在リ
廣東會館	所得年額二百餘兩、廣東人ノ會館ニテ沙市興々坊街ニ在リ
天後宮	所得年額五六百兩、福建人ノ會館ニテ沙市後街ニ在リ
中州會館	所得年額五百餘兩、河南人ノ會館ニテ沙市後街ニ在リ
晴川書院	所得年額千餘兩、漢陽人ノ會館ニテ沙市便河街ニ在リ
萬壽宮	所得年額二千四百兩、江西人ノ會館ニテ沙市便河街ニ在リ
鄂城書院	所得年額千六百兩、武昌人ノ會館ニテ沙市便河街ニ在リ
錢財神殿	所得年額二千餘兩、各省錢舖ノ會館ニテ沙市便河街ニ在リ
金陵會館	所得年額五百餘兩、南京人ノ會館ニテ沙市便河街ニ在リ
女媧公所	瓦工ノ公所ニテ沙市興々坊ニ在リ
嘉蒲公所	石工ノ公所ニテ沙市後街ニ在リ
魯班公所	木工ノ公所ニテ沙市張家巷ニ在リ
鐘臺公所	糸工ノ公所ニテ沙市糸線街ニ在リ

第九卷 第十四章

土地家屋ノ賣買及賃借

安 荆 公 所

裁縫及舟夫ノ公所ニシテ沙市便河東街ニ在リ

西 陵 公 所

織絹工ノ公所ニシテ沙市禹王廟後街ニ在リ

遠 摩 公 所

漆工ノ公所ニシテ沙市大森巷街ニ在リ

咸 寧 公 所

烟工ノ公所ニシテ沙市大森巷尾ニ在リ

水 官 公 所

茶館工人ノ公所ニシテ沙市後街ニ在リ

水 龍 公 所

十三省防火用唧筒事務所ニシテ沙市便河西街ニ在リ

學校ハ沙市ニ高等小學校一、尋常小學校三アリ就學兒童ハ月謝ヲ要セス荆州城内ニ中學堂一アリ學生ハ官費ニテ校舍ノ建築圖書ノ備付等規模ノ見ルニ足ルベキモノアリ高等小學校一、尋常小學校四ニシテ又滿洲人營内ニ中學堂一、方言學堂一、工藝學堂一アリ規模經營ノ稱スルニ足ルモノナシ  
圖書館一沙市系線街ニアリ

善堂ハ沙市ニ四ヶ所アリテ種痘及施療ヲ爲スコトハ既ニ述ヘタリ其他公路行倒人モ亦其管理スル所ニシテ往來ニ死亡者アル場合ニ之ヲ善堂ニ告クレハ乞食ナレハ菰包ミトナシ又旅人ナレハ一二串文ノ棺ニ入レテ共同墓地ニ埋葬スルナリ  
救生堂トハ船難者ヲ救助スルヲ目的トスルモノニテ沙市ニ二ヶ所アリ是亦個人ノ設立ニ係ルモノナリ  
教會ハ沙市ニ天主堂一、福音堂一、聖公會一アリ福音堂ニハ瑞典宣教師アリテ傍ラ醫藥ヲ業トシ聖公會ハ米國宣教師ニテ共ニ新教派ナリ又荆州城内ニハ天主堂一、福音堂及聖公會各一アリ

第十四章 土地家屋ノ賣買及賃借價格

沙市ニ於ケル商業目拔ノ地ニ在テハ一ヶ月ノ家賃二十兩ヨリ三十兩マテノ間ニテ二棟又ハ三棟建ノ家ヲ借り得ヘシ然ラハ賣買價格ハ如何ト云フニ極要ノ市街ニ於テハ土地ハ何レモ富裕者ノ手裡ニ歸シ市場ニ賣買ナキ故一定ノ相場ナク唯價

格トシテハ目拔ノ個所一弓即一坪足ラスノ地價八九十弗ナリト云ヘリ之ニ依テ計算スレハ百坪ノ地面ハ八九千弗ニテ建家ノ見積價格四千弗ヲ加フレハ一萬二千三百弗トナル故ニ二三十弗ノ家賃ニテハ到底收支相償フモノニアラサルモ市街宅地家屋ハ子孫相傳フルノ財産ナルヨリ賃借價格ハ慣習ニ由レルモノト思ハル又洋碼頭ト稱スル汽船入港ノ地ハ一弓七十弗位ニテ本邦居留地ニ在テハ一畝百弗前後ナリト云フ

第十五章 普通勞働者並ニ奴婢ノ賃銀

左ニ普通勞働者並ニ奴婢ノ賃銀ヲ掲ク

鐵 工	一日	百六十文	石 工	一日	二百文
木 工	同	百六十文	瓦 工	同	百六十文
苦 力	同	百六十文	裱 具 師	同	二百四十文
轎 夫	同	三百文	馬 夫	同	二百四十文
織 布 工	同	百二十文	跟 班	一ヶ月	三串文内外
阿 媽	一ヶ月	三串文内外	厨 人	一ヶ月	外則食 十元乃至十二元 支那食 六七串文

第十六章 物 價

左ニ食料品日用諸雜貨及其他ノ物價ヲ掲ク

石 油	一箱	三串二百文	木 炭	一擔	一串二百文
洋 蠟	一包	二百四十文	燐 寸	一包	四十文
木 筆	一打	百九十文	石 炭	一擔	五百六十文

第九卷 第十五章 普通勞働者並ニ奴婢ノ賃銀 第十六章 物價



第九卷 第十七章 本邦人ノ着眼スヘキ事業

手巾	一打	八百文	洋傘	一本	四百八十文乃至 一車二百文
金巾(白)	一丈	五百六十文乃至 八百五十文	棉花	一斤	二百二十文
洗濯石鹼	一個	支那製 三十二文 外國製 六十四文	鷄卵	一個	五文乃至八文
白米	一石(百四十斤)	五串四五百文	牛肉	一斤	六十八文
猪肉	一斤	百四十文	羊肉	同	百六十斤
鷄乳	一斤	百四十文	醬油	同	六十四文
牛乳	一罐	四百二十文	鹽	同	百三十二文
茶	一斤	二百四十文乃至 一車九百二十文	砂糖	同	百二十文
鯉魚	一斤	六十四文	鱒魚	同	八十文
鱈魚	同	七十文	木柴	一擔	三百二十文
飲料水	一荷	四文乃至十文			(道ノ遠近ニ依ル)

第十七章 本邦人ノ着眼スヘキ事業

○第一節 商業

商業ノコトハ第五節及第六節ニ於テ詳述セリ故ニ之ヲ一讀スレハ本邦人ノ着眼スヘキ商業ノ那邊ニ存スルカハ瞭然タルヘシ

○第二節 工業

胡麻油、種油、棉實油ハ本邦ニ在テモ相當ノ需用アリ年々清國地方ヨリ輸出セラレ、モノ少ナカラサルカ其原料ハ何レモ當地方ノ農産物タル故當地ニ於ケル低廉ナル賃銀ヲ利用シテ本邦人ノ製油業ニ従事スルトキハ同一ノ原料ヨリ多量ノ油ヲ搾取シ得ラルヘク又其油粕モ本邦向商品ナル故所謂一舉兩得ニテ好望ノ事業ナルヘシ尙當地ニ於ケル搾油ノ方法及工人ノ賃銀ハ第七節第三項ノ製油ヲ參看スヘシ

木蠟ハ當地ヨリ輸出セルモノヲ本邦ニ於テ更ニ精製シ外國へ輸出スルコトナルカ是亦當地ニ於テ精製スルトキハ工人賃銀ノ低廉ナルノミナラス運賃ヲ省キ數手ヲ省キ輸出入税ヲ節約スルコト、ナル故其利少ナカラサルヘシ是レ最モ本邦人ノ着眼スヘキ點ナリトスサレハ一步進ンテ木蠟ノ果實ヲ買収シ原料品ノ製造ニモ従事スルハ如何ニト云フニ之ハ望ミ能ハサルコトニシテ產地ニ於ケル木蠟製造ノ狀況ヲ聞クニ各地共製造家ト稱スルニ足ルモノナク百斤二百斤ト毎戸ヨリ市場ニ携ヘ來ルモノヲ買集スルニ過キサル故果實ヨリ木蠟ニ製スル業ハ到底望ヲ屬シ得ヘキニアラサルナリ

○第三節 航路

漢口沙市間冬季減水ノ際ニ在テハ航行ノ困難ナルモノアリ最モ各會社ノ汽船ハ特ニ長江航路ノタメ河船ニ製造セルモノニテ水深ヲ淺カラシムルタメニ船底ハ平面ナルカ冬分水深六尺ヲ超ユルトキハ航行ニ適セスト云ヘリ而シテ冬向ハ商業繁忙ノ季節ニテ貨物ノ來往ヲ要スルニ當リ却テ多量ノ商品ヲ搭載シ能ハスシテ夏向ノ増水季ニハ却テ商業ハ緩慢ナリ且冬分ニ在テ航行ノ困難ナルモノハ減水ノ上水ノ瀬ニ一定ノ徑路ナク朝夕變化スル故朝ニ航通セル處モ夕ニハ水深ノ中心ヲ變シテ經過シ能ハサルヨリ擱座スルモノ珍シカラス航行ノ最困難ナルハ減水ノ初季ニシテ極度ニ達スレハ水深ノ中心ニ一定ノ徑路ヲ生シ却テ航シ易キモノアリト聞ケリ各會社共上流ノ航路ハ有利ノコト、モ思ハレス某會社ノ如キハ每航

河多少ノ損失アリト云ヘリサレト漢口、宜昌間ノ航路ヲ有セサレハ上海、漢口間ノ荷物船客ヲ誘致スルコト少ナキヨリ競争上互ニ此航路ヲ有スルモノナラン宜昌上流ニ至テハ到底交通ヲ商業トナスノ状態ニアラサルハ火ヲ見ルヨリモ瞭カナリ

### ○第四節 教育

教育ハ慈善事業トシテ格外ナルモ一種ノ職業トシテハ何等ノ希望アルヲ見サルナリ最モ從來新式教育ノ振ハサリシハ秀才、舉人、進士杯云ヘル試験法ノ然ラシムル所ニシテ清人間ニ重視セラル、官吏タルニハ此途ニ依ルノ外ナク偶新式教育ヲ受クルモ成功セルモノニテ秘書官位ニ止マリシ從テ意ヲ傾クルモノ少ナカリシカ既ニ舊試験法ノ廢止セラレ官吏登用法ノ改マリタル今日所謂新式教育ハ衣食ト密着ノ關係ヲ有スルニ至リタル故將來ハ教育モ或ハ本邦人ノ着眼スヘキ事業ノ一ナランモ現今當地方ニ於ケル状態ニテハ何等ノ利益アルヲ見サルナリ

### ○第五節 宗教

宗教上清人間ニ於ケル信念ノ程度那邊ニ存スルヤハ實ニ疑問ナリ既ニ説述セル如ク由來名ヲ成サントスル徒ハ孔門ニ集リ偉才俊傑ノ士ハ爭テ其教義ヲ發揮シ宗教界ニ野心ヲ抱クモノ少キヨリ宗教ハ自然萎微振ハサルニ至レルナリ今日ニテハ僧侶ハ精神界ヲ支配スルノ能力ナキハ勿論一般ニ乞食視セラレ齒牙ニ掛クルモノナシ故ニ少シク文字ヲ解スルモノニ佛教信者アルヤト問ハ、必ス否ト答フヘシ要スルニ僧侶宗教ヲ知ラス其否ト答フルモノ亦何タルヤヲ解セサルモノニ有様ナリ故ニ智識ノ名僧アリテ宗教ノ有難味ヲ感セシムルアラハ案外ニ成功スルヤモ計ルヘカラサルナリ信念ノ有無スラ一見明了ナラサル如キ觀アルモ内實ハ清人一般迷信ニ富ミ冥福ヲ菩薩ニ祈念セントスルノ情アルハ明ニ認ムル所ナリ菩薩ヲ作リタル僧侶ハ死シ僧侶ノ作リタル菩薩ハ尙魔力ヲ有スル姿ナレハ其盛衰ハ之ヲ活動セシムル僧侶ノ有無ニ係ルコト、思ハル今日至ル處ニ巨利ノ美觀ヲ極ムルアリ又寺院ニ少ナカラサル財産ノ存スルアルハ昔日ノ盛大ヲ想像スルニ餘リアリサレト基督教ノ例ヲ見ルニ新舊教共布教數十年ノ久シキ未タ成功ノ稱スルニ足ルモノアルヲ見サルカ是ハ舊慣ニ頑冥ナル清人ヲ外教ニ移スノ困難ナルト又一ハ布教ノ方法ニシテ識者ノ首肯セサルモノアルトニ依ルコトニテ宗教心ノ有無ヲ斷スルニ足ラサルヘシ然ルニ佛教ハ清人ノ宗教ニシテ既ニ信念ノ基礎ヲ有スルコトナレハ其信念ト迷信トヲ利導シ布教ノ方法其當ヲ得ハ恐クハ有望ナルヘキモ固斯業ハ人ニ屬スルコトナレハ一概ニ斷定スヘカラサルナリ又副業トシテハ農藝又ハ普通教育及醫術ノ類必要ナルヘシ(完)

清國事情第九卷終

第十卷 在福州帝國領事館管轄區域內事情

(明治三十九年九月十日付在福州帝國領事高橋橋太郎報告)

第一章 地勢面積人口及職業ノ大要

○第一節 管轄區域

本館ノ管轄區域ハ福建省中、福州府、延平府、邵武府、建寧府及福寧府ノ五府ニシテ北ハ分水嶺ヲ隔テ、浙江省ト界シ西ハ南嶺山脈中ノ雲際嶺、極高嶺等ノ諸山ヲ以テ江西省ト接シ、南ハ在廈門帝國領事館管轄内タル汀州府、永春州、及興化府等ト隣リシ東方一帯海ニ面ス、而シテ上記五府ハ行政上更ニ左ノ三十二縣ニ分テリ

- 福州府 (十縣ヲ管ス)
- 閩侯 官連 江長 樂羅 源永 福
- 福清 閩清 古田 屏南
- 延平府 (六縣ヲ管ス)
- 南平 順昌 將樂 沙尤 溪永安
- 邵武府 (四縣ヲ管ス)
- 邵武 光澤 建寧 泰寧
- 建寧府 (七縣ヲ管ス)
- 甌寧 建安 建陽 崇安 浦城 松溪

第十卷 第一章 地勢面積人口及職業ノ大要

政 和

福 寧 府 (五縣ヲ管ス)

福 鼎

福 安

寧 德

壽 寧

霞 浦

○第二節 地 勢

管内ノ地勢ハ一言ニシテ之ヲ盡シ得ヘシ、曰ク、「險峻」

南嶺山脈ハ延ヒテ海岸ニマテ達スルヲ以テ到ル所、山嶽連亘シ峯巒重疊シテ双陣遠行悉ク山ナラサルハナク、平地ヲ見ルコト殆ント稀ニシテ加フルニ地味礫礫田園ノ耕スヘキモノ甚タ多カラス、郷邑村落ハ皆山間谿谷ノ間ニ介在シテ一見個々獨立ノ形ヲ成スヲ以テ管内地ヲ旅行スル者ハ殆ント大陸的ノ觀念ヲ發スルニ至ラス、管内否本省第一ノ大河タル閩江ノ沿岸ト雖モ花崗石或ハ片麻石等ヲ以テ造ラレシ山嶽丘陵ノミニシテ偶々平野ト稱スヘキモノモ僅々哩餘ヲ出テサル沖積層ノ低地ニ過キス、管内ノ最大平野ト稱スル、福州ノ廣野ハ其最長部分ニ於テ僅ニ四哩餘ヲ出テスシテ山嶽ニ達スルヲ以テ知ルヘシ、而シテ沿海ノ地ト雖モ亦平地ト稱スヘキモノナク、三都ノ開港地ト雖モ三沙灣内ノ三都嶼中ニ在ルモノニシテ平野ノ見ルヘキモノナシ、海岸ニハ大小幾多ノ島嶼點在シテ海岸線ハ比較的長キノミ

管内唯一ノ交通機關タル閩江ニ就テ一言セシ、閩江ハ福建省第一ノ大河ニシテ源ヲ遠ク江西省ノ界ニ發シ途中金溪(都武建寧及泰寧ノ兩縣地方ヨリ來)沙溪(汀州府下屬化清流連城等ノ水ヲ集メテ來ル溪ト稱ス)建寧溪(崇安縣地方ノ水ヲ集メテ來ル溪ト稱ス)尤溪(建寧府城ノ附近ニ至リテ浦城縣地方ヨリ來ル溪ト稱ス)延平溪(延平府城ノ附近ニ至リテ浦城縣地方ヨリ來ル溪ト稱ス)屏南溪(屏南縣地方ヨリ發シ古田ノ南ヲ流レテ海ニ注ル)等其幾多ノ小流ヲ合シテ一大江トナリ福州ヲ貫流シテ馬尾ニ到リ、此處ニ諸汽船軍艦等ノ碇泊場ヲ作リテ海ニ入ルモノナリ而シテ本流ハ河口ヨリ約四十五哩許リノ上流洪塘ト呼フ所ニ於テ二派ニ分岐シ一ヲ烏龍江ト稱シ南臺島ノ西南方ヲ繞リテ陽岐村ノ西南邊ニテ永春州德化縣地方ヨリ來ル大樟溪ト合シ他ノ一ハ則チ閩

江ノ名ヲ襲ヒテ洪山橋ヲ過キテ南臺ト城市ノ間ヲ流レ馬尾ニ至リテ兩河合一ス、南臺居留地ハ則チ此ニ流ヲ以テ圍繞セラレタル一大島中ノ一部分ニ在リ、而シテ河口ヨリ上流二十六哩ノ馬尾迄ハ商船及ヒ軍艦等ハ潮ノ干滿ヲ見テ自在ニ出入スルヲ得ヘク、馬尾ヨリ九哩許リノ福州萬壽橋下迄ハ小蒸汽ハ勿論、滿潮ノ際ハ二百噸内外ノ汽船モ亦往來シ得ヘシ、當時洪山橋(南臺ヨリ約五哩ノ上流)ヨリ水口(福州延平間ノ大驛ニシテ福州ヲ去ル九十里餘清里)ニ到ル間ハ福州輪船公司小蒸汽ノ往來アリ、若シ夫レ吃水淺キ河船ノ如キニ至ツテハ遠ク百哩以上ノ水源地附近マテ通スルヲ得ヘシ、而モ上述ノ本流ニ注入スル幾多ノ支川ハ四府一州三十縣ノ地ニ跨リテ其流域實ニ三百哩以上ニ及ヒ、沿岸城壁ヲ有スル都市二十七アリテ日々福州市場ヲ出入スル大小ノ戎克船ハ無慮百ヲ以テ算スヘシ、實ニ福建省北部ノ生命ハ正シク閩江ノ一水ニ歸ス、本省ノ首府トシテ人口約三十餘萬(從來ノ諸報告ハ概シテ實ヲ失セリ)ノ大都トシテ福建省全省ノ面積約九千方邦里ノ廣地ニ蔽ム福州ノ今日アル所以ノモノモ亦主トシテ此江アルカ爲メノミ、舟居者幾萬ノ生靈カ嬉々トシテ衣食スルモ此江アルカ爲メノミ、當地カ内陸地方ノ貨物集散場タルモ亦此江アルカ爲メノミ、嗚呼觀シ來レハ閩江ノ功德ヤ夫レ千萬無量ナルヘシ、唯惜ムラクハ年々數回ノ汎濫ニテ上流ヨリ押シ來ル土砂ハ福州附近ニ堆積シテ益々河底ヲ淺フスルモ逸情ノ支那官民ハ捨テ、之ヲ顧ミサルカ如キハ福州將來ノ爲メ、甚タ憂フヘキコトニシテ閩江ノ生命ハ今日一日ト短縮シツ、アリ、早晚之レカ淺深ノ法ヲ講セサルハ終ニ汽船ハ勿論霧波、上海、泉州其他ノ各港ヨリスル戎克船モ亦馬尾ニ止マリテ福州ニ其跡ヲ絶ツニ至ランカ

○第三節 面 積

管内ノ面積ニ就テハ其精確ヲ知ルニ由ナシ、當地布政使衙門ニ就テ聞クモ更ニ要領ヲ得サレハ今之ヲ明言スル能ハスト雖モ各書ノ記スル所ニ據レハ福建總面積ハ五萬三千四百八十方哩トイヘハ當館内ハ福建省ノ約五分ノ二ニ當ルヲ以テ二萬一千三百九十二方哩ト見テ可ナラン、今之ヲ我國ノ面積ト比較センカ四國九州ヲ合セシモノヨリ稍小ナルニ過キス、然レトモ地勢ハ險峻ナルヲ以テ其大半ハ山地ナリト雖モ山林田野ノ區別ハ更ニ不分明ナリ

○第四節 人口及職業ノ大要

人口ニ至リテモ清國ニテハ戶籍法ナキハ勿論戶籍臺帳ノ備ヘスラ之ナキヲ以テ戶口ノ調査モ亦面積ト同シク到底其精確ヲ望ムヘカラス、今ヨリ二十餘年前ニ於ケル西人ノ調査ニ據レハ福建ノ總人口ハ一千四百八十萬ト云ヘハ今日ハ少クトモ一千六百萬以上アルヘシ、サレハ管内ノ人口ハ其五分二、即チ大約六百五十萬内外ナランカ、職業ニ關シテモ亦何等據ルヘキノ標準ナシト雖モ先ツ大體ニ於テハ農五〇、商三五、漁業船乘手工業等十五位ノ比ナラン

●第二章 管内ノ特長

管内山嶽多クシテ水田稀少ナルカ故ニ米穀ノ産出多カラスト雖モ氣候溫暖ナルカ爲メ山ヲ開テ茶園ト成セルモノ甚タ多ク製茶ノ年々歐米ニ輸出セラル、モノ實ニ六百萬兩ノ巨額ニ上リ其一盛ハ誠ニ管内諸般ノ事業ニ影響ヲ及ボスモノニシテ管内唯一ノ特殊産物タリ、茶ニ次クハ竹紙材木等ニシテ又毎年五十萬乃至七十萬兩餘ノ輸出アリテ此三者ハ福州輸出品中ノ三大王トモ稱セラル、延平府下沙、永安及尤溪ノ三縣地方ノ如キハ以上ノ三者ヲ出スヲ以テ名アリ、茶ハ武夷茶最モ名高ク建寧府内ノ烏龍、福寧府内ノ白琳ノ紅茶之ニ次ク殊ニ福寧府内ヨリ産出ノ紅茶ハ年二百萬兩許リニ上ツテ總輸出茶ノ三分一ヲ占ム、其輸出港三都澳ノ開港サレシモ亦之レカ爲メナルヘシ、材木ニ次イテ乾筍ハ又輸出品中ノ大宗ニシテ邵武及延平ノ兩府管内ヨリ年々三十萬兩以上ノ輸出アリ、鐵物トシテハ石炭、銅、鐵、鉛等ノ鑛脈廣シトイフモ未タ開掘ニ着手セラレヌ先年佛國ノ江、邵、延地方鑛山ノ探掘權ヲ獲得スルヤ世人ノ張膽刮目甚タシカリシモ四年後ノ今日未タ其着手實行ヲ見ナルハ成功ノ見込覺束ナキニヤ、目下只管内ニテハ邵武府邵武縣管内ニテ僅ニ邵武煤炭局ナルモノアリテ少量ノ無烟炭ヲ人工ニテ開掘ナシ居ルト福寧府福安縣管内ニテ僅少ノ鐵ヲ人工的ニ開掘中ナリト云フモ專門家ノ調査ヲ待タサレハ果シテ有望ノモノナルヤハ明言シ難シ、其他果物トシテハ荔枝、龍眼肉、橄欖及蜜柑等

ノ或ハ干果トシテ、或ハ砂糖漬トシテ、或ハ鹹漬トシテ、或ハ菓子トシテ、或ハ陳皮トシテ支那各省ニ輸出セラル、モ近年々凡ソ二十萬兩ニ及フ又管内ノ一特長ナランカ

●第三章 衣食住ノ状態

○第一節 衣

清人ノ衣服ハ貴賤貧富ニ應シテ粗、精ノ別アルモ其式樣ハ略ホ一定シテ我國ノ如ク區々雜多ナルコトナシ、只其下記ノ褂ノミハ前胸ノ中央ニ鈕扣ヲナシ又襟モ或ハ右側或ハ中央ニ鈕扣ヲ爲スアルモ其他ニ至ツテハ總テ前胸ノ右側ニ於テ上ヨリ下ニ鈕扣ヲ以テ装着シ其裾ハ垂放スルコト殆ント定制ナリ、而シテ其服裝ニハ上衣ト下裳ノ別アリ、上衣ハ衫、襖、褌、袍子、開襟袍子、褂、軍機褂、背心等ニシテ下裳ハ褲、裙、褲腿、馬褲等ナリトス、衫ハ寸長キ筒袖ノ單衣ニシテ、褌ニハ細身寬身ノ二様アリ細身ハ袖ノ細細ナルモノ、寬身ハ袖ノ寬大ナルモノニシテ衫ノ短カキモノ尙ホ洋服ニ於ケルコートノ如シ、褌ニハ裕、綿入レ或ハ皮裏附ノ三種アリテ又長短ノ別アリ、長褌ハ衫ノ如クニシテ單物ナラサルモノ、短褌ハ褌ノ如クニシテ又單物ニ非サルナリ、袍子ニハ單アリ裕アリ、綿入レアリ一般人民ノ禮服ニシテ又官吏ノ正服タリ、其形長褌ニ比シテ稍短カク且ツ袍子ヲ着セシ時ハ必ス其上ニ帶ヲ卷クモノトス、開襟袍子ハ袍子ニ比シテ只前後ノ中央其裾ヲ約二尺許リ開放シアルモノニシテ又官吏ノ正服或ハ人民ノ禮服トシテ袍子ト同様ニ着服セラル、褂ニハ長短ノ別アリ長褂ハ其長サ袍子ノ如ク短褂ハ短褌ノ如キモノナルモ鈕扣ハ必ス前胸ノ中央ニ在ルコト尙洋服ノ如クニシテ又單褂ノ別アリ、共ニ必ス禮服トシテ袍子ノ上ニ着用スルモノニシテ短褂又一ニ馬褂ト云フ、最モ多ク用ヒラル、軍機褂ハ馬褂ノ一種ニシテ只鈕扣ハ大襟即チ衫、褌、袍等ノ如ク前胸ノ右側ニ在ルモノトス又馬褂等ト同様袍子ノ上部ニ着用スル禮服ナリ、背心俗ニ甲仔ト云フ尙チヨツキノ如キモノニシテ兩袖ナク、夏季ハ單、秋季ハ裕、冬季ハ毛裏又ハ綿入ニシ

第十卷 第三章 衣食住ノ状態

テ衫襖ノ上ニ或ハ袍子ト褂ノ間ニ、或ハ夏季極暑ノ時ハ褌ヲ着セシテ褌ト背心ノミナル者少カラス主トシテ男子用ナリ、褌ハ即チズボンニシテ單袴ノ二種アルモ一年ヲ通シテ最も多ク穿用セラル、ハ單褌ナリトス、裙ハ尙ホ我國ノ袴ノ如キモノニシテ婦女子カ外出ノ際ニノミ穿用サル、褌襖ハ又套褌ト云フ、褌ノ上ニ穿ツモノニシテ單袴或ハ綿入レノ種々アリ、其形ハ裾ヲ紐ニテ結ヒ後脛部ハ開放シアルモノニシテ主トシテ衫、長襖、其他禮服ヲ着用ノ際ハ必ス褌ノ上ニ穿ツモノナリ、馬褌ハ褌腿ト同シク又褌ノ上ニ穿ツモノナルモ只其異ナル點ハ褌腿ノ如ク後脛部開放セシテ褌ノ裾ニ紐ヲ結ヒシカ如キモノナリ官吏ハ多ク之ヲ穿用ス

上流社會ノ者ハ概シテ衣冠ヲ正シ以テ風彩ノ損セザランコトヲカム其製服材料ノ如キハ多クハ絹織物タル所謂綢緞類ヲ用ユ、綢緞ハ蘇杭及ヒ寧波産ノモノ最も多クシテ其色ハ蝦茶、淺黃、紺、黒、青、紫等ノ無地ニ同色ノ縞アルモノニシテ男ハ大形ノ花模様或ハ紋様ノ浮織物多ク、女ハ紅、茶、紫、桃色、樺色等ノモノニ同色ノ梅、竹、芙蓉花ナト概シテ華美ナルモノ多シ、其無地モノニ至ツテハ褌トシテ用ヒラルルモ其他ニハ多ク用ヒラレス、然レトモ夏期ハ葡萄色或ハ鼠色等ノ無地物又ハ麻布ニ漆ヲ布キシ所謂廣東布ナト用ユルコト多ク、其他水色、淡藍色、白等ノ紗或ハ絹等多シ、若シ夫レ官吏ノ正服タル褂ノ如キニ至ツテハ此等高級ノ絹布ニ尙ホ繡飾ヲ施セルモノニシテ其色紺或ハ黒色ヲ用ヒ、位階ニ據リテ胸背ノ章ヲ異ニス、蓋シ文武ノ區別アリ其紀章ハ文官ハ鳥類ヲ以テシ武官ハ獸類ヲ以テス、總テ金銀糸ニテ縫泊スルモノニシテ又文官ハ一品ヨリ五品マテ武官ハ一品ヨリ四品マテ珊瑚、玉石、牙骨、或ハ桃核或ハ蜜蠟或ハ松脂等ニテ作製セシ珠數ヲ頸ニ掛ケ胸前マテ垂下ス之ヲ朝珠ト云フ、珠ノ數ハ一百八個ヲ以テ定則トナス、又軍功アル武官ハ皇帝ヨリ特ニ黃襪ヲ賜フノ例アリ、之ヲ着スル者ハ無上ノ名譽ナリト云フ、次ニ中流社會ノ者ハ緞子、綾、絹布等綢緞類ノ稍粗ナルモノヲ用ユルモ近來ハ主トシテ平素ニ淡藍色ノ舶來金巾ヲ用ユルモノ少カラス、夏季ノ如キハ下着ト褌ニ白土布、晒金巾、或ハ天竺布等ノ類ヲ用ヒ葡萄色ノ絹布製ノ褌腿ヲ穿チ衫トシテハ上半部白紗或ハ夏布ニテ作り下半部ハ水色ノ絹ニテ作りシモノヲ着スル者甚タ多シ、又褌、褌共晒金巾、天竺布或ハ稍々上等ノ者ニ至ツテハ夏布又ハ廣東

襪ノ胸背ノ

朝珠

布ヲ用ユルモノアリ、殊ニ廣東布ハ茶褐色或ハ黒色ナルヲ以テ汚染不潔ハ目立タヌ又麻布ナルヲ以テ夏季皮膚當リハ宜シキカ故ニ近來平素ニ此種ノ衣服ヲ着用スル者漸ク増加ノ傾向アリ、婦女小兒ニ至ツテハ廣東布或ハ水色ノ麻布ヲ用ユルモ亦紅、青、桃色等中柄ノ木綿縮布或ハ更紗ノ形置キ等ヲ着用スル者間々ナキニアラス、下等社會ニ至ツテハ總テ綿布ニシテ専ラ土布ヲ用ヒシカ近來舶來金巾ノ價廉ナルヨリシテ此等水色ノ金巾或ハ生金巾ヲ黒ク染メシモノヲ用ユルモノ多シ、殊ニ下等勞働者ノ如キ夏期極暑ノ節ハ身體ノ上部ハ殆ント裸體ニシテ腰ヨリ以下纔ニ薄キ黒又ハ藍色ノ木綿褌ヲ穿ツノミ、冬季ハ上部ニ土布、又ハ洋布ノ褌或ハ短襖ヲ三四枚多キハ五六枚ナト其有リ丈ケヲ重着ナシ、下部ハ如何ナル寒天ニテモ一枚ノ單褌ヲ穿ツノミニシテ足ハ勞働時間四時共ニ洗足ナルモノ多シ

常用衣ノ色

要スルニ支那人ハ一般ニ黃色ハ皇帝ノ御紋色ナリトテ之ヲ避ケ又白無地ノモノハ不吉(夏季ヲ除ク)ナリトテ之ヲ忌ムノ外其他ノ色合ハ大抵之ヲ用フ、而シテ中流以上ノ者ハ平時ニ在リテハ夏季一般ニ麻布ヲ用ヒ晴衣ヲ着スル場合ハ紗、絹等ノ絹布ヲ用ユ、其色ハ白、水色、藍色、葡萄色、桃色(婦女兒ニ限ル)等主トシテ淡泊ナルモノ愛セラル、冬季ハ平時ニ在リテハ綢緞ノ粗ナルモノ、禮服ニハ祖先傳來ノ高價ナル華美ノ晴着ヲ用ユ、其色蝦茶、青、紺、紫、紅(コハ婦女兒ニ限ル)等多シ、又極寒ノ候ハ概シテ裘衣ヲ着ス裘衣ニハ種々ノ制限アリ、猊リニ着スルコトヲ得ス例ヘハ貂ノ裘衣ハ一二品官ノ高官ニ非サレハ用ユルヲ得ス三品官ハ唯領ニノミ之ヲ許スカ如シ、豹、獺、黑猫、銀鼠等ノ皮ハ上等品ニシテ長毛ノ羊皮之ニ次ク、中流以上ノ者ハ主トシテ老羊ノ皮ヲ用ユ、羅紗ハ舊來嚴禁ナリシカ近來ハ上流社會或ハ外人ニ關係アル少數部分ノミ平素之ヲ用ユル者漸次増加ノ傾向アリ其色茶、鼠、紺等多シ「フランネル」ハ冬衣ノ下着又ハ小兒用ノ衣服トシテ縦縞或ハ紫、紅色等ノ無地ヲ用ユルアリ

衣服材料ノ仕出地 生金巾ヲ半巾ニ丈六尺四寸ノ長サニ裁チ之ヲ水色ニ染メタルモノ一反ノ賣價一元三十仙内外ノ品近來著シク英國ヨリ輸入サレ、羅紗ハ又英國ヨリ「フランネル」ハ獨逸、伊太利等ヨリ、生金巾、天竺布、晒金巾、雲齋布、更紗、緋金巾、染金巾等ノ綿織物ハ主トシテ英米ヨリ輸入サル本邦品トシテハ金巾、天竺布、綿子布、木綿縮布等近

來増加ノ傾向アリ、日露戰爭ニテ價格騰貴ノ爲メ一時其輸入ヲ斷チシカ今後ハ相當ノ輸入ヲ見ルナラン、上布トハ其名  
ノ如ク清國產ノ木綿織物ニシテ當管内ニモ之ヲ製織スト雖モ杭州、蘇州、寧波、上海等ノ諸地方ヨリ年々輸入ナル、モ  
ノ約六十萬兩内外アリテ殆ント外國輸入ノ綿織物總額額ニ匹儔スルノ觀アリ、清人ノ上中下ヲ論セス下着トシテハ總テ  
此土布ヲ着用セラルモノニシテ民度低キ支那人ニハ一般ニ歡迎サル、其縞柄トシテハ多ク藍棒細縞カ其縞柄ナルモ亦婦  
女小兒ノ衣服用トシテ置形ノモノモ少カラズ

帶ハ袍子ヲ着セシ時ノミ腹部ニ結束スルモノニシテ綢ノ葡萄色、水色、濃藍色等ノモノ最モ多シ、而シテ其帶ノ間ニハ  
烟袋、時計、眼鏡「サツク」等ヲ佩フルヲ例トス

襪ハ靴下ノ言ヒニシテ又單、裕、綿入ノ三種アリ、其底ハ多クハ雲齊布ニシテ上部ハ專ラ金巾或ハ天竺布等ナリトス、  
然レトモ極寒ノ時老人或ハ病者ノ穿ツ綿襪ハ土布タル白木綿ヲ以テ製ス

官帽ト頂子

冠帽ニ官帽便帽ノ二種アリ官帽又暖帽涼帽ノ二様ニ分ツ暖帽ハ蘇杭產ノ青緞即チ黑縐子或ハ絨即チ黑天鵝絨ヲ以テ製  
シ其形圓形ニシテ其緣又圓ク且ツ上方ニ仰反シテ頂上赤色ノ糸線ヲ垂レ中心ニハ官ノ位階ニ據リテ頂子ト名クル球玉金  
石ノ類ヲ着ク又勤勞アル者ハ花翎、翎藍ト稱スル羽毛ヲ帽子ノ頂上ヨリ垂下ス此外貂冠ト云フアリ暖帽ニ貂皮ヲ附ケシ  
モノニシテ極寒ノ節之ヲ冠ス、從前ハ文官四品以上武官三品以上ニ限りシカ現時ハ此制ヲ廢シテ總テノ官吏ハ一般ニ之  
ヲ冠スルヲ得ヘシ、涼帽ハ又縷笠、草笠笠ノ二様アリ縷笠ハ緣アリテ竹篋即チ本地產ノ竹ヲ絲ノ如ク削リテ編製セシモ  
ノニシテ多クハ文官用ニ供セラシ、草笠笠ハ無緣ニシテ山東省德州產ノ草維ヲ編ミシモノ主トシテ武官ニ服用セラル其  
形ハ何レモ半球形ニシテ其纒ノ長サ帽邊ニ均シ便帽ハ人民一般ニ之ヲ冠ス又暖涼ノ二種アリ暖帽ハ官帽ト同シク青緞或  
ハ絨(凡テ絨ハ清國產ノ類ヲ以テ製シ其形小桶ヲ伏セシニ似タリ又頂子ナク紅糸或ハ紅乃至薄紅色ノ石珠ヲ編ミシモノヲ以  
テ之ニ代ユ、涼帽ハ略ホ官帽ニ於ケル涼帽ト同シ只頂子ナキノミ然レトモ夏季ハ平生之ヲ冠スル者極メテ少ナシ、而シ  
テ支那人ハ一般裘中ニ在リテハ官民ノ差別ナク總テ青布即チ黑木綿或ハ灰色綿布ノ帽ヲ冠スルヲ例トス

長靴ト短鞋

靴ハ長靴短靴ノ二種アリ官民ノ別ナク專ラ縐子或ハ天鵝絨ヲ以テ製シ其底ハ地ニ接スル部分ノミ皮ヲ用ヒ其他ハ土布  
或ハ粗布ノ屑切ヲ用ユ近來此種ノ皮底用トシテ我國ヨリ牛皮ヲ輸入スルモノ稍々増加ノ傾向アリ、長靴ハ中流以上殊ニ  
官吏ノ常用靴ニシテ短靴ハ一般ニ平素ノ穿用ニ供セラル、皮製長靴及黑木綿ノ木底鞋ハ雨天ノ際ニノミ穿テ衷中ハ又總  
テ黑木綿或ハ灰色綿布製ノ短鞋ヲ穿ツヲ例トス

○第二節 食

主食ト副食

茶油ノ多用

當地清人ノ食物ハ米食ヲ主トシ副食物トシテハ野菜、豚、野羊、鶏、鴨、魚類等重ナルモノニシテ總テ脂肪ノ多キモノ  
油ノ濃キモノヲ嗜好ス、淡泊ヲ主トスル汁物ノ中ニモ必ス豚油、蝦油或ハ植物油(植物油トシテハ茶油、麻油等其種類  
數種アルモ就中茶油ヲ最モ多用ス)ヲ調和ス  
ルコト恰モ我國ニ於テ鯉節ヲ用ユルニ同シ、豚ハ其常副食物ト云フモ可ナリ、而シテ中流以上ノ食事ニシテ一汁一菜ナ  
ト云フ粗末ナル膳部ヲ用ユルコトナシ多クハ七八種少キモ五六種ヲ下ラス、若シ夫レ宴會等ノ盛饌ニ至リテハ所謂山海  
ノ珍味ヲ排列シテ數十種ニ及フモノアリ其種類ノ多キヲ尙フ、一般ノ食事ハ我國ト同シク一日三回(但シ當地ニ在ル滿洲旗人  
方人ト同シク一日二回ノ食事ニシテ  
外ニ朝夕二回ノ點心ヲ食スルナリ)ニシテ朝食ハ粥ニ香物油乳(麥粉ヲ煉リテ茶油  
ニテ搗クシモノ)或ハ豆腐ノ味噌漬タル豆乳及ヒ僅少ノ肉類若  
クハ乾鹽魚其他落花生ノ類ヲ用ヒ稍淡泊ナルヲ常トスルモ晝夕ノ二食ハ魚肉、獸肉或ハ鳥肉等ヲ用ヒシ葷菜ニシテ又必  
ズ鹽汁ヲ附スルヲ例トセリ、米ハ中流以上ノ者ハ黃尖(ウシチユン)ト稱スル秋季收穫ノモノヲ最モ多ク常食トス其價一石(約我カ五  
斗六升)五圓五六十錢ナリ、中流以下ノ者ハ白米或ハ紅米ト稱スル夏季收穫ノ早稻米ヲ常食トナス其價白米ハ一石四圓  
内外紅米ハ三圓内外ニシテ田舎ノ小作人ハ紅米ヲ食スル者甚タ多シ、又管内地ノ貧民及ヒ沿岸ノ漁夫ニシテ蕃薯米ト稱  
シテ薩摩芋ノ切乾シタルモノヲ煮テ米食ニ代ユル者アリ、甘米ハ福州ヲ去ル北四十浬里餘ノ北嶺地方及ヒ連江縣下坑嶺  
地方ニ産スル良米ニシテ我國ノ上等米ニ均シク一石ノ價八圓乃至九圓ニシテ當地上流社會ノ清人及ヒ在留邦人ノ常食米  
ナリトス、而シテ支那商人ノ多クハ家ニ福神ヲ祀ルカ爲メニ一ヶ月ニ一回乃至二回日ヲ期シテ種々ノ馳走ヲ作り店員一

同打寄リテ會食ス、此外又毎日午後三時過ぎ及ヒ夜間就寝前ノ二回ニ於テ點心ト稱シテ饅頭ノ類ヲ食ヒ茶ヲ吃ス或ハ又麵類粥等ヲ食フモアリトイフ、某外人會テ曰ヘルアリ、「支那人ホト世界最上ノ料理ヲ食ヒ又最下等ノ食物ニ甘ニスル者ハ無シ」ト宜ナル哉其上流社會ノ驚クヘク美食ヲ貪ルニ反シ其賤民ニ至ツテハ誠ニ一飯一菜ニシテ肉食アルモ其量極メテ少ナク時トシテハ麵ヲ啖ヒ粥ヲ啜リテ飯菜ヲ廢スルコトアリ若シ夫レ苦力橋夫等ノ下等勞働者ニ至ツテハ殆ント一定ノ常食ナク或ハ一碗ノ雜炊ニ飢ヲ凌キ或ハ露店ニ嚮ク粥ヲ啜リテ其日ヲ送り或ハ饅飽或ハ點心ノ類ヲ食ヒテ以テ悠々生計ヲ營ム者少カラス併モ其忍勉儉蓄ノ精神ニ富ムハ彼等ノ長所ナランカ、抑モ支那人ハ蔬菜ヲ除キ總テ熟食ヲ要スルハ其上下ヲ問ハス貧富ヲ論セス一般ノ風習ニシテ其用法タル甚タ博ク且ツ料理法ヲ精巧ニシテ調理ノ巧妙ナル實ニ日本人ノ想像外ニシテ一見不潔汚穢ノ感アルモ之ヲ食フ時ハ其美味真ニ舌鼓ノ感ナキニアラス唯其器物ノ不潔ニシテ油染シタルト清潔ノ點ニ於テ無頓着ナル清人ノ料理タルトヲ以テ潔癖アル邦人ハ之ヲ食フヲ不快トスルナルヘシ又支那人ハ其料理ニ日本人ノ如ク醬油或ハ味噌ノ類ヲ用ユルコトナク總テ鹽ヲ以テ味附ヲナスモノニシテ醬油ハ或ル副食物ヲ之ニ浸シテ食フ際ニノミ多ク用ヒラレ味噌ハ主トシテ味噌漬用トシテ需要セラル

酒ノ種類

酒ハ其種類甚タ多シ福州産ノモノニテハ礶老(又老酒ト云フ)高粱、燒刀、五加皮、國公、綠豆燒、玫瑰露、烏豆老、老紅酒、桂花酒、參老、寶圓大極老等重ナルモノニシテ米豆、高粱、果物或ハ藥品等ヲ用ヒテ釀造サル外來酒トシテハ浙江省紹興府産ノ紹興酒、廣東産ノ糯米酒、雪梨酒、黑米酒等主ナルモノニシテ中流以上ノ支那人ハ最モ多ク紹興酒ヲ常飲ス、紹興酒ニハ數種アリ花彫、紅礶、葉包、什排等ニシテ花彫ヲ最上品トナシ其價六七年ヲ經シ上等品ハ一甕(約我カ六升餘アリ)二十二元ニシテ下等品モ尙ホ四元許リノ價ヲナシ上流社會ノ官吏富豪家多ク之ヲ用ユ、紅礶、葉包、什排等順次之ニ亞キ其價一甕(花彫ノ甕ヨリ少クシテ約我カ四升餘リナリ)一元七八十錢ヨリ一元二十錢位ニシテ葉包什排最モ多ク需要セラル、下等社會ニ於テ最モ歡迎ナル、ハ礶老即チ老酒ニシテ其價一甕(其價十六分ノ九、銅錢三十二文ヨリ安キハ二十四文位ナルモ赤壺ニ入レ置キテ斤目ニテ賣買スルモアリ、而シテ支那人ハ一般ニ古酒ヲ尙ヒ五六年以上ヲ

經シモノ甚タ貴シ、酒糟ハ専ラ紅袖ト稱スル永福産ノ紅豆ノ如キモノ、汁液ニテ血ノ如ク染色シテ魚肉其他主トシテ菜類ヲ漬ケルニ用ヒラル、外國酒トシテハ近來三鞭酒シニリ、ウイスキー、ブランデー、赤葡萄酒其他麥酒等輸入セラル、モ多クハ在留外人ノ飲料ニ供セラレ支那人中飲用スルモノハ高官紳商等ノ少數部分ニ限ラル、序ヲ以テ清人食事ノ模樣ヲ略言セン、支那人ノ食事ハ食棹ヲ圍ミ腰掛ニ倚リテ輪坐ス通常ノ食棹ハ各側ニ二人宛坐シ四側ニテ都合八人坐シ得ルヲ以テ之ヲ八仙棹ト云フ、或ハ圓棹アリ十人内外ノ家族ヲ有スル家ニハ間々之ヲ用ユルアリ、殊ニ宴會ノ際ナトハ主トシテ此圓棹ヲ使用ス、而シテ一家内ト雖モ男女同席セス(但シ夫婦及其子ノミニシテ他人混シ居ラサル時ハ此限リニ非ス)且ツ肉刺肉刀ヲ用ユルコト極メテ稀ニシテ我國ノ如ク竹、木或ハ象牙ノ箸ヲ用ユ、彼等ハ決シテ寒冷ナル物ヲ食ハス、飲液又然リ、炎暑ノ候其渴ヲ防クニモ毫モ冷水ナトヲ用ユルコト無クシテ必ズ煎茶ヲ用ユ然レトモ砂糖牛乳等ヲ和スルコトナシ、又倦勞ヲ慰スル爲メニハ酒類ヨリ寧ロ鴉片ヲ吸用スル者多シ、コハ支那ノ道路或ハ街頭ニ於テ我カ邦人ノ如ク銘酩酊踰タル醉狂者ヲ見サルニ反シ顔色土ノ如キ青瘦ノ阿片癮者ヲ目ニスルヲ見テ知ルヘシ、實ニヤ一日ノ工賃二十錢ノ苦力モ其十四五錢ヲ阿片ニ投スルハ癮者ノ常ニシテ甚タシキハ阿片ノ爲メニ巨萬ノ富ヲ捨ツル者決シテ珍ラシキコトニアラス嘆スヘキ哉

○第二節 住居

在留本邦人ハ當地方産米タル甘米ヲ食シ其副食物モ亦土産ノ魚、菜、豚、牛肉、鷄鴨等ノ類ヲ常用シテ各々自國風ニ調理ス然レトモ味噌、醬油ノミハ本邦ノ輸入品ヲ用ヒ酒其他日本品ノ雜詰物又邦品ヲ用ユル者多シ、サレトモ支那紹興酒ハ日本酒ニ比シテ酒害少ナシトテ之ヲ常飲スル者又少カラス

在留外人又多クハ土産ノ牛肉、麵包、蔬菜、魚類等ヲ主用シ傍ラ香港ヨリ輸入ノ外品ヲ用ユ、酒亦同シ

管内木材ニ富ムヲ以テ清人ノ住家ハ概ネ皆木造ニシテ我國ト同シク瓦ヲ以テ覆ヒ且ツ平屋最モ多シ、家屋ノ間取リハ大



閩江上ノ舟居者

抵三間連接シテ左右ニ尙一間ツ、ノ小廂アリ中間ハ概テ客間ニシテ其左右ハ書齋、寢室等ニ用ヒ小廂ハ家族ノ居室及ヒ厨房トス二階建ノ家屋ハ甚タ少數ニシテ唯タ富豪ノ家屋ニノミ之ヲ見ル而シテ其富ニ應シテ間數多ク又庭園築山等モアリテ巨資ヲ投セシモノ少カラズ然レトモ中流以下ノ家屋ニ至ツテハ總テ平屋ニシテ間數モ少ナク殊ニ下等勞働者ニ至リテハ寢室、客間、食堂共一間限リノモノニシテ又土壁ヲ疊ミシ所謂土屋ナルモノ少カラス此外又當地ニハ閩江上ニ舟居者ナルモノアリ、舟ヲ以テ一定ノ住家トナシ船内ニ一家眷族悉ク起居シテ且ツ鶏、羊、豚、犬ノ家畜類ヲ飼養セルモノ多ク船中ノ婦女兒童ト雖モ尙ホ能ク楫櫂ヲ扱ヒテ毫モ男子ト異ナルナシ、如斯ニシテ一家團樂一見愉快ナル家庭ヲ水上ニ營ムモノ無慮數萬アリトハ又驚クヘキノ數ナラズヤ

客室内ノ裝飾ニ至テハ大抵室ノ中央ニ棹ヲ据ヘ左右ニ椅子及ヒ椅子ノ間ニハ小サキ茶棹ヲ置キ左右ノ壁上ニハ書畫ノ幅物ヲ掛ケ而シテ其正面ニハ必ス關帝ノ畫像ヲ掛ケ其下ニ高キ机ヲ置キテ之ニ置時計、洋燈、茶器及ヒ阿片吸食器等ノ類ヲ排列シ机ノ下ニ凡ソ疊一枚敷許リノ床アリテ中央ニ低キ机ヲ据ヘ其左右ニ二個ノ枕ヲ置キテ客ノ阿片吸食ニ供ス、其他書齋、寢室等概テ皆四壁ニ書畫ノ幅物ヲ掛ケ左右ニ椅子ヲ排列スル等貧富貴賤ニ應シテ其什器ニ精粗ノ別アルモ之ヲ按排シテ室内ヲ修飾スルハ一般ノ風習ナリ、若シ夫レ上流社會ニ至ツテハ椅子、棹、書架、寢臺等ヲ紫檀、黑檀、香椿等ノ佳木ヲ以テ製シ之ニ精巧美麗ナル彫刻ヲ施シ一個ノ寢臺ニテ數百金ニ値スルナト頗ル驚クヘキノ少カラス

建築材料タル木材ハ總テ閩江上流ノ山中ヨリ來リ瓦ハ多クハ南臺陽岐村ノ對岸文山地方ヨリ來ル、而シテ其價木材ノ如キハ區々雜多ニシテ到底一言ニ盡ス能ハサルモ長サ一丈六尺尾徑八寸八分ノ棟梁材ニテ一本銀七兩四五錢ヨリ八兩ニ至リ長サ一丈四尺尾徑八寸三分モノ一本二兩内外、長サ一丈二尺尾徑八寸モノニテ一兩内外ナリ、若シ其細小ノモノニ至テハ一本我カ二三錢ヨリ四五錢位ニ過キス、瓦ハ二斤モノ一千塊四元、斤ナキモノ一千塊三元半位ニシテ西洋風ノ建築ニ用ユル赤煉瓦ハ長サ九寸八分幅四寸厚サ一寸九分許リノモノ一千塊九弗、灰色モノ一千塊六弗半位ナリト云フ、而シテ大工ニ至ツテハ福州ノ如キ長樂縣人多數ヲ占メ其工賃二三年前迄ハ錢三百文以下ナリシニ諸物價ノ騰貴ニ

ツレ近來ハ一日三百八十文ニ上レリ、左官ハ永福人最モ多ク閩清人之ニ次ク其工賃一日三百二十文許リナリ、但シ夏期極暑ノ候ニ限リ大工左官共每一日ニツキ六十文内外ノ増給アルヲ例トスト云フ、壁塗用ノ石灰代用トシテハ當地清人ハ專ラ牡蠣、煙蛤其他貝類ノ燒碎セシモノヲ用ユルモ外人使用ノ石灰ハ概テ香港ヨリ輸入シセメントノ如キ又香港「グリ」ンセメント、コムバニー」ヨリ供給セラル

在留邦人中城内及ヒ南臺居留地以外ニ住居スル者ハ概テ皆從來ノ支那人家屋ヲ借リテ之ニ多少洋風ノ修理ヲ加ヘシモノナルカ南臺居留地ニ住宅ヲ構ヘシ重ナル邦人ハ西洋館ニ住居ス、館ハ居留洋人ノ建築ニ係ルモノアリト雖モ多クハ當地支那人ノ貸家トシテ建築セシモノニ屬シ、邦人中自ラ資ヲ投シテ家屋ヲ築造セシ者ハ僅ニ二名ニ過キス

外國人亦前記支那人所有ノ西洋館ニ住居スル者多キモ宣教師其他英商ナトニテ支那地面ヲ買受ケテ之レニ自國風ノ家屋ヲ建築セシ者又少カラズ

### 第四章 氣候並ニ衛生

#### ○第一節 氣候

霖雨期

本館所在地タル福州ノ氣候ハ我カ臺灣臺北邊ト大差ナク二・三・四・三箇月間ハ霖雨期ニシテ寒暖度ナク氣候極メテ不順ナリ、五月末ヨリ六月ニ入りテ暑氣頓ニ加ハリ七、八ノ兩月ハ酷暑ノ時節ニシテ寒暖計九十五六度ニ昇ルヲ例トス、九月尙ホ殘暑ヲ覺ヘ十月ニ入りテ始メテ稍秋冷ヲ覺ヘ、十一月、十二月ヨリ一月中旬ニ至ル間ハ氣候最モ健康ニ適ス二月ヨリ三月中旬マテハ寒氣甚タシト雖モ最下降點ハ四十二・三度ニ止マリ結霜旬日ヲ出テス平地ハ曾テ降雪アリシコトナシ、サレハ斯ル溫暖ノ地ナルヲ以テ冬衣ヲ着スル時期ハ甚タ短カク且ツ臺灣ト同シク四季殆ント蚊蟻ヲ絶タス極暑稀ニハ百度ニ達スルコトアリ雨概シテ多カラス空氣乾燥清潔ニシテ先ツ健康ニ適セリト云フヘシ、然レトモ地勢險峻ニシテ且ツ堤

防ノ設ナキ爲メ夏季閩江ノ水ハ屢々溢レテ田園ヲ浸シ家屋ヲ洗フコトアリ、今參考ノ爲メ最近三年間ノ晴雨日數並ニ寒暖ノ最高低ヲ左ニ示サン

明治三十六年中 晴 天 二百十四日

曇 天 九十五日

雨 天 五十六日

寒 暖 最 高 九十五度 最 低 四十四度

明治三十七年中 晴 天 百八十四日

曇 天 百三十一日

雨 天 五十一日

寒 暖 最 高 九十六度 最 低 四十三度

明治三十八年中 晴 天 百八十七日

曇 天 百十日

雨 天 六十八日

寒 暖 最 高 九十八度 最 低 四十三度

管内地及沿岸地方ノ氣候ニ至リテハ福州ニ比シテ稍清涼ヲ覺ヘ雨又少ナク殊ニ邵武府、建寧府兩地内ノ如キハ夏季尙ホ寒暖九十度ニ昇ラサル所アリ冬季極寒ノ候ト雖モ亦三十四五度位ニシテ平地ニ降雪ヲ見ルコト稀ニシテ唯四圍ノ嶺上ニ僅少ノ積雪ヲ見ルノミ沿岸地方ハ夏季潮風多キヲ以テ甚タ涼シク冬季又平地ニ降雪ヲ見ス氣候概シテ溫暖ナリ

○第二節 衛生

風土病トシテハ象皮病、麻刺利亞病等ニシテ就中象皮病ハ南清人間一般ニ流行シテ最モ懼ルヘキモノナリトス、麻刺利亞ハ惡性ノモノ甚タ少ナク在留外人中往々該病ニ犯サル、者アリト雖モ大抵ハ鹽酸幾尼涅ニ頼リ週日ヲ出テスシテ全治ス  
傳染病トシテハ「ペスト」「コレラ」ノ如キ惡疫ハ毎年夏季ニ入りテ發生シ五月下旬ヨリ六、七月ノ頃ハ流行猖獗ヲ極メ支那人ノ該病ニ斃ル、者日ニ百ヲ以テ籌セラル、然レトモ若シ霖雨期ニ於テ降雨少ナク又閩江ノ水害モ少ケレハ夏季降雨多キ年ヨリモ惡疫ノ流行稍緩漫ナリトス、又稀ニハ「デングフエバー」及ヒ赤痢病ナト流行スルコトアリ、或ハ一種ノ流行感冒猖獗ナルコトモアリト雖モ何レモ多クハ一週日ヲ出テスシテ全治ス、又腸窒扶斯或ハ痘瘡ノ類モ流行スルナランカ毫モ衛生上ノ設備ナキ爲メ之ヲ知ルニ由ナシ、然レトモ清人中往々「アバタ」面ノアルヨリ見レハ痘瘡ノ流行ハ疑ナキモノナラン、外人居留地タル南臺島ハ城内外ノ支那人市街ヨリ比較的清潔ニシテ病毒少カルヘシト雖モ支那人モ亦居住スル一個ノ雜居地ニシテ彼等ノ往來常ニ堪エサルヲ以テ惡疫流行ノ際ハ度日甚タ安カラス當地在留ノ外人中重ナル人々ハ六月下旬ヨリ九月下浣ニ至ル暑氣金石ヲ慄カシ惡疫ハ蔓々トシテ流行猖獗ヲ極ムルノ間、一家眷族ヲ携ヘテ城ノ東方約二里許リナル古嶺ト稱スル山中ニ轉居シ或ハ自己ノ別莊或ハ他ノ洋屋ヲ賃借シテ清涼ノ内ニ避暑スルヲ例トス、日本人ハ其清國ノ學校ニ聘備セラレシ者ニ限り學校ノ暑中休暇ヲ利用シテ本國ニ歸省シ以テ故山ノ風光ニ浴シテ一家團樂ノ快夢ヲ貪ル者アリト雖モ貧乏ナル邦人ノ多クハ徒ラニ危懼ヲ忍ヒテ終日籠城ノ外他ニ良策ナキモノナリ  
支那人間ニ於テ病類ノ特ニ多キモノハ皮膚病、呼吸器病、生殖器病、眼病等ニシテ殊ニ肺病及外科的病類ノ多數ナルハ當地ニ數年間居住セラル、本邦醫士ノ語ル所ナリ、眼病ハ「トラホーム」殊ニ多クシテ百人ノ眼病患者中「トラホーム」患者ハ約八十人アリトハ又同醫士ノ經驗談ニシテ今ヤ衛生上何等ノ設備ナキ清人間ニハ恐ルヘキ勢ヲ以テ其傳染ヲ退ウンツ、アリ、サレハ早晚其禍害ヲ未然ニ防カサレハ或ハ恐ル三十餘萬ノ福州人ハ悉ク「トラホーム」ノバチルズニ風靡セラハシコトヲ、近來清人中ニテモ之レニ悟ル者アリシニヤ眼科醫ノ稍増加スルアルハ喜フヘキ事ナリ

道路ノ鋪石

市民ノ飲料

右ハ主トシテ福州ニ於ケル衛生ノ大畧ヲ述ヘシモノナルカ管内閩江ノ上流地方竝ニ海岸ノ僻地ニ至リテハ風土病ハアリト雖モ傳染病ノ如キハ殆ント之レ無シ、「ベスト」コレテ等ノ惡疫ニ至リテハ未タ毫モ其流行ヲ見スト云フ、衛生上設備ノ一タル排水工事ノ如キハ福州ニ在リテハ其石壘ノ道路ノ下ニ不完全ナル溝渠ヲ掘リテ下水ノ排通ヲ計リアリト雖モ逸情ノ支那人ハ之ニ對シテ浚渫ヲ怠ルヲ以テ往々汚水ノ路上ニ溢ル、コト珍シカラス、道路ノ如キ福建ハ石材ニ富ムヲ以テ總テ石壘ミノ頑丈ナル道路ニシテ其幅多クハ十尺以上アリト雖モ犬、豚ノ糞尿(或ハ人糞サヘアリ)ハ路上ニ斑々堆ヲ爲シ且ツ汚水ト公衆ノ便所(支那人ハ自己ノ家屋内ニ大便所ノ設ナク婦女ハ街上ニ溢レテ嗅氣鼻ヲ衝クテフ慘憺タル光景ヲ演シテ除外人ノ我々ニハヨクモ斯ル不潔地ニ安閑住居スルヲ疑ハシムル位ニシテ支那ノ街路ハ長キ便所ヤ塵捨場ヲ行クニ異ナラス、加フルニ衛生上他ニ何等ノ設備ナキ爲メ毎年惡疫ノ流行スル毫モ怪ムニ足ラスシテ寧ロ斯ル汚穢地ニ在リテ暗瘡空氣ノ流通惡シキ矮屋ニ住居スル割合ニ病者ノ少ナキハ不思議トスル所ナリ、勿論福州ニハ清道局ナルモノアリテ日々城内外ノ市街ヲ掃除ストイフモ從ツテ掃ケハ從ツテ塵リシ、塵捨場ハ常ニ溢レテ路上ニ山ヲ爲スノ始末ハ清潔ノ點ニ於テ無頓着ニシテ且ツ公德心ニ乏シキ清人ニハトテモ一清道局位ニテ其効果ナシ、サレハ公德心ノ鼓吹ト共ニ道路ノ改修、排水工事、公衆便所、塵捨場等根本的ノ改良ト善良ノ設備ナクハ支那市街ノ清潔ハ到底望ム可カラス、加フルニ福州ハ飲料水不良ニシテ市民ノ大部分ハ河水ヲ飲用シ、井水アルモ水質又不良ナルハ福州ニテ良水井ハ僅々城内烏石山ト于山及ヒ越王山下ノ三ヶ所ニ在ル數個ノ井水ノミナリト土人ノ自ラ語レルニテモ之ヲ知ルヘシ、サレハ飲料水ノ改良ハ又衛生上必要ノ事タルヘシ、唯支那人ハ一般ニ冷水ヲ飲用スルコト無クシテ如何ナル場合モ多クハ之ヲ煮沸シテ用ユルハ甚タ嘉スヘキ事トス

支那人ハ不潔ヲ顧ミス衛生ヲ知ラス家屋ノ周圍ニ糞尿ヲ亂放スルモ井水ニ濁水ノ浸入スルモ恬トシテ恐ル、コトナシ、醫師アルモ漢方醫ニシテ醫學ノ何ダラヲ解セザンハ到底生命ヲ托スルニ足ラス若シ患者アリテ之ニ診ヲ乞ヘハ看脈ノ上藥名ヲ紙片ニ書シテ患者ニ與ヘ、患者ハ藥店ニ赴キテ之ヲ買フヲ常トス、而シテ其藥品タル所謂草根木皮ニシテ一日分ノ價銀二十文内外ニ過キス何レモ煎藥トシテ之ヲ用ユルモノ多シ、然レトモ若シ重病ニ罹リテ藥石ノ奏功ヲ認メサル時ハ神佛鬼靈ノ祟リト爲シテ又醫藥ヲ求メス、徒ラニ巫覡、僧侶或ハ道士等ノ祈禱或ハ禁厭等ニノミ依頼シテ治癒ヲ願望シ而シテ此憐ムヘキ病者ハ手ヲ束ネテ死ヲ俟ツヨリ他ニ良策ナキモノナリ

在留本邦人ハ衛生會ナルモノヲ組織シ、日本醫一名ヲ招聘シテ衛生上ノ事務ヲ囑托シ會員中若シ病病ニ犯サル、者アラハ直ニ診察ヲ乞フノ便アレハ病者甚タ少ナクシテ偶々感冒「マラリヤ」等ニ犯サル、モ大抵週日ヲ出テスシテ全治ス

在留外人又衛生會ノ如キモノヲ組織シテ英醫一名ヲ囑托シ且ツ該醫管理ノ下ニ「フーチヤウ、チーテイーヴ、ホスピタル、エンド、デスペンサリー」ト稱スル病院アリ、コハ外人及日本人竝ニ支那人等ノ寄附金ニヨリテ維持サル、モノニシテ何人ニテモ一定ノ入院料ヲ支拂ヘハ入院スルヲ得ルモノナリ、此外又當居留地ニ避病院アリ洋人ノ看護婦サヘアリテ衛生上ノ設備ハ殆ント拔目ナキ有様ナリ

第五章 貿易

三十八年中ノ福州貿易總額ハ一千七百四十四萬七千三百三十五兩ニシテ此内輸入ハ一千三十一萬八千二百二十八兩輸出ハ七百七十二萬八千九百七兩ナリ當港ノ外國貿易ハ重ニ對香港ニシテ外國ヨリノ直接輸入品ハ臺灣ヲ除ケハ皆無ナリト云フモ可ナリ外國品ヲ取引スル清商ハ何レモ香港若クハ上海ニ「エーゼント」ヲ置キ以テ脈絡ノ貫通ヲ計レリ輸出入ヲ通計スルトキハ前年ト大差ナキモ外國ヘノ輸出額ハ急轉直下ノ勢ヲ以テ衰運ヲ繼續シツ、アリ、即チ三十七年中ノ外國輸出額(再輸出ヲ含ム)ハ五百二十七萬四千二百八十五兩ナルニ三十八年中ノ同輸出額ハ三百五十二萬四千六百二十四兩ニ過キス是ハ福州貿易ノ大宗タル茶ノ不振ニ基因スルモノニシテ此内三十七年中ノ紅茶海外輸出數量ハ十八萬二千八百九十七擔此價格四百二十三萬九千九兩、三十八年中ノ海外輸出數量ハ十二萬六千七百七十四擔此價格二百五十六萬六千六百六兩ナリ要スルニ當港貿易ノ全盛時代ハ二十年前ニシテ爾來衰衰ナキニシモアラサルモ輸入及清國諸港ヘノ輸出ハ概シテ増

進シ外國輸出ハ漸次減退ノ兆候アルハ豈ニ哀ムヘキ現象ニアラスヤ即チ左表ニヨリ是ヲ知ルコトヲ得ヘシ

最近十年間貿易額比較表

年次	輸入		輸出		總輸出
	外國	清國諸港	外國	清國諸港	
二十九年	四,二五,四四	二,六三,〇四	四,九七,八三	二,四二,〇六	一四,七六,四六
三十年	四,三三,一〇七	二,五四,三二	四,二九,四四七	二,五四,八八	一三,七〇,七五
三十一年	五,〇四,四二	二,六三,二四	五,七二,四四	二,五〇,一〇	一五,八五,二六
三十二年	五,九五,八四	三,〇〇,六六	五,八四,三〇	二,六七,〇七	一七,五九,八四
三十三年	四,八八,一三	四,〇〇,九七	五,四〇,〇〇	一,六九,四八	一五,八五,五五
三十四年	五,五七,五二	四,〇六,五三	二,八二,四四	三,〇七,八九	一五,五二,一七
三十五年	五,七七,六五	四,一七,四六	三,〇四,七〇	三,九二,三三	一六,九二,一七
三十六年	七,〇三,五五	五,四八,三六	二,九七,八六	三,七三,一六	一九,〇七,八〇
三十七年	七,四九,四二	五,七五,三九	三,二九,九六	三,九七,〇六	二〇,四四,一〇
三十八年	七,二七,九七	六,二九,四〇	一,九五,九六	五,一三,〇八	二〇,五八,三四

備考、總輸出入額中ニハ再輸出ヲ含ムカ故ニ三十八年中ノ總輸出入額ヨリ再輸出額三、一〇九、一七九ヲ控除スル  
トキハ純貿易額一七、四四七、一三五兩トナル

最近三年間貿易額

外國品	三十七年	三十八年
外國及香港ヨリ輸入	七,〇三,五六五	七,五四九,四六一
支那諸港ヨリ輸入	一,〇八一,七七六	一,八一四,〇一一
外國品輸入合計	八,一三四,五九三	八,九五一,九九八
内再輸出	六五,五八六	一〇一,八九三
差引外國品純輸入額	八,〇五九,〇〇七	八,八五〇,一〇五

内國品	三十七年	三十八年
重ニ上海及三都澳ヨリ輸入	四,三一七,二〇〇	四,六二六,八六三
内再輸出	二,二六七,五四六	三,〇八九,三三四
差引清國品純輸入額	二,〇四九,六五四	一,五三七,五二九
輸出土貨	二,九一七,八五八	三,二八九,九二六
外國諸港へ輸出	三,七二二,一九九	三,九二七,〇七六
輸出合計	六,六三〇,〇五七	七,二二七,〇〇二
總貿易額	一六,七三八,七二八	一七,二六五,九六八

右ノ外三十八年中ノ「ジャンク」貿易額ハ左ノ如シ

臺灣ヨリ外國品輸入額

五四,五三〇

牛莊、天津、山東、浙江、上海、揚子

二,三二〇,九二六

江蘇港、興化及泉州ヨリ土貨輸入額

二二二,五三三

臺灣へ土貨輸出額

九,三一八,八九四

清國諸港へ同上

九,五四二,四二七

輸出合計

四六九

第十卷 第五章 貿易

輸出入總計

重要輸出品

品名	單位	三十六年	三十七年	三十八年
筍	擔	七八、二八八	九三、四七五	七八、六〇六
樟腦	同	一、一四四	一、二一〇	四、〇三六
竹竿	個	三三〇、一八八	二〇八、七六〇	一六五、〇八〇
鳥毛	擔	一、四一〇	二、二八二	一、五八八
漆器	同	二二二	二二二	二〇九
乾龍眼	同	四、六五五	四、一六七	四、九一八
マツチ福建火柴廠製	グロス	—	一七、五四一	—
椎蓳	擔	三、三三三	三五九	二、四四四
茶油	同	三、三三九	一、二五五	一、五六六
橄欖實	同	一八、一五四	二二、九八六	二五、九七一
蜜柑	同	三六、五九三	三〇、一一四	四一、二六九
紙	同	五七、七八〇	五〇、二八八	七六、九三〇
同祭時用	同	一五、一九三	一三、二四七	一三、四四七
李乾	同	四、一四六	三、八五〇	二、六〇三
馬鈴薯	同	一二、三九五	一二、二四四	一八、六五二
蓮子	同	三四九	四二一	四三五

品名	單位	三十六年	三十七年	三十八年
紅茶	同	一四九、一三七	一四二、四七一	九四、〇七四
磚茶	同	四四、〇五三	二四、〇八九	四一、二九一
綠茶	同	八、四〇二	三、四一六	二三
箱板	個	二、五七九、五五九	四一八、一六七	五四九、八〇五
角材(軟木)	同	—	八二二	四八七
板	平方尺	四四九、七〇七	三二九、六〇七	二一五、八五七
紙傘	個	三三三、九七一	三八八、七八三	三六〇、八八二
丸傘	同	三九七、三六三	二二一、五〇九	七六一、八六九

品名	單位	三十六年	三十七年	三十八年
阿片	擔	四二一	三五二	四四一
ベナレス	同	—	—	—
マール	同	一、五一八	一、四四二	一、〇八一
パト	同	八五八	六八六	八五八
波新	同	一、六六二	一、三七一	九二一
綿貨	同	—	—	—
生金	反	五九、三五〇	六三、一三五	七二、二九六
晒金	同	一七、〇二六	一六、一三一	一八、三三七
雲齋(布米)	同	四、八三四	四、四五四	三、五五五

第十卷 第五章 貿易

四七一

第十卷 第五章 貿易

四七二

雲	齊	布	(英)	反	四、〇三四	四、一二五	八、二〇八
天	竺	布		同	一一〇、五四三	一一三、〇四九	一一五、七三三
綿	紗	類		同	一〇、四一九	一一、五八一	二四、〇三四
紗	紋	布		嗎	一	四、四七七	一六、六六八
更	紗	反		反	九、三八〇	九、〇七四	一〇、七五六
緋	金	巾		同	九、九四三	一〇、四四二	一四、八九七
綿	繻	子		同	一三、八二五	一九、一四二	二五、八五八
色	金	巾	形	付	同	二四二	四一七
同	無	地		同	四、八二一	一四、六八七	一〇、〇七二
綿	ネ	ル		同	五、三四二	六、一九一	四、八一九
綿	天	爲	絨	嗎	五九、五三三	七三、八六一	九三、五九二
手	巾	巾		打	一〇、一九七	一一、六七四	一一、一三九
浴	巾	巾		同	九、四一一	一三、八八四	一八、一六〇
綿	糸	(香港)		擔	四、三〇八	二、六四七	二、一八八
同	(印度)			同	三三、〇二五	三五、一四七	三九、六〇五
同	(日本)			同	四五二	一、九四二	一、四七九
毛	綿	交	織	物	嗎	一、一八五	二、〇二〇
毛	織	物		布	二四、三五二	一三、五二七	二〇、九三三

第十卷 第五章 貿易

四七三

吳	呂	(英)	反	一、六九一	一、八七八	二、一八六				
羅	紗		嗎	八、七六九	一一、三三三	一四、〇六三				
ラ	ス	チ	ン	グ	五九五	六一五				
羅	世	伊	多	同	三七四	三六七				
金	屬		嗎	一五、〇九五	二二、五三七	二九、二七六				
銅	(板)		擔	五、〇五〇	一一、一六八	二六、一八五				
鐵	(棒)		同	四九九	一、〇四三	一、一〇二				
鉛	(塊及條)		同	一九、三七三	一三、六七六	一六、三二四				
水	銀		同	七二	九八	一一四				
鋼	鐵		同	一六、一一四	三、七二二	一、四〇七				
錫	板		同	四、一六八	三、六五七	三、七八八				
雜	貨									
石	炭		噸	一〇、五九〇	八、三八八	三、五四九				
ア	ニ	リ	ン	染	料	海	關	兩	四三、八二七	三六、九七七
麥	粉		擔	二一、六四〇	二一、三六五	二七、一八五				
マ	ツ	チ	(日本)	グ	ロ	ス	二〇六、七六二	二五〇、〇二一		
石	油		瓦	二、六六二、二一五	四、五〇六、四八九	三、〇六六、六九〇				
砂	糖		擔	五四、二四五	七三、一二三	八七、二〇三				

●第六章 商業及市場

○第一節 商業

我●專●管●居●留●地●ハ●今●尙●ホ●水●田●ノ●間●ニ●農●家●ノ●點●在●ス●ル●ノ●ミ●ニ●シ●テ●邦●人●ノ●經●營●ニ●係●ル●三●野●玻●璃●製●造●所●ヲ●除●ク●ノ●外●記●ス●ル●ニ●足●ル●ヘ●キ●モ●ノ●ナ●シ●外●國●人●雜●居●地●ハ●南●臺●ノ●高●地●倉●前●山●頂●ヨ●リ●閩●江●ノ●右●岸●ニ●達●シ●萬●壽●橋●以●東●海●關●及●義●和●碼●頭●ニ●至●ル●間●ヲ●各●國●外●商●ノ●割●據●地●ト●爲●シ●內●外●人●間●ニ●於●ケ●ル●貿●易●取●引●ハ●專●ラ●此●地●ニ●於●テ●行●ハ●ル●、●モ●ノ●ト●ス●外●人●ニ●シ●テ●親●然●タル●商●店●住●宅●ト●巨●額●ノ●資●本●ヲ●有●シ●紅●茶●、●磚●茶●ノ●輸●出●及●金●巾●、●天●竺●布●、●綿●糸●、●石●油●、●砂●糖●等●ノ●輸●入●ヲ●掌●リ●其●他●電●信●、●電●話●、●銀●行●ノ●業●務●、●回●漕●業●、●印●刷●業●、●雜●貨●ノ●販●賣●、●藥●舖●、●「●ホ●テ●ル」●業●ニ●從●事●シ●信●用●ア●ル●店●舖●ハ●左●記●ノ●如●シ

英	商	協和洋行	Anderson & Co.
同		太古洋行	Bahigate & Co.
同		太古洋行	Butterfield & Swire
同		永昌洋行	Cave-Thomas & Co.
同		天祥洋行	Dodwell & Co.
同		萬興洋行	England & Co.
同		義興洋行	Fraser Ramsay & Co.
同		乾記洋行	Gibb Livingston & Co.
同		太平洋行	Gilman & Co.
同		興隆洋行	Gittins & Co.

同		德興洋行	Greig & Co.
同		義和洋行	Jardine Matheson & Co.
露	商	阜昌洋行	Mob Pechnoff & Co.
英	商	裕昌洋行	Odell & Co.
獨	商	禪臣洋行	Siemssen & Krohn.
英	商	公昌洋行	Sutherland & Co.
露	商	順豐洋行	Tok. Mol & Koff & Co.
英	商	興裕洋行	Brand & Co.
同		布律吉洋行	Brockett & Co.
同		渣打銀行	Chartered Bank of India Aust & Co.
同		英國客寓	Fochoow Family Boarding House.
葡	商	天泰洋行	Fochoow Printing Press.
英	商	寶德洋行	Fochoow Trading Co.
同		匯豐銀行	Hongkong & Shanghai Banking Corporation
同		大東電報公司	Eastern Extension, A. & China Telegraph Co.
同		屈臣氏大藥房	Watson & Co.
米	商	美孚洋行	Standard oil Co. of Newyork.

日本ノ商業トシテハ三井物産會社、大阪商船會社、臺灣銀行ノ各出張所、九一洋行、日東洋行、須崎洋行等ニシテ右ノ内日東洋行ニ於ケル一年中本邦品販賣高ハ一萬八千圓内外ニシテ其得意先ハ清國人五分本邦人三分外國人二分ヲ占ム

清國人ニハ玩弄品、帽子、扇子、莫大小、網羅袴、賣藥(守田寶丹、中將湯、淺田節ノ類)最モ能ク賣行キ外國人ニハ單物、キリン麥酒、陶器、莫大小類捌口宜シク邦人ニハ正宗、麥酒、醬油、味噌、罐詰等ノ食料品ノ需用アリト云ヘリ丸一洋行ハ明治三十三年ノ創立ニテ沖繩丸一洋行ノ支店ナリ邦人ノ故參ニシテ基礎鞏固ナルヲ以テ支那商人間ノ信用ハ最モ厚ク取引高ハ益々増進シツ、アリ今三十七年中ノ同店營業報告ヲ得タレハ參考ノ爲メ左ニ記載ス

本邦ヨリ輸入品

品名	數量	價額
錫(琉球産)	一八五、八九一	三三、六七八、三七
鯨 同	一、三三三	四七八、二五
鯨 肉 同	一、〇一七	一二三、四六
昆 布	二九二、五三四	九、〇八六、二七
寒 天	一〇、二〇〇	四、八六九、二四
馬 刀	二、六一二	六〇九、六八
海 貝	六、九〇八	一、八四一、三六
海 老	六四八	七七九、七五
鮑 鼠	一、〇六九	三五六、〇一
計		五〇、八二二、三九
綿糸及綿織物		六七、三三二、五〇
綿 糸	五〇〇	

同 印 度	二二九	二九、一〇三、九〇
手 巾	三〇〇	二七〇、〇〇
西 陣 綿 子	一四八	九一六、三六
金 巾	九〇〇	二、三七六、六〇
白 縮 布	二四八	三二〇、一五
都 染 更 紗	一、一八〇	一、一八四、五〇
久留米吉野織	三、三九六	三、二九六、一六
計		一〇四、七九〇、一七
雜 貨		
燐 寸	五一〇	一〇、八二二、〇〇
益 榮 香 鬘 附 油	一三五	九、五六七、五〇
ホ ヤ	五〇三	二二五、五〇
ラ プ	三五	二三一、四〇
石 輪	四三	二五〇、〇〇
時 計	三	九七、五〇
麥 藁 帽 子	三〇	五二、五〇
烏 打 帽 子	三五	八九、五〇
計		二二、二一五、九〇

本邦(琉球)ノ輸出品



第十卷 第六章 商業及市場

綠	茶	六〇、三三六	四七八
紙	傘	五、六七四	一五、四〇三、二五
麻	糸	三九六	九三三、〇〇
計			四一二、五〇
輸出	輸入		一六、七四八、七五
合計			一九三、五七七、二一

商品ハ貿易欄ニ於テ詳記シタルカ如ク輸出品ニ在リテハ紅茶、磚茶、綠茶、材木、紙、樟腦、筍、乾龍眼、椎實、茶油、蜜柑、橄欖實、李乾等其大宗ヲ入メ輸入品ニ在リテハ阿片、生金布、晒金布、雲齋布、天竺布、綿紗類、更紗、綿織子、綿天露絨、綿糸、吳呂、石炭、麥粉、燐寸、石油、砂糖等其重要ナルモノニシテ輸出品ノ取引地ハ外國ニテハ歐洲大陸(露國ヲ除ク)第一位ヲ、英國第二位ヲ、香港第三位ヲ、合衆國第四位ヲ、臺灣第五位ヲ、濠洲第六位ヲ、印度第七位ヲ、露國占メ清國ニテハ天津第一位トシテ上海、汕頭、芝罘、漢口、厦門是ニ繼ク而シテ輸入品ノ取引地ハ外國ニテハ第一香港、第二スマトラ、第三日本、第四臺灣、第五露西亞ニシテ清國ニテハ三都澳(茶ニ限ラル)上海ヲ主トシテ漢口、汕頭、杭州、芝罘、天津等ナリトス

○第二節 市場

城内ニ在リテハ南大街、西門大街、東門大街、井樓門大街、仙塔街、水部門大街及南後街、北大街ノ八市街ハ商業ノ最モ繁盛ナル地區ニシテ城外ニ在リテハ南門外街及西門外街熱鬧ヲ極ム就中南大街ハ福州ニ於ケル最モ繁華ナル大市街ニシテ恰モ我カ大阪心齋橋通りノ如キモノト見ハ大過ナカルヘシ各種ノ商店軒ヲ並ヘ巨商大賈ノ淵藪地ニシテ土民ノ往來絡繹織ルカ如ク實ニ肩摩袂擊ノ觀アリ魚市場ハ同街吉庇巷口、西門街善化坊口、城外中亭街、夏街舖等ニ散在シ菜市ハ花巷口、謝婆巷、渡鷄口、城外觀音井、霞浦街等ヲ主トシ其他各街衢ノ要衝ニ在リテ每朝開市スルヲ常トス

福州府附近及當館管轄内福寧府、延平府、建寧府、邵武府ニ於ケル主要ナル市場ハ左ノ如シ  
閩安鎮、陳頭、館頭、東岱、連江、羅源、寧德、福鼎、福安、壽寧、霞浦、閩清、水口、延平、洋口、王臺、順昌、大幹、傘口、邵武、光澤、崇安、建陽、浦城、松溪、政和、建寧、界首、屏南、古田、泰寧、將樂、沙、尤溪、永安、福清、長樂、永福

會館ノ性質ト其ノ效用

取引所ノ當地ニハ商品取引所ナキモ會館及公所ノ組織ハ割合ニ能ク整頓發達シ先ツ我國ノ取引所ニ類似スルモノト見ルコトヲ得ヘシ會館ハ支那商業界ノ一大機關ニシテ彼等ハ此ノ會館ヲ利用シテ苞直ニ飽クコトナキ支那官吏ノ壓抑ニ對抗シ或ハ相救ヒ相助ケテ以テ共同ノ利益ヲ保全シ若クハ爭訟事件ノ起ルアレハ官衙ノ裁定ヲ仰カスシテ會館ノ仲裁和解ニ服スルコトアリ恰モ商事裁判所ノ如シ時トシテハ其地方ノ新來者ノ高等旅館ト爲リ且ツ其會館ニ由リテ安全ナル商取引ヲモ爲スコトヲ得ヘシ經驗アル外商ノ說ニ據ルニ支那商業上ノ大取引ハ概ネ皆會館ナルモノニ依リテ初メテ行ハルト言ヘリ廣東會館、兩廣會館、江西會館、江蘇會館、安徽會館、湖南會館、山峽會館、奉直會館等ハ當地ニ於テ有名ノ會館ニシテ何レモ同鄉紳商ノ出捐設立ニ係リ不潔混雜ノ市街中ニ巍然トシテ屹立スル雄大壯麗ノ建築物ハ以テ人目ヲ眩惑スルニ足レリ會館ノ維持費ハ會員ノ寄付金及會員ヨリノ徵收金ニ依ルト云フ上記ノ外三山會館ハ南臺州邊ニ在リ福州商人ノ會議所ニシテ布莊ハ福州布莊人ノミ雜貨ハ雜貨商人ノミ此處ニ會合シテ種々商業上ノ打合ヲ爲スモノナレハ當地商人ノ最モ有力ナル商業會議所ナルヘシ

公所ノ性質

公所ハ同業組合トモ稱スヘキモノニシテ當地ノ茶商ハ南臺州邊後洋街ニ茶幫公所ヲ設立シテ茶況ニ關シテ種々ノ相談ヲナシ以テ外商ニ當ルノ方法ヲ取レリ其ノ規約ヲ遵守シテ共同ノ利益ヲ企圖スルハ亦會館ト異ナラス此外又錢庄ハ錢幫トテ州邊田墻街ノ天后宮廟ニ集會シテ金融ニ關スル相談會ヲ開クコトアルモ福州商人ハ主トシテ三山會館内ニテ商議ヲ爲スヲ例トス右ノ外商ハ商人工匠等カ組合ノ如キモノヲ組織シテ時々會合ノ上營業上ノ打合ヲ爲スモノアリ商習慣 當地ニ於ケル諸般ノ商取引習慣ハ申例ト稱シ上海ノ取引法ニ準據シタルニ起因ス商賣ノ成立ハ賣手買手ノ間ニ

仲買人ノ口 必ス仲買人アリ雙方ノ間ニ立テ賣買ノ約束締結ノ勞ヲ執ル口錢ハ大概賣上高ノ一分即チ百圓ニ付一圓ノ割ナリ仲買人ノ責任トシテハ買手ノ方ニテ代金支拂ヲ怠リ或ハ一旦買受タル物品ニ付キ故障ヲ生スルトキ談利ノ勞ヲ執ル位ニテ若シ買手ノ方ニテ支拂ヲ履行セザレハトテ仲買人ニハ何等ノ責務ナシ代金支拂期日ハ期定初三十七トテ月ノ三日及十七日トス支拂期限ハ海產物類ハ二箇月織物類ハ三箇月綿糸二週間以上三週間迄機寸二箇月雜貨三箇月ナリ例セハ七月十日ニ海產物賣買ノ商談成立シタリトセンニ九月十日ハ滿二ヶ月ナルモ十七日ハ期定日ナルニ付キ九月十七日ニ代金ノ授受ヲ爲ス慣例ナリ右ノ内綿糸及綿布等ハ買手ノ方ヨリ支拂期限迄ハ期票(我カ約束手形)ヲ發行ス賣手ハ是ヲ銀行ニ回シ割引シテ融通ス海產物ハ買手ノ方ニテ期票ヲ發行セス收帳(我カ判取帳)ニ記載捺印スルノミナリ然レトモ海產物商ハ一體手堅キ商賣ニテ支拂期日ニ至レハ股格ニ支拂ヒ願ル名譽ヲ重シ且ツ銀行ノ信用厚ク同業者間ノ取引ハ至テ圓滿ニ行ハレツ、アリ機寸及其他ノ雜貨ハ綿糸織物等ノ如ク期票ヲ發行スレトモ當地ニテハ雜貨商ニ對スル信用程度至テ薄弱ニシテ往々破産シ賣手ニ損害ヲ懸クルコトアリ隨テ銀行ニテモ雜貨商ノ期票ニ對シテハ割引ヲ好マサルモノ、如シ但シ是ハ卸賣取引ニ屬スルモノナリ各貨物ノ販路ハ福州ヲ集散地トシ各府縣ヘ供給スルモノニシテ商習慣ハ各地方共大同小異ナリ

改帳ノ三期

普通商家ノ決算時期ハ歲暮、端午、仲秋ノ三期節ニシテ就中歲暮ヲ最モ重シトナス外國人雜居地ニ在リテ重ニ外人ヲ顧客ト爲ス商店ハ月末拂ノ勘定ナルモ此以外ハ正月ヨリ五月ニ至ルマテ其平素相識ル者ハ貨物ヲ信用貸ニテ賣却シ置キ端午節即チ清曆五月初五日ニ至リテ初テ是ヲ決算スルモノナリ端午ヨリ仲秋、仲秋ヨリ歲暮ニ至ル又然リ而シテ歲節ヲ最モ重要視スルヲ以テ歲末ニ至レハ市街ノ熱鬧混雜行人ノ狂奔星馳殆ト常規ヲ逸スルカ如シ端午或ハ仲秋ニハ其取引勘定モ尙請ヒテ延期スルヲ得ヘント雖モ歲節ニハ是ヲ遲延スルヲ得ナルカ故ニ大商店ノ如キハ人ヲ四方ニ派シテ懸金ヲ徵收スルコト猶我國ノ田舎ニ於ケル除夜ノ觀アリ如斯歲節ハ決算取引ノ嚴重ナルカ爲メ小資本ノ商賣ハ窮窮シ殊ニ錢庄ノ小ナルモノハ閉店倒産ノ醜態ヲ演出スルモノ少カラズ然レトモ概シテ信用取引ノ美風ハ能ク保持セラレ居ルヲ見ルニ足ルヘシ

第七章 工業及鑛業

第一節 工業

重ナル工藝品ノ種類ハ竹器、骨器、角器、骨董品、グシヨシ及枕、及物、衣裳、篋箱、爆竹、家具、線香、漆器、烏煙、紙、漆貨(素燒ノ土器ニシテ一名瓦器ト稱ス)絹及木綿製靴、紙傘、皮箱及木製品等ニシテ重ニ上海、香港、廈門、汕頭、臺灣及歐米方面ヘ輸出セララル前記工藝品ニシテ一昨年中當港ヨリ輸出シタル數量價格及仕向先ハ左表ノ如シ

品名	單位	外國へ輸出		支那諸港へ輸出	
		數量	價額	數量	價額
竹器	擔	一六	二七三	三三	四〇二
骨器	同	一九	五〇四	二〇六	五、七九
骨董	價	一	九四	一	二、二六
グシヨシ及枕	個	三、〇〇〇	五三	三、四〇	五、二六
及物	價	一	六四	一	四、五
爆竹	擔	三三	七、八五	一	一、二九
家具	價	一	二、三九	一	二、五〇
線香	擔	二	一、九	一	二、三二
漆器	同	二〇	四、九	二〇	二、五七
烏煙	同	三六	六	三	二、四七

品名	寸	グロス	ニモ	九五	三三〇	八三	一〇七五	二六〇
紙	一等品	擔	七四	一〇、二六	三六	四、六一	一三、七五	一四、八〇
紙	二等品	同	一、八四	一〇、九六	四三	二、六三	三三、〇五	一六、九〇
紙	同	同	五	八	一	七	一三、四一	四三、〇五
紙	貨	同	二、六六	七、四七	一七〇	五、〇	一〇	四九
絹及木綿製靴	足	同	七五	三三	五、七九	三、五〇	三、八四	一、〇六
紙	傘	個	二五	二	二〇、二三	一〇、四一	一七、四六	一七、一八
木	製品	同	六、二六	二、八〇	四二	三	一五、〇〇	七六

漆工、家具工其他一般職工ノ賃金ハ至テ低廉ニシテ一人前ノ工賃ハ日給三十仙内外此外食事ハ傭主ノ負擔ニ付キ食費ヲ十五仙トスルモ合計五十仙以上ニ達スルコトナシ尤モ一時ニ至急ノ注文アリテ特別ニ働カシムル時ハ別ニ酒饌若干ヲ給スルコトアリ小工ノ賃金ハ普通工人ノ半額ナリ尤モ大半ハ請負組織ナリト云フ要スルニ精緻巧妙ナル工製品ノ顯ハレテルハ賃銀低廉ニシテ頑鈍無智ノ職工ヲ使役シ更ニ研鑽ノ餘地ヲ與エス獎勵ノ方法具備セサルニ起因スルナルヘシ漆器ノ如キハ當地ノ名産トシテ一タヒ此地ヲ通過スルノ外客ハ大抵茶盆、茶几、扇子、卷簾盒、平形木盆等ヲ購入シ歸ルノ常ナルモ前表數字ノ示スカ如ク其輸出額ハ通シテ五千餘兩ニ過キス工業ノ不振ナル以テ推知スルニ足ルヘシ漆器細工ニ用フル所ノ元漆ハ重ニ江西、浙江、四川ノ三省ヨリ出ルモ其他ノ工作品原料ハ大抵當地附近ヨリ供給セラル

目今日本人ノ工業トシテハ三五公司ノ經營ニ成ル樟腦製造所及三野玻璃製造所アルノミ後者ハ七年前我專管居留地内ニ設立セル小規模ノ事業ナルモ其製品ハ頗ル純良ニシテ優ニ内地品ヲ凌駕スルニ足ル二百斤坩堝一個ノ製造高ハ三十光空氣火屋ナレハ二十打此即賣ニ打ニ付一等品ニ弗三十仙二等品一弗八十仙三等品一弗、二十光ナレハ二十五打此價格一打一弗六十仙、十光ナレハ五十打此價格一打八十二仙、竹火屋若クハ挿火屋ナレハ百打此價格一打二十仙位ニシテ原料ハ硝

本邦人ノ製造業

子屑及石粉ヲ混用ス硝子屑ハ創業當時ハ百斤四十仙ニテ手ニ入りタルモ今ハ三弗ヲ以テ城ノ内外ヨリ買集メ居レリ職工ハ技術熟練ナル者三四名ノ外二十餘名ノ助手及徒弟ヲ雇用ス何レモ支那人ニシテ從順ナルカ故ニ内地ノ職工ノ如ク風儀惡シキ者ナク御御スル上ニ於テ左程ノ困難ヲ感セスト云ヘリ然ルニ此頃南臺獨逸領事福臣邸宅ノ後背ニ清人ノ經營ニテ公信玻璃廠ヲ新築シ火屋ノ製造中ニテ職工ノ本邦ヨリ來着ヲ待テ漸次製器ノ製造ニ着手スル由ニテ現今ノ職工ハ會テ三野ニ在リシ邦人ヲ採用シ徒弟ハ同所ニ於テ養成セシ者ヲ誘引スルノ狀況ニ付自然競争ヲ生シ同所ハ多少ノ打撃ヲ受クルニ至レリ一等職工ハ六年ノ年季ヲ終リ技術練達セル者ニシテ月給十五弗ヲ給ス次ハ十二弗十弗等ニシテ徒弟ハ食事ノ外少額ノ小遣錢ヲ給スルニ止レリ燃料ハ淡水石炭ヲ使用ス一噸ノ價格十二弗ナリ竈ニ用フル耐火煉瓦ハ此地方ニ産スル粘土ヲ用テ自ラ製造ス百斤ニ付三十五仙ナリト云フ同所ハ狹隘ニ付更ニ土地ヲ買入レ事業ヲ擴張セントスルノ計畫中ナリ清國政府ノ官業トシテハ汽船ノ投錨地ナル馬尾ニ馬尾造船所アリ技術ハ盡ク佛人ナリ洪山橋ノ上流一哩左岸ニ機器局アリ兵器彈藥ヲ製造ス外國人ノ工業トシテハ英商天祥洋行ニ屬スル福建火柴廠、挽材工場、製氷所等ニ過キサルモ福建火柴廠製造機寸ハ本邦品ニ競争スルコト能ハスシテ一昨年六月以來同廠ハ閉鎖シ萬壽橋下閩江左岸ニ空シク煉瓦造リ工場ノ屹立シテ雜草ノ跋扈ニ委シ今ハ買手ヲ待テツ、アリ挽材工場ノ一ハ英商天祥洋行ノ經營ニシテ蒸汽鋸輪機ヲ据付ケ毎日運轉ス而シテ挽板ハ輸入地ニ於テ石油箱、茶箱等ニ組合ス様ニ挽製シテ輸出スルモノニシテ彼南、新嘉坡、錫倫等ニ於テ需用アリ頗ル好望ナリト云フ他ノ一ハ獨商輝臣洋行ノ經營ニシテ我專管居留地附近ニ工場ヲ設立シ前者ト同シク器械ヲ運轉線業シ居レリ製氷所ハ同ク我居留地附近ニ位シ外人ノ企業ニシテ重ニ南臺ノ外國人ニ同所渡シ十磅四十仙ノ價格ヲ以テ人造水ヲ供給ス但十磅以下ノ小賣ハ是ヲ拒絕ス

○第一節 鑛業

當館内ニハ鑛業ト稱スルニ足ルヘキモノナキモ頗ル幼稚ノ狀態ヲ以テ石炭、鐵及砂鐵等ノ鑛物ヲ人力ニ依リ農業ノ傍ヲ

姑息的ニ探堀スル所アリ閩江ノ流域ヲ溯航シテ附近内地ヲ跋渉スル者ハ數百清里ニ亘リテ到ル處石炭ノ露出ト舊坑ノ存在ヲ發見スヘシ蓋シ該鑛脈ノ果シテ有望ナリヤ否ヤハ他日専門家ノ實地踏査ニヨルノ外ナカルヘク今管内五府ノ鑛物ニ就テ漸次記述スル所アルヘシ

邵武府ニハ金鑛アリ未タ開採セズ而シテ無烟炭ノ產出アルモ僅ニ農家薪炭ノ代用品トシテ附近村落ニ供給スルニ過キス隨テ其產額炭質ヲ調査シ難シ此地方ハ建寧汀州ト共ニ佛商大東公司カ清國政府ヨリ探堀權ヲ得タル領域ニシテ同公司カ七百四十萬元ノ巨資ヲ投シテ先ツ開採ノ用ニ供セントスルノ光緒二十八年契約ハ一見同會社カ由リテ以テ非常ナル利權ヲ獲得シタルカ如キ觀アルモ該事業ノ果シテ成功ノ見込アリヤ否ヤハ内外人ノ等シク疑悞スル所ナリ爾來四年ヲ經營シタル今日ニ至リテモ未タ何等開採ノ準備ニタモ取掛ラザル邊ヨリ見レハ其結果ヲ推測スルニ難カラザルヘシ

建寧府ニハ會テ無烟炭ヲ產出シタルモ今ハ廢坑ニ屬セリ浦城縣、政和縣、松溪縣ニハ到ル處ニ鉛ヲ產シ會テ是ヲ探堀シテ上海ニ輸送シ一擔五弗ノ價格ヲ以テ賣行キ相當ノ利益ヲ見タル盛時モアリタリト云ヘリ然レトモ今ハ廢坑ニ歸シ只個人ヲ將來ノ發達ヲ豫想シ單ニ探堀權ヲ留保シアルノミ建寧ノ上流二十清里ニハ鐵及砂金ヲ產シ往々二三農夫ノ採取シ居ルヲ目撃スヘシ然レトモ產額少量ニシテ直ニ此地方ニ供給セラル

延平府尤溪縣ニハ鐵ヲ產ス今探堀中ナリ此外延平附近ニハ銀鉛アリ同府永安縣ニハ山ノ半腹ニ砂鐵ヲ產ス多クハ雨後ヲ利用シテ水中ニ沈澱採取ス總テ鑛冶匠ニ供給シ鑛ニ使用ス同府沙縣ニ無烟炭鑛アルモ探堀シ居ラズ炭質ハ龍巖、直隸州ノ產品ニ劣ルカ如シ

福寧府 福安縣ニハ鐵山アリテ鐵塊ヲ產出ス此地ハ舟楫ノ便ニ富ムヲ以テ將來有望ナルカ如シ福州城内外ニ於テ使用スル鐵器類鑄造ノ原料ハ重ニ古田及福安ノ產鐵ヨリ仰クト云ヘリ

福州府古田地方ノ地層ハ總テ花崗岩及石英斑岩ニシテ鐵鑛ニ富ミ鑛脈露頭及舊坑ノ各地ニ存在スルヲ見ル是ヲ開ク農業豐作ニハ鐵ノ產出少ク凶作ニハ是ニ反スト是レ舊坑ノ存在スル所以ナリ要スルニ異日細密ノ調査ヲ爲サハ或ハ大鑛脈ヲ

發見スルニ至ラン候官縣及永福縣ニモ鐵ヲ產シ所々鑛脈ヲ露出セルヲ見ル殊ニ鐵山地方ハ明代盛ニ製鐵セシト傳ヘ舊坑ノ形跡各所ニ存在セリ福清縣及連江縣ニハ鐵、銀、鉛、錫等ノ鑛脈アリ但シ未タ探堀セズ

### 第八章 農業及牧畜

#### ○第一節 農業

##### ▲第一款 地價

福建省ハ有名ナル山地ニシテ殊ニ閩江以北一帶即チ當領事館ノ管轄區域内ニハ疊々タル山岳巍然トシテ登ヘ地勢險惡地味瘠瘦ナレハ農產物ニ適スル地至ツテ少ク僅ニ閩江ノ流域三百哩ノ間ノミ稍農業ニ佳ナル地ト稱セリ當地方ニハ未タ鐵道ノ布設ヲ見サルヲ以テ其レニ關スル地價ノ說明ハ出來サルモ目下福建鐵路總辦陳寶琛ノ經營シツ、アル福建鐵道豫定線ハ廈門ヨリ福州ニ至ル一線即チ沿岸線當地ヨリ閩江ヲ逆リ江西ニ通スル一線トカ其主要ナル幹部ナレハ該地方一帶ノ地價ヲ示サハ從テ主トスル所ノ鐵道河川海港附近ノ地價ヲ豫知スルニ足ルヘシ

地價ヲ便宜上三等ニ區別セハ水田一畝地(我ニ二百坪)上等百元中等八十元下等六十元内外畑ニ至リテハ遙ニ安價ニテ一畝三十元ヨリ十元位ノ間ナリ又山地ニ於テハ閩江上流ニテ山腹ニ茶樹ヲ栽培シ得ル地ハ割合ニ高價ニテ約六七十元ノ相場ナリ又山岳ニ樹木ノ存在スル處ニ至リテハ樹木ノ大小性質ノ如何ニ因リ大差アリ一言其額ヲ云ヒ難シ主ニカ、ル土地ニ就テハ樹林ノ賣買ノミニテ山地樹木ヲ總括シテ賣買スル者稀ナルカ如シ唯タ時ニハ地主ヨリ山地ヲ借リ三十年若シテハ五十年ヲ期シ樹木ノ材ヲ爲スニ至リ租借主自ラ斫テ市場ニ賣却シ四六ノ割ニ分ケル福建内地奥深キ地方ニ行ハル、ト云フ又福州一帶ニアル山脈ハ數百年來濫伐ノ結果悉ク秃山トナリ復殖木ノ法ヲ講スルモノナシ其多クハ土民ノ墳墓ニ充テラレ連々眼界ノ及フ限リ墳墓ナラサルハ無シ其價格ハ一ノ標準ナク陰陽先生ナル八卦師カ土地ノ陰陽ヲ占ヒ風水多キ

地ハ一塊ノ土地ト雖モ地主ヨリ數千元ヲ食ラレ又極端ニ寸毫モ風水ノ芳氣ナキ處ハ可ナリニ廣キ土地モ數元ニテ購ヒ取  
ラル、モ然モ多クノ土人ハ購フ事ヲ好マサル習慣ナリ

▲第二款 耕作物收穫平均額

閩江流域ニテ米麥、豆麥、茶、玉蜀黍、地瓜ノ收穫アルモ一般百姓ノ需用ニ充ツルニ足ラス多クノ食料ハ廣東、江西地方ヨ  
リ輸入セラル閩江兩岸ヨリ奥深キ地方ニ至ル迄山腹ト云ヒ溪谷ト云ヒ苟モ耕耘シ得ラル、地ハ凡テ土民ニ因リ非常ナル  
注意ヲ以テ耕シ居ラル、モ如何セン地味不良ナル爲充分ナル收穫ヲ得ル能ハサルハ誠ニ憐ムヘシ福建省ノ平野ニ就テハ  
精確ナル調査ナキモ或ル旅行者ノ言ニ據レハ概算十分ノ一位ノモノナリト云フ今左ニ以上各種ノ農作物一年ニ收穫セラ  
ルヘキ平均額ヲ示サン

米 一畝ニ付キ上等ノ地ニテ年六石中ニテ四石下等ニテ一二石

麥 一畝ニ付上等ノ地ニテ年二石内外

豆 一畝地上等ノ地ニテ二石半内外 下等ニ於テ二石位

蘇 一畝地上等ノ地ニテ二擔内外 下等一擔

茶 一畝地約百餘株

地瓜 同上等二十七八擔 下等二十二二擔

玉蜀黍 上等一擔半 下等一擔

▲第三款 地主ト小作人トノ關係

地主ハ多ク細民ニ小作セシメ自ラ耕作ニ從事スルモノ甚稀ナリ小作人ハ初ニ地主ト協議シテ一段歩ニ對シ收穫ノ何割ヲ  
地主ニ納ムル事ヲ契約シ收穫ノ上ハ其約ニ據リ納糧スルモノナルカ納糧ノ割合ハ土地最モ肥沃ニシテ耕作ニ適シタル所  
ハ對分ト云ヒ半分宛ナリ稍地味ノ劣レル所ハ四ト六次ハ三ト七ノ割合ニテ納糧スルカ當地一般ノ規定ナリ

小作人カ農耕スルニハ其肥料トシテ主ニ水田ニハ人糞ヲ施シ畑ニハ牛骨豆餅ヲ用ユ水田ノ收穫ハ一年二回ニシテ第一期  
ヲ早稻ト云ヒ第二期ヲ晚稻ト云フ第一期ニ屬スルモノハ七月中旬第二期ハ十月下旬ナリ

▲第四款 地租諸掛リ

地租  
納稅ノ義務一切ハ地主ニ於テ負擔スヘキモノナリ一ケ年二回四月ト十一月ニシテ初ラ上忙次回ヲ下忙トス稅額ハ一畝地  
ニ付キ一元内外ナリ納稅ノ事ハ元ト戸部則例ニ據リ徵收スル事故一定ノ規則標準アルヘキ筈ナルニ現代政務紊亂弊害百  
出殆ト定額ナク變化ニ變化ヲ加ヘ毫モ定數ヲ知ルニ由ナク察スルニ納稅吏ノ目分量ナルヘシ

▲第五款 土地賣買ノ習慣

土地賣買ニハ必ス仲人ヲ要シ此仲人ニ依リテ契約ノ成立ヲ見ル將來該田地ニシテ紛擾ヲ起シタル場合ニハ仲人ハ證人ト  
ナリテ其誤解ヲ避クルニ努ムルモ根本ノ利害問題ニ關シテハ何等ノ義務ナシ愈々賣買契約ノ整ヒタル上ハ此契約書ヲ當  
該官廳ニ届出テ認證ヲ得ヘキモノトス此レヲ紅契ト云フ紅契ヲ得ルニハ契稅ナルモノヲ納付セサルヘカラス其高ハ賣買  
地價ノ一割ト爲ス土地賣買ニ當リ紅契ヲ官ニ請フハ不勒契稅ヲ支拂フカ故ニ多少煩累モアレハ此等ノ苦ヲ脱セン爲此法  
ヲ略シテ單ニ當事者ニテ賣買契約ニ捺印シテ官ノ登記ヲ經サルモノ多シ此ヲ白契ト云フ其効力ニ至リテハ勿論紅契ノ如  
クナラサルモ他日紛擾ノ起リシ場合ニハ此又有力ナル證據ノ一ト數ヘラル、ト云フ

▲第六款 山林

福建省ニ於テ平野ト稱スヘキモノ實ニ十分ノ一ナルカ其他丘陵谷間ナトニテ耕耘セルモノ少ナカラサレハ先農作シ得  
ラル、土地ハ十分ノ三ト見テ差支ナカラン然ラハ殘ル七分ハ山嶽ナルモ數百年來濫伐ヲ續ケタル爲メ現在ニ於テハ鬱蒼  
タル樹木ヲ有スル山ハ閩江ノ上流江西ニ接シタル地方及北部浙江ニ偏シタル方ニ存スル而已其面積ヨリ云フ時ハ山嶽ノ  
三割方ニテ他ハ剪取リタルカ如キ秃山ニテ土民ノ墳墓ニ充テラル、モノ多ク頗ル土地ノ生産力ヲ減シタルハ悲ムヘキ事  
ナリ

第七款 居留地又ハ外國人雜居地ニ於ケル各國人租借地面積

福州口ハ千八百四十二年南京條約ニ因リ開港セザレ其開港區域ハ確定セサルモ各開港場ノ現存習慣ヨリ案スレハ福州府城内外一帯ノ地方ハ悉ク開港場ト見ルヲ得ヘシ開港日久シク昔ハ茶ノ輸出港トシテ有名ナル港ナリシモ各國共ニ專管居留地ノ設立ヲ見ス只僅ニ我國カ領臺以來福州トノ關係殊ニ密接トナリ將來國力發展ノ曉ハ必福州ニ專管居留地ヲ要スルヲ以テ明治三十二年閩江ノ右岸ニ約二十萬坪ノ專管居留地ヲ設ケタルモ未タ經營スルノ機ニ至ラサルヲ以テ渺タル水田只紙面上ノ契約ニ止ル而已

然ラハ諸外國人及本邦人ハ何處ニ居ルヤト云フニ此レハ福州城ヲ去ル約一里閩江ノ右岸ニ位スル南臺ノ小丘一帯ニ住居シ各種ノ商業ニ從事シ居レリ小丘ノ腰脚ニ當ル部ニハ多少支那人ノ雜居ヲ見ルモ丘頂ニ位スル部ニハ全然外國人ノ住居シ居留地體裁ヲ形造レリ其面積ハ東西ニ延長約二十町南北約三四町ナリ此小丘ハ恰モ東京ニ於ケル愛宕山ノ地位ナレハ眺望頗ル佳ナリ遠クハ巍々タル鼓山高蓋山ノ絶景ヲ見近クハ閩江ニ輻輳セル幾多ノ帆船小蒸汽船アリ丘上ニハ樹木鬱蒼四季花ヲ絶タス道路又劣惡ナラス風景絶美南清各港中ノ樂園トスルニ蓋サルヘシ

第二節 牧畜

第一款 牛馬雞豚及山羊牧畜

福建省、閩江ノ上流及以北ニ於テハ牧場ヲ設ケ家畜ノ繁殖ヲ計ルモノ皆無ナリ惟興化府及建寧延平地方ニ至リテ稍多數ノ馬ヲ産出スレトモ此レトテ該地方ノ舊習上自然ニ各戸馬ヲ養ヒ土法ニ據リテ繁殖セシムルモノナレハ其牧畜業トシテハ至リテ幼稚ニシテ見ルニ足ラス且馬質ハ至テ劣惡且矮小ナリ福州地方ニ於テハ絶テ馬ヲ見サルモ内地ニ於テハ土貨ノ運搬農事ノ補助ニ用ヒラル、ト云フ

馬ニ次テ驢ハ山嶽荷物ノ運送及土人交通機關ニ充テラルト云フ然レトモ以上二種ハ殆ト論スルニ足ラス福建ノ家畜トシ

テ稍見ルヘキモノハ實ニ牛ナリ牛ニハ水牛黄牛ノ二種アリ何レモ農家ニ飼養セラレ耕作ノ補助機關トシテ無ニ必要具タリ試ニ福州ヲ去ル遠カラサル地ヲ散歩セシニ農夫ハ田畑ノ別ナク皆牛ニ依リテ耕耘セルヲ見テモ其用途ノ大ナルヲ推知セラルヘシ福建内地ヲ跋渉セル邦人ノ云フ處ニ據レハ農夫ノ牛ヲ使用スル毫モ福州ノ狀況ニ異ナラサルモ一般ヨリ推セハ黄牛ハ水牛ニ比シ四割方少ナシト云フ水牛ハ只農具トシテ用ヒラルモ其皮ハ牛皮ト共ニ種々ノ皮細工ニ用キラル質粗惡ナレハ價ニ於テモ牛ニ比シ數等ノ差異アリ水牛ノ肉ハ内地僻遠ノ地ニ於テハ食用ニ充ツル事アルヲ見ルモ一般ノ需用トハ爲ラス牛ハ其大部分農具ニ充テラル、モ其一部ハ内地ヨリ福州ニ運送シ牛肉牛乳何レモ人ノ需用ニ充テラル、事毫モ我國ニ異ナルナシ然シナカラ精細ナル調査ヲ經ハ需用ノ程度ハ諸外國ヨリ甚タ少ナキヲ發見スヘシ是レ支那ハ昔ヨリ農ヲ重スル點ヨリ農具ニ充ツル牛ヲ重視スルト又昔祭典ニハ必黄牛ノ犧牲ヲ施シタルヨリ大ニ黄牛ヲ尊ヒタルノ習慣アリ又或ル説ニハ牢獄ノ牢ナル文字ハ、ウ冠リニ牛ノ字ナルヲ以テ此レヲ忌ムトカ種々ノ説アルモ兎ニ角多ク食スルヲ好マサルハ事實ナリ

豚ハ支那各省ヲ通シ最モ有用ナル家畜トシテ世人ニ知ラル、事ナルカ其數ノ多キニハ嘆驚ノ外ナシ雜踏セル市街ヲ除クノ外ハ各戸必數頭ヲ養ヒ居レリ然シテ其飼養スル多クハ貧民ニシテ別ニ飼養場ヲ備フルニ非スシテ戶外ニ自由ニ放飼スル有様ナレハ豚ハ到ル處跋扈シ道路市街ノ汚物ヲ食ヒ自然ノ掃除者トナルモ又一面ニハ自ら多大ノ糞尿ヲ放チテ市街ノ不潔ハ益甚シク一種ノ臭氣ハ往來ノ客ヲシテ不快ノ念ヲ抱カシム飼主ハ一日凡三回位ノ餌ヲ與フ其材料ハ主ニ米水麥糠位ノモノニテ一ヶ月ノ飼養料僅ニ四十錢位ナリ支那人カ豚ヲ養フ觀念ハ本邦田舎ノ農家ニテ家鶏ヲ養フト同シク廢物ヲ利用シテ此レヲ糞ヒ三ヶ月ヲ經テ充分發育セハ元價ノ五六倍即チ十二三圓ニ販賣セラル又牝豚一年二回子豚ヲ産出シ一回産出ノ數八九頭ヨリ十二三頭ノ多數ナリ此等ノ小豚カ稍生長一ヶ月モ經テ自由ニ飼養シ得ルニ至レハ二圓乃至二圓半ニ賣買セラル、事故貧民ニハ最モ徳用ノ家畜ニシテ其不潔ヲ厭ハサル限リハ我養鶏ノ法ヨリモ數倍ノ利益疑ナシ豚ノ毛ハ土人カ之ヲ用テ不作法ナル刷子ヲ作ル事アルモ大部分ハ肥料ニ供セラル其價格ハ二十斤ニ付壹元位數年前ヨリ

在福州獨逸商人禪臣洋行ハ當方面一帶ノ豚毛ヲ買收シ本國ニ輸出シ居ルト云フ

山羊ハ福清縣地方ノ産多シ需用ハ豚ノリ遙ニ劣リ目下本口ニテ用ユル額ハ豚ノ半分位ナリ其毛ハ筆ヲ作ルニ用ヒラル又羊ハ殊更少額ニシテ皆無ト云フニ均シト言フ家畜中鳥類ニ於テハ鴨鵝鵝ノ三種ナリ其内ニテ鴨最モ多ク此レヲ飼養スル多クハ專業ニ屬シ飼主ハ數百羽ヲ率ヒテ田畑ニ出テ水草幼芽ヲ食ハシム孵化セシムル法モ親鳥ノ體温ニ依ルニ非スシテ温爐ニ依リ一時ニ五六十ヲ適度ノ温度ニテ蒸シ孵化セシム只其結果ヲ見ルニ自然温ニ由ラサルモノハ發育ノ遅々中斃ノ數等何レモ二割方惡シト云フ

人工孵化法  
養鶏ノ法ハ我國ノ農民カ生計ノ補助トシテ養フト同シク農民ハ各戸必五六羽ヲ養ヒ其卵及鶏ヲ順次賣却ス別ニ養鶏場トシテ大規模ノモノモ無シ鶏肉需用ノ廣キ事ハ以上三種ノ内最モ多シ

鵝ハ鶏ノ如ク家ニ飼用セラル、モノニ非スシテ鴨ト同様專業者ニ依リテ飼養セラレ孵化ノ法モ異ナルナシ其需用尤モ少ク肉モ安シ只此種ノ鳥ハ吉鳥トシテ支那人カ結婚ノ場合ニ贈物トシテ珍重スル風習ハ支那一般ニ行ハル、モノ、如シ

▲第二款 獸疫ノ有様並ニ検査ノ方法  
本口ノ牛馬ニハ間々忌食シテ斃ル、モノアルモ其原因ノ何タルハ獸醫ノアラサル爲メ何等調査スヘキ手掛リ無シ土人ハ此等獸類ノ病疫ニ罹リ食事ヲ忌ムヲ見レハ拙劣ナル觀察ヲ以テ何部ニ火氣ヲ生シタリトカ何處ノ火氣カ閉チタリトカ云ヒテ勝手ニ草根ナト調シテ治療スル事アルモ殆ト記スルニ足ラス

▲第三款 生牛馬輸出ノ有様及生牛馬ノ相場  
牛馬ニ於テ馬ハ當地ノモノ頗ル劣等且其數少ク殆ト記スルニ足ラス勿論輸出セラル、事ナシサリトテ運搬機關交通機關ニハ船若シクハ轎ヲ以テスルヲ以テ馬ノ需用ナク輸入モ絶テ無シ牛ニ於テ稍見ルヘキモノアルモ此レハ農耕ニ充テラレ百姓ノ重視シツ、アルモノナレハ時々多額ノ輸出アル時ハ農耘ニ差支ヲ來ストテ地方官ヨリ制限セラル、ハ支那一般ノ慣例ナルカ如シサレハ南清各開港場ヨリ輸出セラル、額モ自然多額ナラサル等ナルカ殊ニ當福州口ニ於テハ數年來厦門ヲ經香港方面ニ輸出セラル、モノ僅ニ七八百頭内外而已唯一昨年日露戰爭當時ハ廣東人當港ヨリ牛類ヲ買占メ浦鹽、旅順ニ密運シタル頭數ノ千數百頭ニ上リシモ此レハ只一時的ノ事ニテ昨年ヨリ漸時ニ輸出數減シ本年ニ至テハ殆ト輸出ナキモノ、如シ其原因ハ未詳ナルモ想フニ市價ノ思ハシカラサルタメナルヘシ牛ノ輸入ハ絶テナシ又生牛馬ノ相場ニ付テ言ヘハ牛類ハ水牛ニ於テ一頭三十元ヨリ四十五元ノ間ヲ上下シツ、アリ黄牛ハ二十五元ヨリ三十五元ノ間ナリ馬ハ四五十元ヨリ八九十元迄ノ相場ナリト云フ

▲第四款 一ヶ年放牧並ニ厩ノ費用繁殖状態  
當館管轄區域内ニハ牧場ヲ見サルヲ以テ此等一般ノ狀況ハ固ヨリ記載シ難キモ福州近村ニテ家ニ飼ヒ農事ニ使役セラレ及運搬ノ機關ニ充テラル、モノヲ聞クニ牛馬ノ食料ハ何レモ乾草青草ヲ主トシ麥糠其他米糟等ハ僅ニ日一回ニテ一ヶ月ノ食料トシテ八十錢ヨリ一元内外ナリト云フ

▲第五款 養魚池  
養魚ノ事ハ農民ノ副業トシテ又主要ナルヲ失ハサレハ漁業ノ編ヨリ割テ特ニ此ニ列ス養魚ノ法ハ南清一帶何レモ盛ニシテ當地方ニ於テモ作物ニ次テ最モ肝要ナル農民ノ所得ナリ養魚池ニ養ハル、魚ハ蓮魚、草魚ノ二種ニシテ毎年一二月ノ候小魚ヲ江西省地方ヨリ購入シ其價格ハ千疋ニシテ二十圓内外ナリ其收穫ハ年暮ニシテ此レヲ市場ニ賣却スルモノナリ其價格ハ年々收穫ノ多寡ニ依リ差異アルモ平均二三圓ノ所ナリト云フ

### 第九章 漁業並ニ獵業

#### ○第一節 漁業





- 一 海關銀庫 庫平十兩 新議十兩二錢四分
- 一 日本圓銀 新議七錢四分二五
- 一 新嘉坡圓銀 同 七錢四分二八
- 一 墨銀 同 七錢四分四
- 一 小銀貨 二十仙十仙五仙ノ三種
- 一 銅貨 制錢市錢ノ二種
- 以上硬貨
- 一 洋例秤半 一元 新議秤七錢四分〇六六 外國人取引之一元 滙豐渣打銀行小切手モ同様
- 一 同 一元 同 七錢四分一六 外國銀行錢庄票發兌買付ニ用フル一元
- 一番 票 一元 同 七錢 支那人間取引上ノ二元

以上手形又ハ紙幣

日本圓銀ノ流通

其他各省ノ銀錠、馬蹄銀、滙豐即チ香港上海銀行紙幣日本銀行兌換券臺灣銀行券等アルモ市上ニ流通スルコト稀ナリ  
 日本圓銀ハ是ヲ龍洋龍番又ハ龍銀ト稱ス皆表面ニ龍紋アルニ因ミテ名クルモノナリ市中最多ク通用ス市場ニテハ日本銀六、墨銀一新嘉坡銀三ノ割合ヲ以テ流通ス故ニ市場流通貨幣中最モ多ク見ルモノハ日本圓銀ナリ其相場ハ龍洋毎千元ニ付番票若干員又ハ新議何兩ト稱ヘ日々需用供給ニ依リ高低アリ其最モ需用多キ時ヲ茶期トス番票ハ福州城垣内外ヲ除キ他地方ニハ通用セサルヲ以テ現金ヲ携帶シテ茶產地ニ買出ニ行キ又ハ產茶地方ヨリ茶ヲ運搬シテ當地ニテ賣捌クモ皆現金ニ引換テ持歸ルヲ以テ龍洋ノ需用頓ニ増加シ相場モ隨テ騰貴スルヲ常トス而シテ龍銀千元ノ重量ハ新議秤七百四十二兩半ナルヲ以テ相場ハ七百四十二兩半ヨリ七百四十八兩九兩ノ間ニアリ其相場計算法左ノ如シ  
 番票ヲ以テ相場ヲ立ルトキ兩相場ニ換算法

龍洋一千員 申票伏一千〇六十三元

番票一元ハ新議七錢ナレハ

$1,063 \times 7 = 7,441$  即チ新議秤ノ七百四十四兩一錢ナリ

反之兩ヲ以テ相場ヲ立ルトキハ番票相場ニ引直スニハ七錢ヲ以テ除スレハ左ノ如クニシテ龍洋一千員又ハ申新議七百四十四兩一錢ヲ得  
 $744.1 \div 7 = 1,063$

日々ノ相場表ニハ臺伏即チ番票ニテ相場ヲ表ハスモ普通口ニテ唱フルトキハ新議兩ヲ用フ例セハ今日龍洋行情ハ七四三トカ七四二五ト唱フルヲ通例トス

今龍洋七四五ノ時日本圓銀四圓ヲ番票ニ兌換スルトキハ龍洋四元ハ新議二兩九錢八分ニ當ル番票四元ハ新議二兩八錢ナレハ其差一錢八分ヲ餘ス勘定ナリ其剩錢ヲ其當時ノ一釐銅錢相場ニ換算シ更ニ一釐銅錢ト小銀貨トノ相場ニ引直シテ小銀貨若干一釐錢若干ヲ番票四元ニ附加シ與フルモノトス

墨銀ハ一ニ光洋光鷹又ハ鷹洋ト稱ス表面ニ鷹圖ノアルニ因ミテナリ當地流通圓銀中最モ相場高キモノトス新議秤ニテ量ルニ二元ハ七錢四分四釐アリ墨銀ハ上海通貨ニシテ上海トノ爲替相殺ノ出來サル時又ハ爲替相場輸送點ニ超ユルトキハ當地ヨリ上海ニ墨銀ヲ現送スルヲ以テ需用多キノミナラス當地ニハ墨銀多ク流通セサルヲ以テ是ヲ蒐集スルコト難ク隨テ相場ハ高キモノトス

新嘉坡圓銀ハ一ニ英一又ハ新銀ト稱シ三者ノ中相場最モ安キモノナリ新議秤ヲ以テ量ルニ一元ハ七錢四分二厘八ナリ棒銀 當地ニテハ銀貨ハ其受授ノ際刺印ヲ押シ又ハ劍取ルヲ以テ其形ノ平キモノナク表面文字紋章ハ勿論原形ヲモ存セサルニ至ル甚シキハ酒杯ノ如キモノアリ又ハ中央ニ孔ヲ穿テルモノモアリテ無傷ノ銀貨ハ市上ニ見ルコト能ハス而シテカク極印甚シキ日本銀墨銀及新嘉坡銀ヲ總稱シテ棒銀又ハ毛洋ト稱ス棒銀ハ貨幣トシテ市場ニ流通セス目方ヲ以テ授受

セラシテ此棒銀ニ對シ鑄造ヨリ發行スル紙幣ヲ臺伏又ハ番票ト稱シ新議秤ニテ棒銀七百兩ヲ臺伏千元トス  
流通圓銀(極印シタルモノ)ト棒銀トノ境界ハ曖昧ニシテ劃然タル區別アラズ只取扱者ノ手加減ト慣例ニ依リ區別スル  
モノトス即チ圓銀一枚ノ重量何錢ヲ缺ケルモノハ棒銀トシ夫ヨリ以上ハ流通圓銀トシテ通用スレトモ其間劃然ノ區別ナ  
ク各自ノ目分量ニ任スノミ

●碎銀 前記三種ノ貨幣中完全無傷ノモノ又ハ少シク極印アルモノハ貨幣トシテ流通シ相場ニヨリ取引セラレ極印ノ甚シ  
キモノハ棒銀ト稱シ量目ヲ以テ授受セラレ棒銀ヨリ一層甚シク破碎セラレ又ハ銀貨ヲ細切シ又ハ剝取ラレテ已ニ銀貨ノ  
原形ヲ全ク失フモノハ碎銀ト稱シ單ニ地金トシテ裝飾品又ハ馬蹄銀ニ改鑄セラル

海關銀ノ純分

海關銀ノ種類

●海關銀ノ純分 完全ナル鑄造器械ヲ用ヒサルヲ以テ一定シ難キモ大抵ハ百分中純銀九十九分ヲ含ム銀塊ヲ鑄ルニ城內南街ニ裕源、長  
泰、常泰ノ三請負鑄造所アリ是ヲ官號ト稱シ地方官ヨリ臨時此官號ニ命シテ鑄造シ以テ北京國庫ヘノ送金ニ便ニス此請  
負官號ハ上海地方ニテハ銀爐ト稱スルモノニシテ右ノ外自己ノ資本ヲ以テ銀塊他所流通銀兩虧損若クハ剝取付外國圓銀  
又ハ銀碎ヲ買入テ海關銀ヲ鑄造シテ賣出シ又ハ錢庄商估ノ依頼ヲ受ケテ鑄造スルコトモアリ而シテ其鑄造料ハ百兩ニ  
付銀四錢トス海關銀ハ市中ニ流通セス稀ニ授受セラル、コトアルモ多クハ錢庄ニ持行き其日ノ相場ニ依リ兩替ヲナス此  
海關銀ニ海關二四庫及海關兩ノ二種アリ二四庫ハ所謂庫平ニシテ其銀貨ハ通常ノ海關銀ニ同シキモ唯量目ニ差アリ即チ  
新議秤ヲ以テ量ルニ通常ノ海關兩一百兩ニ付二四庫銀百〇二兩四錢ニ相當ス故ニ二四庫銀ト稱ス納稅其他官府ニ納ムヘ  
キモノハ海關兩ニテ若干又ハ二四庫ニテ若干ト稱フルモノトス相場モ日々各別ニ立ツト雖トモ海關兩相場ニ一〇二四ヲ  
乘シタルモノハ即チ二四庫銀ノ相場ナリ洋海關ニ納稅ノトキハ福州通貨百五十三元八角四仙(一元ハ新議七錢四分〇六  
六)ヲ以テ百兩ト換算ス

●小銀貨 當地ニ流通セル小銀貨ハ五仙十仙二十仙ノ三種ニシテ右小銀貨中廣角、福角、官角ノ三類別アリ廣角ハ廣東省

鑄造ニ係リ福角及官角ハ福建省鑄造ニ係ル福建省小銀貨鑄造所ハ元ト銀元局ト云ヒ當地ノ紳士孫葆哲ノ私設ニ係ル此私  
設鑄造所ニテ鑄造シタル小銀貨ヲ福角ト稱シ明治三十三年十月ヨリ福建總督ノ事業ニ移シ福建官銀局ト改稱セリ其官銀  
局鑄造ノ小銀貨ヲ官角ト稱ス福角及官角トモ外國人並ニ清國人間一般ニ流通使用セラレ其受拂ニ法定ノ額ナク其日ノ相  
場ニ依リ受授セラル小銀貨ハ圓銀ニ對シテ補助貨トナル場合モアリ又然ラサルトキモアリ一定セス例ヘハ當地郵便局、  
電報局又ハ外國商舖ノ或者ハ收入金並ニ小賣ノ時ニモ當地外國銀行及商行ニテ唱フル墨銀又ハ龍銀勘定ヲ用フルヲ以テ  
端數ヲ小銀貨ニテ仕拂フトキハ十仙ニ付六釐ヲ附加スルヲ常トス例ヘハ電信料一元九十仙ヲ仕拂フ場合ニ銀貨二圓ヲ持  
參スレハ十仙ノ釣錢ヲ渡スト雖モ銀貨一圓九十仙ノ小銀貨ヲ持參スレハ別ニ五仙四釐ヲ徵收セラル又土人市中小賣商  
ニ在テハ圓位以下ノ端數仕拂ニハ打歩ヲ要セス單ニ補助貨ト見做シテ授受スルモアリ區々一定セス受授ニ法定額ナク日  
々需用供給ニ依リ相場ノ建ヲ見レハ補助貨ニアラスシテ一種獨立ノ貨幣ナルヲ知ルヘシ

●市中小買物ヲナス時又ハ日常少額ノ仕拂ヲナス時ニハ豫メ兩替屋ニテ小銀貨ト交換スルヲ宜シトス兩替屋ニテハ其日ノ  
相場ニヨリテ二仙乃至五仙ヲ附加ス事小ナリト雖モ日常少額ノ仕拂多キ人ハ塵積ヲ山ヲ成スノ喻ニ漏レヌ永キ間ニハ多  
額ノ節約トナルヘシ

小銀貨下落ノ原因

●福角十仙ハ庫平七分二釐ノ重量トシ品位ハ銀八二ト銅一八ノ割合ナリシカ私設ハ請負事業ナリシ爲メ不知不識ノ裡ニ品  
位劣リ終ニハ七五ト二五ノ割合ニ下リ隨テ相場モ下落セリ官角ハ福角ト同シク銀八二ト銅一八ノ參加割合ナルモ我國造  
幣局ノ如キ完全ナル機器モナク分析術モ熟練セサレハ實際ハ疑ハシ廣角ハ市上ニハ多ク流通セス然レトモ福州附近ノ縣  
鎮ニ在テハ福州鑄造ノ小銀貨ヨリ廣角ヲ好ミ流通區域廣ク需用モ隨テ多シ昨今ニテハ三者ノ間ニ相場ノ差異ナシ  
銅錢 市上流通ノ一釐銅錢ニハ形狀ノ大小品質ノ好惡鑄造ノ公私等千差萬別劃一ナラサルモ大別シテ現錢、市錢ノ二種  
トス現錢ハ大錢又ハ制錢ト稱シ一千個ノ重量約八斤餘アリ市錢ハ約五斤ニ過キス

●制錢 元來清國法定ノ鑄貨ハ只銅錢アルノミニシテ戶工兩部ト各省督撫ヲシテ鑄錢ヲ行ハシム銅錢ニ二種アリ一ヲ機錢

模錢ト制錢

ト云ヒ一ヲ制錢ト云フ模錢ハ銅六十鉛四十ノ合金ヲ以テ鑄造シテ模範錢タリ戸部官庫内ニ納メ專ラ有事ノ日ニ供スル準  
備金ノ一ナレハ市上ニハ流通セス其一百枚ノ重量ハ約我百六十目アリ制錢ハ銅五十四鉛四十六ノ合金ヲ以テ鑄造シ重量  
ハ模範ノ四分ノ三ニ當ル形狀大小ハ吾寬永通寶ニ同シ現今清國各省ヲ通シテ流通スル制錢ノ内康熙、雍正、順治年代ノモ  
ノハ形大ニシテ白黃色ヲ帶ヒ最モ品位ノ良好ノモノトシ乾隆、道光、嘉慶時代ノモノハ形小ニシテ品質稍々前者ニ劣ル以  
上ヲ白錢大錢又ハ制錢ト稱シ租稅關稅釐金稅等總テ政府ノ公納ニ使用セラル、最良ノ銅錢ナリ

市錢 ハ又私錢ト稱シ大錢即チ制錢ニ他ノ粗惡金屬ヲ混合シテ改鑄シ又ハ銅鐵古鐵等ヲ用ヒ民間ニテ私鑄スルモノニ係  
ル大小輕重一定セス重ニ下等社會ニ流通スルモノニシテ大ナル取引ヲナス商舖ニ在テハ受授セス殆ト貨幣トシテ見做ス  
ヘキモノニ非ルナリ其形狀大小輕重ニヨリ沙殼、風皮、魚眼灰板等ノ名稱アリ一釐錢ノ需用ハ益々増加ノ傾キアリ爲ニ  
惡錢モ依然其跡ヲ絶タス銅貨ト混用セラレツ、アリ其他長髮亂ノ太平通寶及日本ノ寬永通寶ハ紅市錢ト稱ヘ市錢ニ混入  
使用セラル、モ常ニ上位ヲ占ム目下市錢相場ハ洋銀一元ニ對スル千九十文ナリ市場ニテ買菜ノ時十仙銀貨ハ通例百〇六  
文トシテ計算セラル而シテ現錢、市錢流通割合ハ現錢三分市錢七分ナリ

銅貨 ハ我邦銅貨ニ倣ヒ明治三十四年三月頃ヨリ官銀局ニテ鑄造ス二仙一仙及五釐ノ三種アリ但シ現ニ市場ニ流通シ居  
ルハ一仙銅貨ノミ銅貨一仙ハ制錢十文ニ當ルノ定メナリ其形狀大サハ我邦ノ一錢銅貨ト同様ナリ濫鑄ノ結果昨今銅貨ノ  
價格暴落シ番票一元ニ付百十六枚洋銀一弗ニ付百二十三枚替トナリ即チ一仙銅貨ノ實價ハ八釐餘ニ相當スルニ至レリ  
金塊 當地錢庄ニテ取引セラル、金塊ハ形狀長方形ニシテ一枚ノ重量新議秤ノ十兩ナリ之ヲ足赤ト稱ス金ヲ取扱フ各錢  
庄ニテ鑄造シ表面ニ屋號名及重量ヲ極印ス十兩以内ハ之ヲ截斷シテ賣却ス相場ハ日々赤金一兩ニ付番票若干元ト立ツ此  
足赤ノ外日本英國及清國他省ノ金貨及金塊ト稱スルモノ賣買セラル、モ各其金質重量ニヨリ取引セラレ別ニ相場ヲ立テ  
ス亦當地ノ足赤ト雖モ貨幣トシテハ授受セラレス一ノ地金トシテ取扱ハル  
他省ノ銀塊 當地ニテ普通取引セラル、海關稅ノ外他省ノ銀塊モ亦併セテ取引セラル其重ナルモノヲ大寶、司寶及京錠

洋例秤ト墨  
銀トノ換算  
割合

ノ三種トス大寶ハ天津及上海ノ鑄造ニ係リ司寶ハ天津ノ鑄造ニシテ各一箇約五十兩京錠ハ北京鑄造ノモノニシテ約十  
兩トス右三個銀塊ノ當地ニ取引セラル、所以ハ當地材木ハ寧波ヲ第一トシ次テ上海山東省及天津地方ヘ又紙ハ各省ヘ多  
額ニ輸出セラレ其運搬ハ重ニ「ジャンク」船ナルヲ以テ其實上代金ヲ銀塊ニテ受取り現送シ來ルト一ハ山東「ジャンク」  
船カ大豆及豆餅ヲ搭載シ來ルトキ持來ルヲ以テナリ右三種ノ外他省ノ銀塊就中山東、山西、直隸鑄造ノ元寶モ多少取引ナ  
キニ非レトモ少數ナルヲ以テ相場ヲ立ルニ至ラス右三種ノ銀塊ハ一百兩ニ付海關銀若干ト相場ヲ立ツ  
外國銀行及外國商館取引ノ秤及換算法 當地外國銀行並ニ外國商館ニテ唱フル所ニ據レハ福州ノ流通貨幣ハ皆「メキシ  
カン、ダラー」ト稱シ取引金額ハ凡テ墨銀何元ト稱スト雖モ其實墨銀ハ流通セス只名目上ノミニシテ重ニ日本銀貨及新  
嘉坡銀ヲ用フ尙上海ノ注規銀ノ墨銀ニ於ケルカ如シ  
外國銀行ニテハ貨幣取引上洋例秤ト稱スル秤ヲ使用シ七百十七兩ヲ以テ墨銀千弗ト換算ス而シテ洋例秤百兩ハ新議秤百  
三兩三錢ニ當ル故ニ洋例秤七百十七兩ヲ新議秤兩ニ換算スレハ左ノ如シ  
洋例秤 新議秤  
717 × 103.3 = 740.661

即チ棒銀ノ重ヲ新議秤七百四十兩六錢六分ヲ以テ(一毛ハ計算上常ニ切捨ツ)墨銀一千弗ノ換算相場トス(此算法ハ七  
百十七兩ニ三三ヲ乘シタル積ニ七百十七兩ヲ加ヘタルモノト同シ故ニ錢舖ニテハ加三三九ノ算法ト云フ)故ニ又七四〇  
六六洋例秤トモ呼稱ス是レ即チ當地外國銀行及外國商館ニテ唱フル Poocho Local Currency ナリ例ヘハ龍銀相場銀一圓  
ニ付キ新議七錢四三ノ時外國銀行ニ宛テ振出タル小切手ヲ以テ圓銀硬貨ヲ受取ラントスルトキハ左ノ如キ算法ヲ用フ  
洋例秤 新議秤  
1,000 × 740.66 = 740,660

即チ日本圓銀九百九十六圓八十五仙ヲ得  
當地ニテ仕拂ハルヘキ爲替手形代金取立及當地ニ於ケル諸取引勘定受授ニハ皆此算法ヲ用フ又清國人ト外國人間ニ行ハ  
ル、取引ニ對シ清國人ヨリ振出ス手形面ニハ番銀何員ト記載シ其側ニ半洋例秤ト附記スルモノハ悉ク七四〇六六秤ノ意

外國銀行ノ受入支拂差

味ナレハ此算法ニ準據シ換算セラルヘキモノナリ  
七四一六秤ト稱スルモノハ當地滙豐銀行及渣打銀行ニテ受入ノ時使用スル秤ノ名稱ニシテ凡テ右兩銀行ニ於テ金錢ヲ受  
取ル場合ニハ七百四十一兩六錢ヲ墨銀千弗トシテ換算シ仕拂ノ時ニハ七百四十兩六錢六分ヲ千弗トシテ換算ス其差每  
千兩ニ付九錢四分ハ買辦ノ取扱金額ニ對スル口錢トテ收得セラル、モノナリ例ヘハ茲ニ新議秤棒銀七百四十一兩六錢ノ  
手形ヲ以テ滙豐銀行ニ預金スレハ預金通帳入金ニローカル、カレンシー千弗ト記入ス而シテ此預金ニ對シ千弗ノ小切手  
ヲ振出セハ新議秤棒銀七百四十兩六錢六分ヲ得其差九錢四分ハ即チ千弗ニ對スル買辦ノ口錢ナリ

第二款 銀行

當地ニ於ケル外國銀行ハ香港上海銀行、渣打銀行、及我臺灣銀行ノ三者ニシテ此外有利銀行、華俄道勝銀行、橫濱正金  
銀行ノ各代理店アルモ銀行一般ノ業務ハ取扱ハス

外國銀行業務ノ模範

香港上海銀行ハ華名ニテ滙豐銀行ト稱シ當地ニ出張所ヲ設ケ二名ノ英國人事務ニ執掌ス現金出納ハ皆買辦之ヲ司トル一  
般銀行業務ヲ營ム重ナル業務ハ當地茶商ニ對シ信用貸付ヲナシ又ハ茶爲替ノ買付一般爲替ノ買買ヲ爲ス傍ラ信用アル錢  
庄ニ對シ信用貸付ヲナス然シ抵當貸付ハ之ヲ行ハス故ニ倉庫等ノ設備ナシ同銀行ハ東洋各港ニ支店ヲ有シ資金運轉ノ便ヲ  
占ムルヲ以テ當地ニテモ官衙ノ公金高官又ハ富裕者ノ私金其他零碎ノ低利預金ヲ吸收シ爲替買賣貸付割引ニ流用シタル  
餘金ハ爲替作用ニヨリテ利息高キ地ニ運轉シ利殖ヲ圖リ清國公債ノ募集元利金ノ償還取扱ヲ委任セラレテ手数料ヲ收メ  
又總督衙門其他諸官衙馬尾造船所ノ買入品ニ對シ爲替ヲ賣リ諸種ノ收益アルヲ以テ巨額ノ利益ヲ得取扱金額モ多額ニ上  
レリ同行ハ渣打銀行ニ比シ業務モ手廣ク信用モアリ基礎鞏固ナレハ自然取引者モ多ク殆トト金融界獨歩ノ有様ナリ利子  
ハ當座預金ニ對シ年僅ニ二分ノ名義上ノ利子ヲ附シ取扱口錢百弗ニ對シ三十仙乃至五十仙ヲ徵スルヲ以テ預金引出ノ際  
ハ利子ヲ加算スルモ常ニ預金額ヨリ減ス何處ノ銀行ニテモ預金ヲ引出スニ其金額ヲ減スルノ理アラシキ其勢力ノ盛ナル  
以テ想像スルニ足ルヘシ左ニ同行ノ當座勘定規定ヲ示ス

預金利子ト取扱口錢

滙豐銀行ノ當座勘定規約

- 一 當銀行ト當座勘定ヲ開始セントスル者ハ最初五百弗以上ヲ預入ルヘシ
- 一 十弗以下ノ小切手ヲ振出スヘカラス
- 一 當銀行ハ小切手帳、預金入金帳、及通帳ヲ渡スヘシ
- 一 預ケ主ハ當銀行ノ特別約束アラサレハ預ケ高ヲ超エテ小切手ヲ振出スコトヲ得ス
- 一 當所手形及小切手ハ無報酬ニテ取立依頼ニ應スヘシ
- 一 預ケ主自ラ通帳ニ記入スルコトヲ許サス通帳ハ毎月一回當銀行ニ差出シ決算對照スルコトヲ要ス
- 一 清國人渡リ小切手ハ悉ク持參人拂ナルヘシ
- 一 橫線小切手ハ現金ニテ拂渡サ、ル可シ
- 一 預ケ金ヲ爲スニ當テ通帳中ニ手形小切手其他ノ證券類ヲ通帳ニ挿入セラレサル様注意アリタシ時々見落シ又ハ紛失ノ恐アレハナリ
- 一 預金殘高二十萬弗迄ハ年二分ノ割合ニテ日々殘高ニ對シ利息ヲ附ス三百弗以内ノ殘高ニハ利子ヲ附セス
- 一 定期預金利子ハ一箇年四分、六箇月三分、三箇月二分ニシテ二十萬弗以内ニ限ラル若シ此金高ヲ超過スルハ前記利率ヲ低減ス
- 一 現金取扱及清國人ニ對スル業務ハ買辦ニ一任シテ全然其取引ニ對シテ責任ヲ負ハシム買辦ハ銀貨鑑定掛、計算掛、記帳掛、出納掛、跑街掛等ヲ置キ其使用人給料ハ銀行ヨリ支出スルモノトス買辦ハ廣東人ニシテ馮菊畦ト呼ヒ財產約八十萬餘本業ハ茶商ニシテ號名ヲ公祥和號ト云フ而シテ此人ハ只名義ノミニテ責任ヲ負フト雖モ日々ノ業務ハ親屬ナル馮清浦ナルモノ之ヲ行フ買辦ノ俸給ハ月額三百元外ニ爲替買賣貸附割引等取扱高ニ對シ千元ニ付一元二十五仙ノ口錢ヲ收得スルノミナラス前記現金出納ノ秤量ノ差每千兩ニ付九錢四分ヲ收メ使用人給料ノ口錢ヲモ得ルヲ以テ毎月千元以上ノ收入アリト云フ

買辦ノ銀行ヨリ得ル口錢

渣打銀行ノ預金利子ハ香港上海銀行ニ同ク重ナル業務ハ當地茶商ニ對シ信用貸付ヲナシ又ハ茶爲替ヲ買入レ茶ニ對シテ荷爲替ヲ取組ミ其他一般ノ銀行業ヲ營ムモ當地ニテハ遠ク香港上海銀行ニ及ハヌ取扱高モ三分ノ一位ナリト云フ兩銀行トモ茶期ニハ多ク現金ヲ貯ヘ茶期終レハ香港上海ニ爲替作用ニヨリ又ハ現送ス

臺灣銀行ハ預金貸附及爲替買賣其他銀行一般ノ業務ヲ營ミ開業日淺シト雖モ追々内外人ニ知悉セラレ、ニ至リ預金及貸附金モ相應ニアリ先頃當地布政使ノ要求ニヨリ福建省釐金ヲ擔保トシテ銀十萬元ヲ日歩三仙一年ノ期限ニテ融通シタリト云フ同行ノ預金利子ハ當坐年二分五釐、小口貯金ハ日歩一仙、六ヶ月以上四分、一年以上五分ノ規定ニシテ貸金利子ハ金融ノ繁閑信用ノ程度擔保品ノ確否ニヨリ隨時變動アリ同行發行ノ一圓及五圓券ハ二三千圓市場ニ流通シ居レリ  
錢庄又ハ錢舖 ハ當地金融ノ一機關ニシテ所謂清國ノ銀行業ヲ營ムモノヲ謂フ普通一般ノ銀行ヲ營ムモノヲ錢庄ト稱シ兩替店ヲ本業トシ傍ラ貸附割引業ヲ營ムモノヲ錢舖ト稱ス地方ニヨリテハ判然兩者ヲ區別差別スレトモ當地ニテハ多少其區別ハアルモ往々錢庄錢舖ト混稱セリ而シテ錢庄ハ銀行條例又ハ法律上ノ制裁ナク隨意ニ開設又ハ開店スルコトヲ得毫モ一般商店ノ營業法ト異ナルナシ資本ハ多キハ五萬元ヨリ少キハ五千元ヲ以テ設立シ最モ少キハ二三千元位ノモノモアリ其信用ノ程度ハ重ニ店主ノ財産ノ多少性質ノ良否信用ノ有無ニ依リテ區別シ其錢庄ニ於ケル放資ノ高ヲ以テセス多クハ合資組合組織ニシテ二三組合人ニ依テ成ルモノヲ最モ多シトス一個人ニテ開設スル者ハ十中二三ニ過キス現今番票ヲ發行スル重ナル錢庄ハ左ノ如シ

錢庄名	所在地	錢庄名	所在地
昇和	過橋	厚餘	過橋
裕泉	同	源春	同
源生	同	慎源	同

錢庄名	所在地	錢庄名	所在地
大生	同	恒昌	同
昇餘	直路	進源	同
協益	同	崇裕	同
盈聚	同	恒餘	同
厚坤	下杭街	涵康	同
豫茂	同	康康	同
恒和	同	永坤	同
源餘	橫路	恒和	同
恒春	同	晉和	同
長美	同	泰餘	同
謙隆	同	信餘	同
恒春	同	同	同
永昇	城內錢庄	天泉	城內
開泰	同	承源	同
鉅源	同	福怡	同
恒宜	同	永美	同

▲第三款 爲替

爲替取引先及爲替相場 票號及錢莊ニテ取扱フ爲替取引中最モ多キヲ香港トシ次テ上海トス廈門、天津等アルモ至テ少

數ナリ故ニ日々爲替相場トシテ上ルモノハ上記三港宛ノモノナリ尤票號ハ官金取扱事務ヲ專業トシ厦門海關稅、釐金稅地丁銀ノ輸送ヲ爲替作用ヲ以テナスカ故ニ自然厦門トノ取引多シ而シテ其爲替相場ハ輸出入貿易上ノ原因金融上ノ原因振替上ノ原因爲替相場上ノ原因及雜種ノ原因ニヨリ日々高低アリ各地ヨリ電報又ハ書信ヲ以テ通知シ來ルモノトス爲替買用フル貨幣 ハ福州新議秤七百四十一兩六錢ヲ以テ福州通貨千弗ト換算シ上海宛爲替ハ上海規銀ヲ買付ケ香港ハ香港通貨爲替ヲ買付ルモノナリ此貨幣標準ハ外國銀行票號及錢庄トモ同一ナリ又他所ヨリ仕向ケラレタル爲替ノ仕拂ハ外國銀行ニテハ新議秤七百四十四兩六錢六分ヲ以テ福州通貨千弗ト換算シ票號及錢庄宛手形額ハ新議兩ニテ記載スルヲ以テ番票ニテ仕拂フトキハ一員ヲ新議票七錢ノ割合ニテ換算シ硬貨ナレハ各其種類ノ當日ニ於ケル相場ニヨリ換算仕拂フモノトス

爲替買用ニ對スル名稱

- 一、港兌 福州香港間爲替ノ謂ニシテ福州新議秤七百四十一兩六錢ノ棒銀ヲ標準トシテ香港宛爲替ヲ買付ルモノナリ
- 二、洋兌 福州上海間ノ爲替ノ謂ニシテ福州新議秤七百四十一兩六錢ノ棒銀ヲ標準トシ上海規銀爲替ヲ買付クルヲ云フ上海規銀トハ上海通用銀兩ニシテ無形ノ空稱ナリ上海市場商業上ノ取引勘定ハ凡テ此規銀兩ヲ以テ標準トナスト雖モ實際此成形貨幣ハナシ若シ必要上硬貨ヲ以テ授受セムトスルトキハ馬蹄銀ヲ以テシ其算法ハ一種不可思議ナル法ヲ用フルナリ馬蹄銀ノ秤量ニ申水ヲ加ヘタルモノ例セハ馬蹄銀秤量一個五十兩申水二兩四錢合計五十二兩四錢ヲ九八ニテ除シタル高即チ五十三兩四錢六分九釐ハ此馬蹄銀ノ上海通貨換算額ナリ通常是ヲ規銀又ハ上海規銀ト稱ス
- 三、香港退 當地ニ流通スル各洋銀（無刻印ノモノ）ヲ香港ニ現送シテ同港ノ紙幣ヲ買收スルモノニシテ例ヘハ當地洋銀千弗ヲ香港ニ現送シテ香港通用紙幣九百九十四弗ヲ得即チ六弗ノ割引トナル是ヲ香港退又ハ港退ト稱ス
- 四、洋挿 上海ニ於ケル墨銀ニ對スル日歩ヲ稱ス
- 五、銀挿 上海ニ於ケル規銀ニ對スル日歩ヲ稱ス

六、洋釐 上海ニ於テ同港流通洋銀ヲ以テ規銀ヲ買收スルニ際シ其差額ノ名稱ナリ

七、轉口トハ所謂振替決済法ニテ間接爲替ニ裁定爲替ト稱スルモノナリ例セハ上海宛爲替當地ニテ非常ニ下落（受取勘定ノ側ヨリ見テ）スル場合ニハ上海ニ現金ヲ輸送スルカ又ハ福州香港間ノ爲替相場ハ我ニ利ニシテ又香港、上海間ハ香港ニ利ナル場合ハ當地ニテ香港宛爲替ヲ買入レテ是ヲ香港ニ送リテ更ニ上海宛ノ爲替ヲ買入ル、カ又ハ福州香港間爲替我ニ不利ナルトキハ現金ヲ輸送シテ香港ニテ上海宛爲替ヲ買取リ福州上海間爲替ノ振替決済ヲナス是ヲ轉口ト稱ス而シテ其相場ハ單一裁定相場ニシテ重複裁定相場ニハアラス日々相場表ニ轉口トシテ上ルモノハ即チ此單一裁定相場ナリ

●●●●●  
日本宛爲替 當地ト日本トノ直接取引ハ少ナク隨テ爲替ノ賣買モ少シ兩外國銀行ノ日本宛賣爲替相場ハ當地ヨリ香港宛賣爲替打歩ト香港ヨリ日本宛爲替相場打歩トノ合計ヲ以テ標準トス

福州臺灣間貿易ハ目下我カ大阪商船會社汽船ノ毎月三回往復ヲ除ケハ其多クハ「ジャンク」船ニ依リ輸出入セラル而シテ其輸出入商ハ重ニ船主カ自身營業ヲナスモノニシテ當地ニテ木材紙類其他雜貨ヲ搭載シ臺灣ニテ是ヲ販賣シ反リ荷トシテ石炭又ハ雜貨ヲ搭載シ差額ハ正金ヲ以テ現送スルカ故ニ殆ント爲替ノ作用起ルコトナシ

○第二節 度量衡

尺度ノ四種

當地ニ於テ使用スル尺度ニハ四種アリ左ノ如シ

尺度ノ名稱	長	短	使用先
裁	尺	我織尺一尺ニ相當ス 即曲尺一尺二寸五分每尺十寸	重ニ吳服店及仕立屋
京	尺	裁尺ノ九寸、每尺十寸	綢緞店即チ重ニ絹物類販賣店
平	尺	同上ノ八寸、每尺十寸	土布ヲ販賣スル布庄用英尺ト同シ

魯班尺 同上

即チ營造尺ニシテ大工左官及指物屋ニテ使用ス

備考 裁尺京尺等大抵綢緞店及布匹店ニ備付アリテ裁尺ニテ幾何京尺若クハ平尺ニテ何程ト顧客ノ希望ニ應シテ算用スルモノナリ

計量ノ三種 量ニハ三種アリ左ノ如シ

量ノ名稱	容	積	使用地	材質及形狀	摘要
蕪斗	平秤	百四十斤	揚尾 閩江ノ北岸萬壽橋ノ下流	木製 尖方形	十斗即一石秤ノ如キモノ我百〇一斤八二八ニ當ル
平斗	同	十六斤四兩	城内、南台	木製ニシテ一週方形口徑鐵	一斗秤ニシテ我五升七合餘ニ當ル
二平升	同	五十二兩	同上	同上	二升秤ノ如キモノ
一平秤	同	二十六兩	同上	同上	一升秤ノ如キモノ
半平秤	同	十三兩	同上	同上	五合秤ノ如キモノ
府斗	同	十七斤八兩	下渡 閩江ノ南岸ニシテ福州地方ヲ包含ム	同上	一斗秤ノ如キモノ
二府秤	同	五十六兩	同上	同上	二升秤ノ如キモノ
一府秤	同	二十八兩	同上	同上	一升秤ノ如キモノ
半府秤	同	十四兩	同上	同上	五合秤ノ如キモノ

上記ノ外木製ニシテ口徑鐵銅ノ太鼓形一斗秤或ハ竹筒製ノ小秤アレトモ主トシテ田舎地方ニ使用セラル  
 試ニ當地某米商ノ使用スル平秤及府秤ヲ取寄セ此ノ内容ヲ我曲尺ヲ以テ量リタルニ平秤ハ内徑四寸一分深一寸八分五釐、府秤ハ内徑四寸二分深二寸〇五釐、アリタリ大清會典ニハ面方四寸深一寸九分七釐五毛ト定メアリ然レトモ量ハ各自大工ニ命シテ是ヲ製作セシムルノ常ナルヲ以テ各商家ノ使用量器ハ何レモ多少差異アルヲ免レサルモノトス然レトモ其規定ハ自ラ一定シアリト云フ

衡ニハ三種アリ左ノ如シ

衡ノ名稱	輕	重	使用先	摘要
平秤	十六兩ヲ一斤トス	普通賣買取引用	外國磅秤ニ同シ	
紅花秤	此秤ノ一斤ハ平秤一斤六兩ニ當ル	米店魚店雜貨店用	此秤ノ百斤ハ我百斤ニ當ル	
片秤	每斤平秤一斤五兩五分ニ當ル	行棧用	即チ大秤ナリ	

右ノ外錫舖ノ使用スル大公秤、油行ノ使用スル小公秤、錢舖ノ使用スル新議秤等アルモ一般ニ使用スル衡器ニアラサルニヨリ是ヲ略ス  
 度ト衡トハ當地南門外洋頭邊ニテ專門ニ製作シ居ルモ何レモ區々ニ渡リ錯誤アルヲ免レズ抑モ支那人民ハ米魚肉類蔬菜薪炭ニ至ル迄概テ皆衡ニ據ルモノニシテ日用品ノ多クハ皆一斤錢何文ト算ス然ルニ一定不動ノ標準タルヘキ秤ハ政府ノ檢定ヲ經タルモノニアラスシテ一概ニ信憑スルニ足ラサルヲ以テ彼等ハ他人ノ秤ヲ信スルコト甚ク薄ク隨テ魚菜類賣買ノ際ニ於テハ各自ノ利益ヲ主張シ喧々囂々トシテ結局買手ノ秤ヲ以テ是ヲ量ルニアラサレハ其取引ハ成立セサルモノトス去レハ普通ノ人家ニハ大抵一二種ノ衡秤ヲ備付アルヲ例トス

### 第十一章 交通及通信

#### ○第一節 交通

##### ▲第一款 航路

福州府ハ閩江ノ左岸ニ在リ閩江ノ河口通常「シャープ、ビーク」ト稱スル處ヨリ三十四哩ノ上流ニ位ス然レトモ船舶ノ碇泊地ハ府城ヨリ九哩ノ下流馬尾造船所ノ附近ニシテ「バゴダ、アンカレージ」ト稱スル所ニアリ潮水ノ干満ハ江口ニ

福州府ノ位  
 閩江口ニ於  
 ケル潮水ノ  
 干満

於テ十八呎内外アリ故ニ滿潮ヲ利用スレハ六七千噸内外ノ船舶ハ容易ニ「バゴダ」錨地迄入港スルヲ得ルナリ、貨物及旅客トモ皆該地ニテ小蒸汽又ハ「ジャンク」ニ積換ヘ更ニ福州府ニ轉送スルモノトス、「バゴダ」錨地以上ハ吃水六尺以上ノ船ハ潮ノ加減ヲ見サレハ航行困難ヲ感ス

福州港ハ右ノ如ク荷客トモニ積卸ニ大ニ不便ヲ感スルヲ以テ通商上航路集散ノ良港トシテ其資格ヲ缺クト雖トモ然カモ福建省北部唯一ノ交通中心點タルヲ以テ現今ニ於テ左ノ航路ノ連絡アリ

- 一 福州上海線 (四四五哩) 招商局
- 二 福州香港線 (五三三哩) ドーグラス會社
- 三 香港上海線 (九七八哩) 大阪商船會社
- 往復共福州ニ寄港ス
- 四 福州淡水、厦門間三角航路 大阪商船會社

福州 淡水 (一三三哩)  
厦門 淡水 (一九二哩) 此航路ハ夏季ハ右廻ヲナシ冬季ハ左廻ヲナス  
厦門 福州 (二二六哩)

現今ニ於ケル福州ノ外部トノ定期交通ハ以上四線ノ經營ニ係ル此外臨時船ノ出入スルモノ不尠トモコハ多ク茶時ニ限リ平時ニハ少シ、昨明治三十八年中當港出入ノ船舶數左ノ如シ

汽船入港 (出港ハ入港ト同數ニ付略ス)

\*日本船舶ノ少キハ昨年中ハ多ク借船ヲ用ヒシ爲メナリ

國 別	隻 數	噸 數
英 國	一	九、九九九

國 別	隻 數	噸 數
英 國	二〇六	二二三、六一〇
和 國	三	四、四五〇
佛 國	二	二、四九二
獨 逸	九一	一一六、九四八
日 本	一八	三、七七三
諾 威	一八	一五、八三六
清 國	一二八	六八、七七七
計	四六六	四四五、八八五
帆 船 入 港		
英 國	五	三、七六八
日 本	六〇	三、七三二
計	六五	七、五〇〇

▲第二款 鐵 道

鐵道ハ目下管轄内ニ存在セス最モ近時福建紳商ノ運動ニヨリ福建全省鐵路公司ナルモノ創立ノ計畫アリテ當局者ハ今ヤ資金ノ籌辦ニ奔走中ナリ右ノ計畫ニヨレハ福州、厦門間及ヒ福州ヨリ閩江ヲ沿フテ遡リ江西省ニ出ツルモノ、福州ヨリ閩江ニ沿フテ下リ館頭ニ至ルモノ等ノ數線ニテ頗ル大計畫ニ涉リ居レトモ到底實行シ能ハサル企圖ニシテ當局者モ差當リ先ツ福州ト館頭間ノ僅カ三十哩内外ノ線路ト厦門方面ノ短距離線トニ着手スル考ナル由ナルカ之レトモ資金不足ノ爲メ到底近々ニハ起工シ能ハサル可シト云フ、之加當管轄地方内ノ如キハ閩江流域ノ一部ヲ除ケハ東西南北山岳連綿



トシテ發へ居レハ鐵道業ハ獨リ經濟上ノ見地ノミナラス技術上ヨリ見テモ多大ノ困難ヲ感ス可シ故ニ鐵道ハ近キ將來ニ於テモ餘リ之ヲ重要視スル能ハサル可シ

▲第三款 内地ニ於ケル水路ノ交通

鐵道ハ前述セシ如ク現ニ存在セサルノミナラス將來トテモ深ク望マラスルニ足ラサル可シ故ニ福建北部ノ交通ハ專ラ水路ニ依ラサル可ラス此一大通路ハ云フ迄モナク閩江及其支流ナリトス閩江ハ其延長約三百哩アリ殆ント其水源地附近迄交通ニ供ス可ク之ニ加フルニ建寧溪、沙溪、尤溪、烏龍江等數多ノ支流アリテ皆交通ノ用ニ供ス可ク特殊ナル淺吃水ノ「ジャンク」船ニテ深ク内地迄通航スルニ足ル、要スルニ閩江ハ福建北部ノ大動脈ニシテ各支流ト共ニ脈絡相通シテ貨物流通ノ作用ヲナス

▲第四款 陸路ノ交通

福州ヲ中心トシテ南ハ興北地方ニ通スルモノ北ハ寧德、福寧、福安地方ニ通スル陸路アレトモ固ヨリ完全ノ道路ニアラス貨物ノ如キハ大半皆海路ヨリ附近沿海ノ市邑ヲ經テ輸送セラル、カ如シ又々福州ヨリ東西ニ渉ル道路ハ貨客共ニ水路ヲ利用スルヲ以テ陸路ノ利便ニ就テ記スルニ足ルモノナシ

▲第五款 福州府城内外ノ道路

福州府城内外ノ道路ニ就テハ特ニ記スルニ足ルモノナシ城内外トモ一般南方支那都會ノ如ク狹隘ナル道路ニシテ最モ廣キ道路ニシテ僅ニ轎子ノ行キ交フニ足ル位ノ有様ナレハ到底近世の交通機關ノ輸入ヲ爲ス能ハス且ツ又市中所々ニ石段等アレハ孤輪車モ全ク其使用ヲ見ス人ノ交通ハ轎、貨物ノ運搬ハ人肩ニ由ルノ外途ナシ、江ノ南岸ニアル雜居地區域ハ外人ノ共同經營ニ係ル「ロード、トラスト」ニテ修繕維持スルヲ以テ稍々見ル可キモノアレトモ概シテ狹隘ニシテ且ツ其區域ハ小丘陵ノ上ニアレハ馬車ハ勿論人力車モ使用ニ便ナラス現ニ未タ全ク其使用ヲ見ス、福州市街南北ノ連絡ニハ無數ノ通ヒ舟ノ外江ノ中央ニアル中洲ヲ連絡スル有名ナル萬壽橋アリ南北ノ兩橋ヲ通シテ長サ約百四十丈ノ石橋ナリ元

ノ時代ニ創架シ爾後、明、清時代ニ度々修繕ヲ加ヘ今日ニ至レリ要スルニ福州府城内外ノ道路ハ他ノ清國ノ市街ノ如ク大改築ヲ爲サ、レハ到底近世の交通機關ヲ輸入スル能ハサレトモ如斯改革ハ近キ將來ニハ期待スル能ハサル可シ

○第二節 通信

▲第一款 郵便

大清郵便局ノ福建總局ノ存在スル外日本郵便局ハ明治三十四年四月一日ヨリ開局シ其他英、佛、獨ノ郵便局アリ此等ノ外國郵便局ハ僅ニ郵便事務ノ一部ノミ扱ヘリ我郵便局ハ爲替、貯金、小包郵便ヲ包有スル一般郵便事務ニ從事ス

▲第二款 電信

中國電報局カ清國一般ノ電線脈絡ニ接屬スル外大東電信會社 (The Eastern Extension Australasia & China Telegraph Co.) ノ支局アリテ世界ノ各地ヘ連絡セリ

▲第三款 爲替

我臺灣銀行出張所、香上銀行、「チャータード、バンク」等ノ代理店アリテ一般銀行業ノ外世界ノ要地ニ向フ爲替取組ノ便アリ就中臺灣銀行ハ臺灣ハ勿論厦門、汕頭、香港及日本各要地ニ爲替取組ヲナス、郵便爲替ノ便ハ前ニ述ヘタル如シ

●第十二章 居留地

○第一節 外國人雜居地

福州ニハ我專管居留地ノ外別ニ居留地ノ特設ナシ條約上ハ福州城内外何處ニテモ自由ニ雜居シ得ルナレトモ事實上ハ自ラ一區域ヲ爲シ閩口ノ右岸蒼前山、泛船浦一帶ノ地ヲ以テ外國人雜居地トナス通稱南臺居留地ト稱ス各國ノ商棧、銀行、

領事館等皆此區域内ニ在リ其面積詳ナラスト雖トモ江ヲ沿フテ東西約二十丁南北ハ一二丁ヨリ四五丁ノ巾アリ蒼前山一帯ノ地ハ小丘陵ナルハ重ニ住居地ニシテ家屋モ樹木墳墓ノ間ニ散在スルニ過キス商棧ハ専ラ泛船浦ノ平地ニアリテ税關碼頭ノ附近最モ繁盛セリ

○第二節 雜居地内住民ノ大要

昨明治三十八年末ニ於ケル各國外國人ノ數ハ左ノ如シ(但シ本邦人ノ數ハ本年六月末現在)

日本	人	一三四	内地人ノ部
臺灣	人	一三四	
英國	人	一九四	
米國	人	一六三	
獨逸	人	二〇	
佛國	人	四五	
丁抹	人	五	
西班牙	人	四三	
瑞典	人	四	
露國	人	一〇	
葡萄牙	人	八	

右ノ内本邦人ノ職業別ハ左ノ如シ

職業別	内地人ノ部	戶數	男	女	計
新開業		—	—	—	—
寫真業		—	—	—	—
宿屋兼雜貨商		—	六	二	八
硝子製造業		—	三	二	五
材木商		—	—	—	—
大阪商船會社出張所		—	三	〇	三
臺灣銀行出張所		—	四	〇	四
三五公司支店(樟腦製造業)		—	—	—	—
長崎益記貿易會社支店		—	九	二	一一
官吏		三	一八	九	二七
教員		三	—	—	三
醫師		〇	—	—	〇
學生		〇	—	—	〇
被雇人		〇	—	—	〇
染物業		—	—	—	—
賣藥業		二	二	一	三
理髮業		—	—	—	—
訴訟代理人		—	—	—	—
僧侶		—	三	〇	三

船員  
無職業

計

臺灣人ノ部

雜貨商	八八	九四	五	九九
紙商	二	二	〇	二
材木商	八	八	〇	八
魚類商	二	二	〇	二
雜穀商	一	一	〇	一
茶館	一	一	〇	一
無職業	一	一	〇	一
計	一〇四	一二六	八	一三四

外ニ一時滞在者一七八名 内 男 一六六名 女 一二名

外國人ノ數ト職業

各外國人ノ職業別ハ其詳細ヲ知ルニ由ナシト雖トモ英國人ヲ除クトキハ他ノ外國人ノ大多數ハ清國政府又ハ他ノ雇人ノ外ハ悉ク宣教師ナリ當地ニ在ル英國ノ商社ハ約二十戸アリ即在福州歐米貿易商ノ殆ント全部ヲ占ム彼等ハ重ニ茶ノ輸出及一般ノ貿易銀行業等ニ從事セリ此外稅關員領事館員等ヲ除外セシモノハ皆宣教師ナリ獨逸人ハ商店一戸ノ外重ニ被雇人ナリ佛人ハ馬尾造船所二十一人ト商店一戸及領事館員ノ外ハ宣教師ナリ丁抹、西班牙、瑞典、葡萄牙人等ハ被雇人ニアラサレハ宣教師ナリ露國人ハ茶商二戸アリ尙當地ニアル各國領事館ハ左ノ如シ

日本	英國	佛國	米國	露國
獨逸	埃匈國	白耳義	伊太利	和蘭
墨希古	西班牙	葡萄牙		瑞典諾威

○第三節 雜居地經營維持ノ方法

前述セシ通り當地ニハ各國ノ居留地ナケレトモ外國人居住區域トシテ自ラ一定ノ區畫アルヲ以テ特ニ道路ノ維持ニ關シテハ「ロード、トラスト」ヲ組織シ各外國人一ケ年五弗ノ維持費ヲ釐出し其修繕及掃除等ヲナセリ清國官憲モ特ニ洋務分局ヲ此區域内ニ設ケ置キ日常ノ小事故ヲ處理シ又洋務分局ノ巡捕アリテ取締ヲナセトモ之レハ殆ント有名無實ノ姿ナリ

我專管居留地

我專管居留地ハ去ル明治三十二年四月中取極書ノ調印ヲナシタレトモ爾來未タ經營ヲ爲スノ氣運ニ至ラス依然トシテ舊態ヲ存シ居レリ現今ノ各國人雜居地ノ東端ニシテ閩江ニ沿ヘル一帶ノ地ナリ現今ハ其一部分内ニ清人ノ住居スル外水田、沙洲等ナリ又我硝子製造者一戸モ此區域内ニ住居セリ

●第十三章 公私上ノ施設

○第一節 稅關

福州ハ一八四二年英清間南京條約ニテ開放セシ五港ノ一ニシテ清國各港中最モ古キモノ、一ナレハ稅關モ開關以來長キ  
第十卷 第十三章 公私上ノ施設  
五一五

歴史ヲ有セリ現今ノ海關ノ位置ハ各國人雜居地ノ東端閩江ニ臨ム所ニアリ商業區域中最良ノ場所ヲ占ム海關ニ附屬シ福建郵政總局アリ又福州中洲ニアル常關<sup>チヤナフカスト</sup>モ去ル三十四年中拳匪事件最終議定書ノ條項ニ遵ヒ兩三年前ヨリ海關ノ直轄ニ歸ス釐金局モ中洲ニ其總局アリテ百貨ノ抽釐ヲナス

○第二節 商業會議所

清國側ニハ福州商務總會アリ昨年中ノ設立ニテ現今ノ總理ハ張贊廷氏ナリ又外國人側ニハ福州商業會議所アリ重ニ英商ノ團體ナリ目下又在當地ノ本邦商人モ福州實業團ナル團體ヲ組織セントテ計畫中ナリ又在當地ノ臺灣人ハ東瀛會館ノ組織アリ臺灣人取締ノ外商務ノ辦理ヲモ兼ヌ  
此他清人側ニハ外省客商ノ會館アリ其著名ナルモノ廣東、江西、湖南、兩廣、全浙、安徽、湖北等トナス本省客商ノ會館ニハ延平、建寧、泰寧、邵武、寧德、汀州等此外尙數多アリ

○第二節 學校

兩三年以來新學勃興ノ爲メ學事界ノ事業大ニ見ルニ足ルモノアリ近年創立ニ係ル學校左ノ如シ

種別	校數	學生數
縣立	二	一八〇
府立	四	二七〇
半官立	一〇	六二〇
公立	三八	一、五〇〇
私立	四	二七〇

種別	校數	學生數
計	五八	二、八四〇
高等學堂	一	三五〇
師範學堂	一	四〇〇
師範傳習所	二	二二〇
武備學堂	一	八〇
警察學堂	一	一〇〇
船政學堂	一	一〇〇
計	七	一、二五〇
實業學堂	二	一〇〇
半日學堂	一	四〇
半夜學堂	一	八〇
醫學堂	一	二〇
計	五	二四〇
中西女學堂	一	三〇
女子教育女教員養成所	一	未詳
計	二	三〇
鶴齡英華書院	一	四〇〇
格致書院	一	三〇〇
外國人經營即教會立華英女學堂	一	六〇
計	一	六〇

計 美 部 女 塾

五 二

五二八

未詳

七六〇

右ノ内中等教育學堂タル高等學堂以下五校ハ船政學堂ヲ除ク外ハ其重ナル教習ハ本邦人ノ擔任ニ係ル

### ○第四節 病院

重ニ英米人ノ經營ニ係ル福州「チーチー」プ、ホスピタルト稱スルモノ一個アリ各外國人清國人等ノ寄附金ニ依リ維持シ其管理ハ英米人ヨリ成ル委員會ニテ管理ス醫務ハ一人ノ英國醫師其主任タリ此外教會附屬ノ施療院ノ如キモノアレトモ記スルニ足ラス

### ○第五節 教會及寺院

基督教々堂ハ新教及舊教共ニ數多ノ會堂アリ外國人雜居地及福州城内外ニ散在シ其ノ數詳カナラス布教ノ附帶事業トシテ教育及施療等ヲナスモノ少カラヌ英國派ノ新教ニハ福建「ビシヨツ」當地ヘ住居セリ我西本願寺モ亦近來布教使ヲ派シ近々其ノ布教開始ノ計畫中ナリ

### ○第六節 新聞事業

西洋人側ニハ福州「デーリー」エコー」ト稱スル小新聞一アリ平日ハ廣告ノミ印刷シ土曜日一回記事ヲ掲ク清國人側ニハ福建七日報ト稱スル小新聞アリ一週一回發刊ス本邦人ノ事業トシテハ閩報アリ一週三刊ニテ各新聞中最モ勢力アリ

### ○第七節 社交團體

各外國人間ニハ福州俱樂部アリ創立舊クシテ基礎固ク有數ノ良俱樂部ナリ各國人共會員タルコトヲ得本邦人ヘ別ニ日本人會ノ組織アリ又別ニ在留本邦人全體ヲ網羅シテ組織セシ衛生會アリ會費ヲ以テ本邦醫師一名ヲ招聘シ居留民ノ衛生ヲ司ル

## ●第十四章 土地家屋ノ賣買並ニ賃貸借價格

本港ノ我居留地ハ未タ經營ニ着手セス諸外國ハ專管居留地ナシ爲ニ百三十名許ノ日本人及百四五十名ノ臺灣人トハ盡ク諸外人ト共ニ南臺一帶ニ雜居シ居ルヲ以テ次ニ列記スル價格ハ皆雜居地ノ狀況ナル事忘ルヘカラス南臺ノ外國人雜居地ハ主トシテ小丘ノ上下ニ在リ元來此ノ地ハ福州人ノ墳墓ナルヲ外國人カ地主ト協議ノ上買占メタルモノニテ現今ハ七割方洋館建設セラレ殘ルハ約三割ニシテ凡テ墳墓地若シクハ風水ニ當ルノ土地即チ曰ク付ノ地ニシテ外人カ廢地主ト賣買ノ交渉ヲナシタルモ協議シ得難キ地ナレハ此ニ坪何如ト云フ評價ハ至難ナルモ目下買占メタル土地ノ價格ヲ聞クニ丘上眺望多キ地ハ望ミ手多キ丈ケニ稍高ク一坪四五元位ナルカ丘腹及丘下ノ地位稍劣ル地ハ凡レモ二元三元ノ處普通ナルカ如シ而シテ丘下トテ支那市街ノ部ニテ商賈輻輳セル所ハ七八元モスルト云フ家屋ノ賣買價格ハ家屋ノ構造如何ニ依リ差異アリ山ノ手地位佳良ナル所ハ五十坪ノ二階建ノ洋館ニテ約百坪ノ庭園付二千五百元乃至三千元地形ノ稍不良ナル所ハ前ト同資格ノ洋館ニテ二千元ヨリ二千五百元位ノ處ト見テ大差ナカルヘシ最モ近來本邦人ノ來福居住スルモノ急ニ増加シタルハ家屋ノ價格モ増加ノ傾向アリ又以上ノ建物ニシテ租借スル場合ハ山ノ手ノ部ハ五十元下町ハ四十元内外ナリ

南臺ニ於ケル支那家屋ノ賣買價格ハ三十坪位ノ二階立ニテ四五百元カ通常ノ相場ナルモ場所ニ依リテハ千元ヨリ千五百元迄モスル處アリト云フ家賃ハ三十坪位ノ二階建テ建物ニテ商賈用ニ供スルモノ一ヶ月十五元ヨリ十七八元ノ所ナリ

●第十五章 普通労働者並ニ僕婢ノ賃金

各種労働者ノ賃銀ハ季節ノ繁閑米價ノ高低等ニ從ヒ高低常ナラスト雖モ左ニ記スル相場ハ當地方工銀ノ大勢ヲ窺フニ足ル可シ

石工	一日	四百八十文	(火食自備)
大工	一日	四百文	(火食自備)
左官	一日	三百二十文	(火食自備)
瓦師	一日	三百六十文	(火食自備)
漆屋職人	一ヶ月	五元ヨリ十元	(火食主人持)
造紙職人	同	四、五元ヨリ三十元位ノ間	(火食自備)
筆屋職人	同	四、五元	(火食主人持)
木梳屋職人	同	四元内外	(火食主人持)
染物屋職人	同	五元ヨリ六元	(火食主人持)
鍛冶屋職人	同	三元ヨリ五元	(火食主人持)
造花職人	同	五、六元ヨリ十二、三元	(火食主人持)
造靴職人	同	十四仙位	(火食主人持)
竹細工職人	同	三元ヨリ八元	(火食主人持)
彫刻師	同	六元ヨリ十元	(火食主人持)
織布職人	同	四元ヨリ六元位	(火食主人持)
丁稚ノ時ハ無給	同		
月極メニ非ス職人ノ技能ニ因リ差アリ			

傘屋職人	一ヶ月	三元ヨリ五元	(火食自備)
菓子屋職人	一ヶ月	三元ヨリ六元	(火食主人持)
苦力	日給	二十仙	(火食自備)
農夫	日給	十五仙	(火食主人持)
橋夫	日給	五十仙	
馬丁	一ヶ月	五六元	(賄ナシ)
理髮師	一回	四十仙	
小使並ニボーイ	一ヶ月	六元ヨリ八元	(火食主人持 支那人ニ雇ハル、モノノ賄付三元)
外國商店ノ雇支那人	一ヶ月	八元ヨリ十元	(火食自備)
下婢	一ヶ月	五元ヨリ六元	(火食自備 支那人ニ雇ハル、モノノ賄付一元)
洗濯女	一ヶ月	一元	日通ニテ
整髮師	一時間	二十五仙	
整髮師	一ヶ月ギメ	隔日梳髮刮鬚三十仙	

●第十六章 物價表

食料品、材木並ニ日用諸雜貨相場

次ニ揚クルモノハ當地有數ナル食料問屋ニテ調査シタルモノナルカ勿論時々相場ノ變動多キモノナレハ只現下ノ市價ヲ略記セシノミ

食料品

第十卷 第十六章 物價表

米	大	小	白	粟	麵	絲	牛	羊	猪	雞	鴨	海	池	味	雞	牛	醬	食
袋	麥	麥	豆	粉	粉	麵	肉	肉	肉	肉	肉	魚	魚	魚	肉	乳	油	鹽
百四十斤入	百斤	百斤	百斤	百斤	百斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤

五三二  
 五元二十仙内外  
 四元七十仙内外  
 二元  
 一元八十仙  
 三元七十仙  
 二元五十仙  
 五元七十仙  
 五元十仙  
 二元四十仙  
 二元十仙  
 十二仙  
 六仙  
 百五十六文  
 百六十六文  
 百六十六文  
 百四十四文  
 百九十二文  
 百六十六文  
 七十七文  
 二十文  
 八十文  
 三十文  
 支那品 八仙  
 日本品 四仙  
 支那品 一斤 十仙  
 日本品 四合 二十仙  
 支那品 一斤 二十文  
 日本品 四合 二十文

白	氷	日	支	支	薯	葱	白	茄	西	南	枇	荔	龍	蜜	生	茶
糖	酒	酒	酒	酒	酒	菜	菜	子	瓜	瓜	杷	枝	眼	ツ	ナ	茶
斤	斤	打	合	合	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤

十二仙  
 六仙  
 三元五十仙  
 四十仙  
 一元二三十仙  
 五仙ヨリ三仙位  
 二仙  
 三仙  
 二仙  
 七仙  
 二十仙内外  
 十四五仙  
 七仙  
 七仙  
 五仙  
 四仙  
 八仙  
 三兩ヨリ百六十四兩  
 八十兩ヨリ五十兩  
 四十兩内外  
 十兩内外  
 五三三

第十卷 第十六章 物價表

五二四

青 茶  
烏 龍 茶

下上 五十兩内外  
二十兩内外  
下上 三十兩  
十兩

一、材 木

福建内地ヨリ運出シ來ル主要材木ハ杉木ニシテ他ハ殆ト論スルニ足ラス依リテ次ニ當地臺灣材木商福山公司ノ杉輪  
出相場ノ表ヲ示サン

連 段 (材木ノ名稱)

九底 (九本ヲ一束ト爲シタルモノ)	長サ一丈六尺 (魯班尺)	六兩	下等 徑七寸五分	五兩八錢
上等 徑八寸五分	中等 徑八寸	六兩	下等 徑七寸五分	五兩八錢
十一底 (十一本ヲ一束ト爲シタルモノ)	長サ一丈六尺 (魯班尺)	三兩五錢	下等 徑六寸	二兩五錢
上等 徑六寸五分	中等 徑六寸三分	三兩	下等 徑六寸	二兩五錢
十三底 (十三本ヲ一束トシタルモノ)	長サ一丈六尺 (魯班尺)	一兩六錢	下等 徑五寸	一兩三錢
上等 徑五寸三分	中等 徑五寸二分	一兩四銀	下等 徑五寸	一兩三錢
十五底 (十五本ヲ一束トシタルモノ)	長サ一丈六尺 (魯班尺)	一兩二錢	下等 徑四寸二分	九錢
上等 徑四寸五分	中等 徑四寸四分	一兩	下等 徑四寸二分	九錢
丈 四 (材木ノ名稱)				
十一底 (十一本ヲ一束トシタルモノ)	此種ノ材木ハ近來市場ニ無シ			
十三底 (十三本ヲ一束トシタルモノ)	長サ一丈四尺 (魯班尺)	一兩三錢	下等 徑五寸	一兩二錢
上等 徑五寸三分	中等 徑五寸一分	一兩三錢	下等 徑五寸	一兩二錢
十五底 (十五本ヲ一束トシタルモノ)	長サ一丈四尺 (魯班尺)	七錢	下等 徑四寸	六錢五分
上等 徑四寸五分	中等 徑四寸三分	七錢	下等 徑四寸	六錢五分

桶 木 (材木ノ名稱)

上等 一本 一丈二尺徑五寸	一元	中等 徑四寸四分	八十仙	下等 四寸一分	六錢五分
---------------	----	----------	-----	---------	------

一、日用雜貨

次ニ掲クル雜貨ハ當地日本商店ノ小賣相場ヲ根據トシテ支那店舖ノ普通相場ヲモ參酌シタルモノナリ

洋 傘	(木柄パテン毛織子張八本骨)	上 一元四角 下 一元二角
雨 傘	一 本	三十仙ヨリ二十五仙
冬 帽	子	四元ヨリ七元位
ムキハラ夏帽子	外人向 支那人向	一元五十仙ヨリ三元五十仙 五六十仙
小供用夏帽子		二十五仙ヨリ十二三仙
柱掛一週間巻キ時計		四元五十仙ヨリ六元迄
旅行用革包	(ズック製)	六元内外
銀ブチ眼鏡		四元内外
絹張團扇		二十仙位
タヲル	(長サ一尺位)	十二仙
靴 下	(木綿糸)	十仙ヨリ二十仙迄
鳩印硝子器入齒磨粉		八仙
化製石鹼		四、五十仙
靴	(普通ノ日本製)	七元内外

第十卷 第十六章 物價表

五二五



第十卷 第十七章 本邦人ノ着眼スヘキ事業

ス	テ	ツ	キ	櫻木	八十仙
ス	リ	ツ	バ	葡萄	一元五十仙
ス	リ	ツ	バ	(ブツク製)	五十仙
埃	及	煙	草	百本入一箱	一元七八十錢
ハ	ン	ケ	チ	箱織一打	四元五十仙
鱈	口			(色革製)	七元内外
浴	形	地			二十五仙
絹	入	織	綿	入	二元五十仙
石				段	五元内外
石				炭	十二元ヨリ十四元位
磷				油	十八仙
日				寸	四十五仙
木				燭	九十仙
薪				炭	四十仙
					一俵(五十斤入)
					一束(日本ノ普通ノ大サナリ)
					八仙

五二六

第十七章 本邦人ノ着眼スヘキ事業

○第一節 商業

別項ニモ記述セシカ如ク當港ノ輸出ハ茶ヲ其大宗トシ木材、竹紙等之ニ次キ其他ハ零碎ノ雜貨ニシテ今日ノ現情臺灣關係ヲ除キテハ我國ニ對シ直接輸出ノ貨物ヲ缺クハ當業者ノ頗ル不便トスル處ニシテ輸出ノ方面ヨリ見テハ差當り臺灣ト

ノ關係ヲ今一層緊切ナラシメテ從來當地ヨリ供給セシ木材、茶箱、竹紙等ノ輸出ヲ一層研究スルノ外臺灣土人ト當福建土人トハ日常需用ノ雜貨類ノ如キモ大概其嗜好ヲ一ニスレハ此等ノ關係ヲ十分研究シテ將來ノ發展ヲ計ルノ外良途アラサル可キカ最モ日本内地向ノモノモ未タ研究ノ足ラサル點モアレトモ今日當業者ノ憂フル處ハ運送連絡ノ不十分ナルカ爲メニ計算ノ引合ハスシテ見合セ居ルモノモアリト云ヘリ蓋シ内地トノ連絡ニハ一見臺灣回リヲ可トスルカ如クナレトモ今日福州ト臺灣トノ連絡點ハ淡水港ナルヲ以テ内地ト臺灣トノ連絡港タル基隆ト接続スル上ニ於テ非常ノ不便アリ現ニ當地ヨリ琉球へ輸出スル茶ノ如キモ此淡水、基隆兩港間ノ接続ノ不便且ツ高價ナルヲ以テ(鐵道接続ナルカ爲メ)態々上海經由神戸迄積ミ送り更ニ琉球ニ積ミ戻シスルヲ以テ反テ迅速且ツ廉價ナリト聞ケリ然ルニ當地ヨリ上海經由又ハ香港經由ノ運賃ハ比較的廉ノ航路ナレハ今日ノ處差當り適當ナル輸出品ヲ見出スニ困難ナルハ蓋シ此等ニ歸由スルカ如シ

茶ハ當地歐米商人ニ對シテ最モ重要ナル商品ニシテ彼等ノ立脚地ハ殆ント本品ノ上ニ存スト云フモ不可ナシ然ルニ茶ノ輸出ハ薄資ナル本邦商人ニハ容易ニ其手ニ合ハス現ニ三井ノ如キスラ先方市場ノ連絡ニ困難ナリト未タ着手シ居ラサルノ有様ナリ故ニ輸出ノ方面ニテハ内地トノ關係ハ當分見込薄トシテ若シ本邦人ニシテ新ニ着手スヘシトセハ清國ノ他港又ハ香港或ハ南洋方面ヘノ輸出ヲ計レハ或ハ大ニ發展ノ餘地アル可キカ蓋シマニラ、新加坡、暹羅、ジャバ方面ニ移住シ居ル約四百萬人ノ清國人中其大部分ハ福建人ナレハ彼等日常ノ需用品ハ本國ヨリ輸入シ居ルモノナレハ此ニ供給スルヲ得ル等ナレトモ之レハ小規模ニテハ彼等トノ競争困難ナル可シ唯タ我ハ航路上ノ便宜、輸出ニ際シ條約上多少ノ便宜ヲ利用スルニ止マル位ナレハ結局大規模ニ競争スルノ外途アラサル可キカ清國他港トノ取引ニ就テハ三井ノ如キモ弗々開始シタリ

輸出ハ右ノ如キ情況ナルカ輸入ニ至テハ尙ホ之ヨリモ有望ナル可シ現ニ當港ニテ從業スル數名ノ本邦商ハ輸入専門ナリ當港ニ輸入スル日本貨ハ綿糸、綿織物等ヲ除クノ外重ニ零碎ノ雜貨ナリ此等ノ諸品ハ前途大ニ發展ノ餘地ヲ存スト雖ト

第十卷 第十七章 本邦人ノ着眼スヘキ事業

五二七

モ前ニモ述ヘシ如ク運賃ノ關係及ヒ清商ノ劇烈ナル競争アルヲ以テ邦人ノ十分手ヲ擴張スルハ容易ノ業ニ非スト雖トモ一般外國人ハ清商ニ比シ條約上種々ノ便宜ヲ有スレハ方法ノ如何ニヨリテハ尙ホ一層發展ノ餘地ナキニ非ス蓋シ本邦商一般ノ通弊ハ薄資ナルニ拘ラス各自分立シテ同志中ノ競争ニ疲レ又ハ商人其人ニシテ十分地方的智識ニ乏シキカ如キハ各港ヲ見渡シテ十中其半ニ居ルカ如シ此後者ノ資格ハ年所ヲ經ルニ非サレハ得テ望ム可ラサルニ似タレトモ分立競争ノ弊ニ至テハ各自ノ心懸ニヨリテ之ヲ矯正スルニ難カラサル可シ要スルニ清國人トノ競争ハ節約一方ノミニテハ容易ニ彼等ニ對抗スルニ難シ合資合志ノ方法ニヨリ組織的競争ヲ爲スヲ可トスヘシ發フル處ハ扱フヘキ商品ノナキニ非スシテ其扱ヒ方ノ適當ナラサルニ歸スルカ如シ

### ○第二節 航路

第十一項内ニ述ヘタル如ク本邦船及ヒ外國船トモ今日相應ノ點迄其航路ヲ擴張シ居リ此以上新航路擴張ノ餘地ナキニ似タリ只内地河海ノ航路ハ昨年迄興化及ヒ三都澳(三都ハ開港場ナリ)商船會社カ試ミ居リシカ今ハ中廢セリ此内地航路ハ方法宜シキヲ得ハ望ミナキニアラサル可シ現ニ商船會社ノ中廢セシモ他ノ都合ノ爲メニテ、引合ハサルカ爲ニハ非サリシカ如シ閩江ノ河川航業ハ目下清國人ノ一會社ト名義丈ケ英商ノ一會社トノ二小會社ニテ從業シ居レト甚タシキ「ボロ」船ヲ使用シ驚ク可キ低運賃ニテ從事シ居レハ此内ニ入りテ競争スルハ多少困難ナルヘキカ唯若シ有力ナル邦人手ニテ此等ノ船ヲ買収シ新組織ノ下ニ計畫セハ確ニ一事業ナルヘシ

右ノ如ク新計畫ノ航路ハ先ツ見當ラスト雖モ目下現ニ人ノ望ミ居ル處ハ臺灣航路ノ内地トノ接続ニ就キ一層ノ改良アラシトナリ之ハ商船會社モ利害ノ關係アルヲ以テ、希望ヲ以テ其利害ト一致スル能ハサル點モアレハ今具體的立案ヲ爲スニ難シ

### ○第二節 農産物等ニ關スル事項

當館管内ハ耕地少ク農業ハ既ニ其耕耘方法ノ上ヨリ殆ント其極點ニ達シ居ルト云フテ大差ナカル可ク一般農業ニ就テハ殆ント着目スルノ餘地ナキカ如シ唯製茶業ハ唯一ノ大産業ナレトモ内地生産者カ世界嗜好ノ大勢ニ暗ク何等ノ改良進歩ヲ爲サス一方ニハ錫倫、印度、臺灣茶等ノ競争ノ爲メ年々衰退シ行ク現情ニテ外國人中ニハ福建産茶ノ將來ハ一ニ日本人ノ教導改良ニ埃タサルヲ得スト唱フルモノアレトモ當局者ノ如キハ善惡更ニ關セサルモノ、如ク加之我臺灣茶立脚ノ見地等ヨリ打算シテモ福建茶業ノ將來ハ其天然ニ委棄スルノ外途アラサル可シ米其他穀類ノ如キハ年々他地方ヨリ供給ヲ仰ク有様ナレハ到底此上ノ增收ヲ見ルニ困難ナル可ク反テ臺灣米ノ如キハ將來ハ福建地方ニ販路ヲ有スルニ至ル可キカ牧畜モ大規模ノモノナシト雖モ水牛及黃牛ノ各戸飼養ハ盛ナレハ牛皮ノ輸出ノ如キハ注意ヲ値スヘシ

### ○第四節 工業

今日ノ現情ハ各戸工業ノ外殆ント萎靡見ルニ足ルモノナシト雖モ之ヲ農業ニ比セハ尙發展ノ餘地アルヘシ即材木ニ關スル工業例ヘハ板材ノ製造木箱ノ製造ノ如キハ目下英商及獨商ノ經營スルニ工場アリテ之ニ從業シ居レトモ構寸製造ノ如キハ先年英商ノ事業倒敗シテ以來之ヲ再興スルモノナケレトモ之ヲ邦人ノ手ニ委セハ相應ノ利益アルヤ疑ナシ又竹紙ノ製造ハ先年臺灣ヨリ専門家ノ調査ニ來リタルコトアリシカ未タ實行ノ運ニ至ラス此業ハ尙一層ノ調査ヲ要ス可ケレトモ研究ノ上ハ紙ノ製造ノミナラス「バルブ」トシテ之ヲ輸出シ本邦ニテ精良ナル紙ノ原料トナスコトモ當業者ノ一考ヲ値スヘシ

樟腦ノ製造、再製造業ハ目下我三五公司ノ從事スル所ナレトモ官腦局ノ設立其他種々ナル原因ノ爲ニ其産額等ニモ動搖アリテ當業者ノ苦心スル所ナルカ福建樟腦ノ資源ハ尙數年ヲ維持ス可ケレハ本業ハ今後モ尙當地重要ナル産業ノ一タ

ル可シ、硝子製造、石鹼製造ノ如キハ目下何レモ小規模ノ工場アリテ相應ノ事業ヲナセリ要スルニ當地方ハ材料ノ缺乏及石炭ノ不廉等ノ原因ハ到底近世の大工業ノ場所トシテ適地ニアラス專ラ手工的各戸工業ニヨルノ外良途アラサル可シ若シ本邦ノ工人ニシテ專ラ此方面ニ向フ時ハ清國人ト競争ノ餘地アル可ク就中家具製造、染物業、其他各種ノ化學的小工業ノ如キハ注意スヘキ方面ナル可シ

### ○第五節 採 鑛

閩江ノ上流建寧、邵武、汀州地方一帶ノ採鑛權ハ數年前ヨリ佛人ノ掌中ニ歸シ居リ昨年九月中ニ期限満了セシモ更ニ二十ヶ月其延期ヲナシ今ヤ殘ス所少許トナリタレトモ今日迄未タ更ニ採鑛開始ニ着手セス其目的トスル鑛産ハ重ニ石炭ナルカ今日迄在昔トシテ彼等ノ事業ニ着手スル能ハサルハ一ハ資本ナキ爲ナリトノコトナルカ他ノ原因ハ調査十分ニ精確ナラスシテ確固タル見込ノ立タサルト交通不便ノ爲愈々着手スルトシテモ其設備ニ莫大ナル資本ヲ要スル等カ其原因ナルカ如シ由來福建北部ノ鑛産ハ未タ十分ノ調査ヲ經ス佛國ノ權利ノ如キモ確的タル見込ヲ立タタルモノニ非スシテ兎モ角モ權利丈ケ取得シタルカ如キ形ナレハ責任ヲ以テ着手スルニハ尙一層ノ調査ヲ要ス可シ  
古田縣附近ニ於ケル鐵鑛ノ如キ目下土人カ舊式法ニテ採鑛シ居レトモ是等ハ調査ヲ值ス可ク又タ銀鑛モ上流地方ニ存在スト聞ケト目下採鑛中ノモノナク何レモ皆將來ノ研究ヲ要ス可シ

### ○第六節 學校病院及布教

學校事業トシテハ今日ノ處ニテハ清國官私ノ學校ニ對シテ我教習ヲ益々雇傭セシムルノ途ヲ計ルヲ差當リ唯一ノ良策トスルノミ又タ醫術ノ普及ニ就テハ苦心スルモノモ不尠ナレトモ當地方ノ如キハ未タ泰西醫法ニ就テ十分ノ信用ヲ置カス加之民度低クシテ多分ノ診察料ヲ拂フ如キハ今日ノ處之ヲ望ムコト難シ反之シテ本邦ノ賣藥ハ盛ニ賣行キ特ニ本年ノ如キハ甚タ好況ヲ呈セリ種々ノ事情ヨリ推考スルモ清國人今日ノ程度ハ賣藥時代ナレハ醫師ノ如キモ賣藥兼業ノ覺悟アラサレハ成效シ難カル可シ此情況ハ恐ラクハ清國全部ヲ通シテ然ルナル可シ、布教ハ近時西本願寺カ着手シ始メタリ唯内地布教ニ就テハ教權問題ノ未定ナルカ爲メ發展ノ餘地ヲ局限セラル、ニ似タリ

清國事情第十卷終

第十一卷 在厦門帝國領事館管轄區域內事情

(明治三十九年八月十一日附 在厦門帝國領事館上野專一報告)

第一章 地勢、面積、人口及職業

福建省ノ地勢ヲ概言スレハ東京灣ヨリ起リテ南清地體ノ骨格ヲ形成スル所謂支那山系ノ殘片カ福建山脈即チ武夷山脈トナリテ西北ヨリ東北ニ貫通スルヲ以テ其一帶ハ高ク東南ニ低下スルヲ見ル從テ河流ノ如キモ概シテ東及南ニ向ツテ流ル只小河ノ如キハ他ノ方向ニ流ル、モノナキニアラスト雖モ本省ニ關係アル三大流ハ悉ク西北或ハ東北ノ山脈中ニ源ヲ發シテ東、南ニ其河口ヲ覓メントシテ蜿蜒セルヲ見ルナリ

前述ノ如ク支那山系ノ殘片貫通シ其間支脈ヲ派シ三平野ヲ劃出ス一ヲ福州平野トシニヲ泉州平野トシ三ヲ漳州平野トナス而シテ此等ノ平野ヲ形成セルモノハ閩江、晉江、龍溪トナス三河流ノ中間江ハ當館管内ニアラサルヲ以テ今二流ニ付テ記スレハ晉江ハ永春地方ヨリ發シテ東南ニ流レ泉州府ノ前面ヲ過キテ遂ニ海ニ入ル府ノ西南北ノ三面ハ田野ニ連レル垣々タル平地ヲ有ス而シテ龍溪トハ西洋人ノ稱スル總稱ニシテ北溪河ハ源ヲ龍岩州ニ發シ漳州府ノ北ヲ流レ西溪河モ源ヲ龍岩州ニ發シ府ノ南ヲ流レ此二水相合シテ所謂龍溪トナリ石碼ヲ過キテ遂ニ厦門内灣ニ注入ス

全省ノ行政區劃ハ九府二州トス更ニ別テ五十八縣及四廳トス而シテ當館内ニ屬スルモノハ四府二州ト江西省中ノ三府一州トス今其名稱ヲ舉クレハ左ノ如シ

- |     |     |     |
|-----|-----|-----|
| 興化府 | 莆田縣 | 仙遊縣 |
| 泉州府 | 晉江縣 | 南安縣 |
| 漳州府 | 龍溪縣 | 漳浦縣 |
|     |     | 海澄縣 |
|     |     | 南靖縣 |
|     |     | 長泰縣 |
|     |     | 平和縣 |
|     |     | 惠安縣 |
|     |     | 同安縣 |
|     |     | 安溪縣 |

第十一卷 第一章 地勢面積人口及職業

汀州府 長汀縣 寧化縣 清流縣 歸化縣 連城縣 上杭縣  
 武平縣 永定縣  
 永春州 德化縣 大田縣  
 龍岩州 漳平縣 寧洋縣  
 外ニ江西省中三府一州

地租穀租及雜稅

福建省ニ於ケル地租、穀租、雜稅ノ徵收高ヲ各府各州ニ小別スレハ左表ノ如シ但シ清國ニ於ケル地租ハ土地ノ中畑及山林ヨリ徵收スルモノニシテ地丁ト稱シ又耕田ヨリ徵收スルモノハ等シク地租ナリト雖モ穀租ニシテ之ヲ糧米ト稱ス且ツ其

他雜稅アリテ地丁、糧米ノ外各種ノ稅ヲ徵收スルナリ

福建全省歲徵地丁銀

閩縣	二萬二千三百八十二兩	侯官	二萬八千五百五十三兩
古田	一萬三千五百四十七兩	屏南	六千二百六十五兩
閩清	九千四百三十六兩	長樂	一萬三千百七十一兩
連江	一萬四千七百五十二兩	羅源	七千〇五兩
永福	六千八百〇九兩	福清	二萬九千八百八十五兩
晉江	三萬〇三百六十六兩	南安	二萬八千三百四十五兩
泉州府			
福州府			

惠安	一萬一千七百十八兩	安溪	一萬〇七百九十一兩
同安	一萬八千六百六十兩		
莆田	四萬五千二百二十四兩	仙遊	二萬三千四百十四兩
龍溪	三萬〇七百六十八兩	漳浦	一萬八千四百八十四兩
南靖	一萬七千九百九十二兩	長泰	一萬四千五百八十二兩
平和	五千〇十三兩	詔安	一萬〇七百〇七兩
海澄	一萬三千五百〇八兩		
汀州府			
長汀	二萬二千三百四十一兩	寧化	一萬八千四百十五兩
上杭	一萬二千五百五十四兩	武平	八千二百三十二兩
清流	八千二百八十六兩	連城	一萬〇五百六十兩
歸化	二萬四千八百八十五兩	永定	八千六百七十七兩
邵武府			
邵武	二萬八千〇六十九兩	光澤	八千八百九十八兩
建寧	一萬四千二百八十一兩	泰寧	一萬〇七百六十五兩
延平府			
南平	一萬六千三百九十三兩	沙縣	一萬五千三百三十三兩

第十一卷 第二章 地勢面積人口及職業

順昌	一萬三千三百三十兩	將樂	一萬二千七百二十九兩
尤溪	一萬四千〇七十七兩	永安	七千〇六十九兩
建寧府	二萬九千三百三十三兩	建陽	二萬九千〇四十九兩
甌寧	二萬五千八百八十兩	崇安	一萬八千四百三十四兩
政和	九千六百五十三兩	浦城	三萬三千四百十三兩
松溪	一萬〇三百二十五兩	福安	九千四百六十六兩
霞浦	一萬〇百十三兩	福鼎	六千二百七十九兩
寧德	一萬一千四百二十三兩	大田	九千二百二十六兩
壽寧	二千〇五兩	寧洋	三千四百四十三兩
德化	一、永春州 八千六百三十七兩	侯官	四千八百十九石
漳平	一、龍岩州 九千二百二十二兩	屏南	百十六石
閩清	福建全省歲徵糧米 一、福州府 三千七百四十四石		
連江	二百四十六石		
永福	三千九百五十五石		
同安	二千八百十石		
晉江	一、泉州府 二千四百十二石		
惠安	二千四百七十四石		
莆田	九百八十石		
龍溪	一、興化府 七千五百四十石		
南靖	一、漳州府 五千六百二十六石		
平和	三千四百六十石		
海澄	五百四十七石		
長汀	五百十九石		
上杭	一、汀州府 八千二百二十一石		
清流	三千五百九十六石		
歸化	八百九十三石		
	九百六十石		

第十一卷 第一章 地勢面積人口及職業

長樂	二千〇六十一石
羅源	一千百十二石
福清	九百三十石
南安	六千〇六石
安溪	一千八百七十石
仙遊	三千百六十二石
漳浦	五百五十石
長泰	一千二百二十石
詔安	二千二百〇五石
寧化	四千三百二十石
武平	二千八百十八石
連城	一千〇三石
永定	四百九十一石

第十一卷 第一章 地勢面積人口及職業

邵武	九千五百七十石	光澤	三千二百五十八石
建寧	一千五百五十石	泰寧	六百十五石
延平府			
南平	四千三百九十六石	沙縣	一千二百二十八石
順昌	三千三百三十六石	將樂	四千八百六十石
尤溪	三千二百十六石	永安	一千八百二十四石
建寧府			
建安	三千二百二十四石	建陽	三千三百二十九石
甌寧	三千二百五十六石	崇安	三千二百十石
政和	一千五百九十一石	浦城	二千五百三十石
松溪	一千零八十八石		
福寧府			
霞浦	二千七百十七石	福安	二千六百五十石
寧德	二千七百四十五石	福鼎	一千六百五十石
壽寧	四十八石		
永春州			
德化	六百七十五石	大田	三百二十五石
龍岩州			

漳平

百七十六石

福建全省歲徵雜稅銀

一、福州府

寧洋

六十五石

閩縣	九百三十六兩	侯官	一千七百五十八兩
古田	七百五十九兩	屏南	二十九兩
閩清	百三十五兩	長樂	五百三十兩
連江	四百四十兩	羅源	三百九十兩
永福	二百八十兩	福清	三千八百五十九兩
泉州府			
晉江	一千二百九十兩	南安	九百八十七兩
惠安	三百八十六兩	安溪	四百四十五兩
同安	八百八十六兩		
興化府			
莆田	二千五百兩	仙遊	五百八十九兩
漳州府			
龍溪	三千二百四十五兩	漳浦	一千二百五十七兩
南靖	二千二百九十兩	長泰	四百七十四兩
平和	五百四十七兩	詔安	七百六十八兩
海澄	五百三十八兩		

第十一卷 第一章 地勢面積人口及職業

第十一卷 第二章 地勢面積人口及職業

五四〇

長汀	五百二十四兩	寧化	三百七十三兩
上杭	百五十九兩	武平	五百二十兩
清流	百六十六兩	連城	五百二十兩
歸化	百七十七兩	永定	百九十八兩
邵武	二千三百三十五兩	光澤	四百七十四兩
建寧	三百二十二兩	泰寧	五百六十八兩
南平	二千六百十六兩	沙縣	一千八百八十二兩
順昌	七百二十九兩	將樂	九百五十兩
尤溪	三百三十五兩	永安	八百三十九兩
建安	一千七百六十三兩	建陽	一千五百二十一兩
甌寧	二千八百六十九兩	崇安	六百六十八兩
政和	七百二十一兩	浦城	一千八百四十四兩
松溪	六百七十二兩	福安	六百八十四兩
霞浦	四百八十三兩	福寧府	

寧德	一千〇五兩	福鼎	二百〇五兩
壽寧	百四十一兩	大田	九十九兩
德化	百八十一兩	漳州	
漳州	一、龍巖州	寧洋	百十二兩
漳州	一、永春州		
漳州	一、龍巖州		
漳州	二百五十兩		

面積及人口

全省ノ面積ハ十二萬平方基米突アリト雖モ當管内ノ四府二州カ其幾部分ヲ占メ居ルヤハ實地測量シタルモノナキヲ以テ之ヲ知ルヲ得ス又全省ノ人口ハ二千二百二十萬ト稱スレトモ人口ノ如キハ戶口調査ノ途ナキ清國ニ在リテハ精確ナル數ヲ知ルコト能ハサルヲ以テ當館管内ノ人口ノ如キモ之ヲ知ルヲ得ス

職業

廈門ノ位置

廈門島ト鼓浪嶼

當管内ノ職業ハ農業、商業、工業及勞働者ノ四トシ廈門、漳州、泉州ノ各地ハ概シテ商業ニ從事スルモノ大部分ヲ占メ又内國商業ト外國貿易トニ分タル今茲ニ廈門港ニ付テ記スルニ廈門ハ泉州府同安縣ニ屬スル廈門島ノ西南隅ニアリ大陸ノ一角トノ間ニ介在セル鼓浪嶼ノ一小島ニ對シテ港灣ヲ形成ス灣内水深ク常ニ二十四呎ト十六呎トノ間ニ在リテ巨船ノ出入自由ナリ廈門市ハ人口十萬ト稱シ廈門全島ハ三十萬ヲ有スト稱セラル鼓浪嶼ニ對スルノ所大厦高樓ヲ羅列スルモノ之ニ外國商店ノアル處ニシテ廈門城ハ市ノ背後ニアリ周圍約一哩ニシテ廈門島ハ周圍三十五哩アリト雖モ島内岩山屏立シ南岸高峻多シ

鼓浪嶼ハ廈門港ト最廣八百四十碼、最狹六百七十五碼ヲ隔ツル周圍三哩ノ小島ニシテ港灣中ニ介在スル外國人ノ共同居留地ニシテ到ル處樓閣アリ二層樓又三層樓ハ蒼樹奇岩ト點綴シ宛然別天地ヲナス土人ノ此地ニ家屋ヲ有シテ住スルモノアリ、別ニ一市街ヲナス且ツ各所ニ點在セルモノ其數約五千八人ト稱セラル而シテ外人ノ住スルモノ約三百五十八ナルヘシ今左ニ廈門ニ於ケル在留外人員表及在留日本人(臺灣人ヲ含ム)員並職業別表ヲ掲ケン



在留外國人  
員表

第十一卷 第一章 地勢面積人口及職業

外國人在留員數表

國別	員數	商店數	歸化人
英國	364	38	
米國	35		
佛國	27	2	
和國	4		
荷蘭	1		
葡國	17		
諾威	3		
瑞典	2		
丁抹	8		
西班牙	28		
合計	489	41	93

備考 英國人中ニハ歸化人ヲ含ム

在留本邦人  
人員及職業  
別表

明治三十九年六月末在留日本人員並ニ職業別表

職業別	戶數		男		女	
	日本人	臺灣人	日本人	臺灣人	日本人	臺灣人
茶商	1	8	1	0	1	8
雜貨商	2	164	7	318	4	56
莊	1		1		1	
錢糖商	1		1		1	
砂糖商	1		1		1	
時計商	1		1		1	
反物商	1		1		1	
靴商	1		1		1	
金銀細工商	1		1		1	
回漕業	1		1		1	
賣藥商	5		35		5	
紙行商	4			20		
銀行員	4					
旅人宿	1		4		3	
和洋料理店	1		3		6	
理髮業	1		1		1	
洗濯業	1		2		1	
訴訟代理人	2		4		3	
醫師	2		6		2	
學校教師	1		2		1	
布教師	3		0		1	
會社員	4		6		5	

第十一卷 第一章 地勢面積人口及職業

五四三

錢莊	5
砂糖商	2
時計商	2
反物商	6
靴商	5
金銀細工商	3
回漕業	3
賣藥商	2
紙行商	5
銀行員	7
旅人宿	1
和洋料理店	1
理髮業	1
洗濯業	1
訴訟代理人	2
醫師	2
學校教師	1
布教師	3
會社員	4



第十一卷 第二章 管内ノ特長

五四六

ノ輸入額ハ海關年報ハ英貨七十五萬磅ナリト報スレトモ前陳ノ方法ニ依リ輸入セラル、貨物ノ英貨十萬磅ニ上ル見積ナリトハ當地駐在ノ或ル英國領事ノ報スル所ナリ然ルニ一方ニ於テハ海峽殖民地ニ在ルモ萬事郷里ニ於ケルカ如キ生活ヲ營ミ慣用ノ一家必要器具ハ特ニ當地ヨリ取寄スルヲ以テ當地方產品ノ輸出ハ爲ニ多額ニ上ルヲ見ルナリ斯シテ當港輸出入貿易ハ出稼民ニ負フ所頗ル大ナルヲトスヘキナリ

移民業ノ商業上ニ及ホス影響ハ斯ノ如ク大ナルカ翻テ他方面ニ及ホス影響ヲ見ルニ亦大ナルモノアルナリ即チ茲ニ七萬五千人ノ船客アリテ内五萬人ハ一人ニ付四弗ノ船賃ヲ拂フトスレハ其額二十萬弗自餘ノ二萬五千人ハ一人ニ付七弗ノ船賃ヲ拂フトスレハ其額十七萬五千弗ニシテ總計三十七萬五千弗ハ海峽殖民地貿易ニ從事スル船舶業者カ受クル旅客而已ノ運賃ナリ其他移民ニ關シ運搬セラル、貨物ノ運賃多大ナルヲ知ルヘシ

明治三十五年中厦門ヨリ直接北部ボルネオニ移民事業ヲ計畫シ其移住者ニハ頗ル便利ナル方法ヲ與ヘ出稼民ヲ誘導シタルコトアリシモ終ニ成效ヲ見サリシカ是蓋シ福建南部土民ノ利場ハ專ラ新嘉坡・ベナン等ノ商業地ニアリテ總テ自由出稼業ナレハ契約移民ノ事業ハ到底本地人民ニ適合セザリシナリ數年前布哇移民ヲ企テ失敗シ近年亦墨西其行勞働者募集ヲ計畫シテ均シク不結果ニ了リシ所以ナリ

海峽殖民地  
行出稼人

今左ニ過去十年間當港及海峽殖民地間ヲ往來セシ旅客數ヲ舉クレハ左ノ如シ

明治三十八年	五三、七二九	往	一八、九二〇	來
明治三十七年	六九、五八七		二八、三八七	
明治三十六年	六九、〇九三		二六、九四八	
明治三十五年	七六、八九六		二四、二五八	
明治三十四年	六八、八二九		三二、七九四	

臺灣行出稼  
人

明治三十三年	七九、二六三	往	二四、八九三	來
明治三十二年	五四、七一		二七、〇四六	
明治三十一年	四七、一一五		二三、五一	
明治三十年	三五、一三〇		二六、五八二	
明治二十九年	五二、八〇一		二九、二四四	

右海峽殖民地行移民狀況ヲ記シタルニ由リ更ニ我臺灣トノ關係ニ付一言センニ本港ヨリ臺灣ニ出稼スル勞働者ハ重ニ泉州及漳州人ニシテ我國ニ於テ同島ヲ占領スル以前ニ於テハ有名ナル巡撫劉銘傳カ一意該地ノ經營ニ熱心シタルヲ以テ諸般ノ事業勃興スルニ伴ヒ福建南部ノ勞働者ヲ誘致スルノ必要ヲ生シ汽船便ニテ渡臺セシモノ一ケ年約八九千乃至一萬二千人ノ多數ナリシカ此外支那「ジャンク」船ニテ該島沿岸各所ニ渡航セシモノ亦尠ナカラサリシナリ然ルニ該島カ我國ノ領有ニ歸セシ以來支那勞働者上陸ニ到限ヲ加ヘタルヨリ爾來幾分渡臺者ノ數ヲ減ジタルモ尙ホ渡航者ノ盛ナルコト左ニ掲クル最近十ケ年間汽船便往來客數表ニ據リテ知ルヲ得ヘシ

最近十ケ年間厦門臺灣間往來清國人數

明治三十八年	四、八九七	往	五、五七七	來
明治三十七年	五、四一五		六、五四九	
明治三十六年	五、七九七		六、七四〇	
明治三十五年	六、三九一		七、五五九	
明治三十四年	六、八九八		九、〇二七	
明治三十三年	七、五九七		一〇、二九二	

第十一卷 第三章 衣食住ノ状態

明治三十二年	九、〇六八	五四八	一一、六一九
明治三十一年	六、七五〇		六、八五八
明治三十年	九、一一四		一〇、〇六八
明治二十九年	七、六五二		七、一七七

南洋ニ出稼スル移民ハ當福建省漳州府、泉州府及永春州人最多數ヲ占メ興化府仙遊縣及福州府福清縣人之ニ次ケリ而シテ其出稼人員ハ年ニ依リ増減アルモ近年概シテ減少ノ傾向ヲ呈セルカ是蓋シ近年當省内地ニ黒死病流行シ同病ニ罹リテ死亡スル者不尠南洋各港ニ於テ錫ノ相場下落シ出稼民ノ收得從テ減退シタル而已ナラス米國ノ比律賓占領後清國出稼民ノ入島ヲ禁止シタル等種々ノ原因相加リテ斯ル現象ヲ呈スルニ至リタルモノナルヘシ

最後ニ當地方移民ノ出稼先ヲ示ス爲左ニ明治三十八年中清國人ノ往來地及其員數ヲ擧ク

地名	往	來
臺灣	四、八九七	五、五七七
沿岸諸港	五、九一七	六、三九八
香港	六、三三七	一六、八八七
海峽殖民地	五三、七二九	一八、九二〇
馬尼刺	五、三九二	一、一八五
其他諸港	五七	一三八
計	七六、三二九	四九、一〇五

●第三章 衣食住ノ状態

福建省ニ於ケル衣食住ノ状態ハ我日本ト同シク上中下ノ三等ニ分ツヲ得ヘシ然レトモ資産高ヲ以テ之カ等級ヲ設クルテ便利トスルヲ以テ銀十萬弗以上ノ資産ヲ有スルモノヲ上等トシ産資一萬弗以上四萬弗ヲ呈スルモノヲ中流トシ下流社會ニ至リテハ貧民ノ各種ヲ包含スルコト論ヲ俟タス左ニ其概要ヲ記述スヘシ

○第一節 衣服

衣服ヲ叙述スルニ當リテハ上中下ノ三階級ニ區別シ且ツ冬春用ハ略同一ナルヲ以テ之ヲ同時ニ述ヘ又夏秋モ略一樣ナルヲ以テ同一ニ記スルヲ便利ナリトシ尙男女ニ分ツ

▲第一款 上流社會

上流社會トハ十萬弗以上ノ資産ヲ有シ一ケ年ノ收益約一萬弗以上生計費一ケ年五千弗以上ヲ要スルモノトシ家族ヲ約二十人ト假定セリ

- 一、男冬春用被服ハ概略左ノ各種トス
  - 一、羊哥袍 羅紗面
  - 一、狐狸袍 羅紗面
  - 一、絹 長 裘
  - 一、洋布 短衣 褲
  - 一、同 長 衣
  - 一、絹 褲 腿
  - 一、毛 製 甲 仔
  - 一、短 裘 褲
- 二 種
- 二 種
- 二 種

一、蚊 帳

一、被 單 (布 團)

一、被 頭 (同 )

一、綿 績 (綿 入)

一、褥 仔 (敷布團)

一、夏 秋 用

一、官 紗 長 衣

一、同 短 衣 褲

一、絹 製 長 衣

一、絹 製 短 衣 褲

一、麻 製 同

一、紗 製 長 衣

一、洋 布 製 衣 褲

二 種  
三 種

二、女 冬 春 用 被 服

一、絹 製 裘 袂 (上 衣)

一、青 絹 製 裘 袂 (同 )

一、青 絹 緞 紗 裘 袂 (同 )

一、裘 袴 (綿入、上下)

一、裘 袂 八 寶 (上 衣)

一、絹 紅 緞 紗 袴 (袴 )

一、洋 布 衣 褲 (上 下)

一、黑 色 衣 褲 (同 )

一、夏 秋 用

一、紗 衣

一、絹 衣 褲

一、白 羅 藤 衣 (麻製襦袢)

一、黑 絹 衣 褲

一、同 裙

一、洋 布 衣 褲

二 種

右ハ大要ニシテ此他種々ナル衣服ヲ着用シ春夏秋冬ニアリテハ絹製、毛織製ヲ用キ夏秋ニ在リテハ絹、絹、麻、金巾等ヲ使  
用ス而シテ一ヶ年衣服料ハ合計銀六百弗内外トス

▲第二款 中流社會

中流ト稱スルハ資産一萬弗ヨリ五萬弗内外トシ一ヶ年ノ收益一千弗乃至四千弗トシ生計費モ亦一千弗ヨリ四千弗ニ  
至ルモノニシテ家族ヲ十人ト假定ス

被服ハ大凡左ノ各種トス

男 子 用

一、黑 緞 紗 長 裘 (絹裏付)

一、黑 短 裘 (同 )

- 一、黒 袴
  - 一、甲 仔 (袖ナシ上衣)
  - 一、短 衣
  - 一、洋布 長衣
  - 一、同 短衣 袴
  - 一、絹 長衣
  - 一、同 短衣 袴
  - 一、官紗 短衣 袴
  - 一、黒白 短衣 袴
  - 一、白洋布 短衣 袴
- 女子用
- 一、上海 風 裘
  - 一、黒 縐 紗 裙
  - 一、絹 裘
  - 一、洋布 衣 袴
  - 一、黒 袴
  - 一、白 布 衣 袴
  - 一、黒 布 袴
  - 一、紅 縐 衣 袴

- 一、赤 縐 紗 袴
- 一、官 紗 衣 袴
- 一、白 洋布 衣 袴
- 一、廣 東 衣 袴
- 一、黒 洋布 袴

右各種ノ衣服ヲ着用スルモ常服ハ冬春ニアリテハ多ク羅紗縐ヲ用キ夏秋ニハ絹、紗、金巾製ノモノヲ着用ス男女用合計一ケ年三百五十弗ヲ要スルナリ

▲第三款 下流社會

福建省ニアリテハ此階級ニ居ルモノ多ク且ツ小農、職工、行商小賣、轎夫、餅賣、饅饅賣等アリテ自ラ衣服ニモ差異アルヲ以テ茲ニ明記スルコト容易ナラス且ツ下級勞働者ニアリテハ一年冬、夏各一着位ノ衣服ヲ所有スルニ過キス依テ一般下流社會ノ着用スルモノヲ概記センニ左ノ如シ

- 一、絹 裘
- 一、綿 裘
- 一、縐 紗 巾
- 一、洋 縐 裘
- 一、絹 甲 仔
- 一、衣 袴
- 一、白洋布 衣、袴
- 一、黒 洋布 袴

右ハ下流社會中ノ稍ヤ有福ナルモノ、衣服ヲ舉ケタルモノニシテ最下等ノ労働者ノ如キハ前述ノ如ク冬、夏各一着位ノ着衣ヲ有スルノミ而シテ人民中農家最多數ヲ占ムルモ財産分配ノ相續制度タルトニ因リ自ラ小農ト化シ自己所有ノ田園而已ヲ耕作シテハ生計ヲ支フル能ハサルニ依リ他人ノ田園ヲ耕作スルナリ

附記 衣服中衣ハ上衣、褲ハ袴ナリ

### ○第二節 食物

本項モ亦前項ト同シク上、中、下ノ三階級ニヨリ記セントス然レトモ當省中貧富ノ度一様ナラス殊ニ土地ノ沃肥如何ニヨリ自ラ異ルモノナルモ概括的ニ記スレハ其間自ラ状態ヲ知ルニ難カラサルモノアリ

#### ▲第一款 上流社會

主食物ハ白米ニシテ朝食ニハ粥ヲ食スルヲ常トシ每朝九時若クハ十時トス夫レヨリ二三時頃ニ至リテ點心ト稱シ中食ヲ爲シ夜七八時頃晩食ヲ爲シ又十時頃茶果ヲ食スルヲ例トス其副食物トシテ食スルモノハ左ノ如シ  
豚肉、生魚若クハ鹽魚、葱、韭菜、豚舌、豚肚、鶏、家鴨、野菜、豚肝、鮑魚、蝦等ニシテ一ケ年ノ食費五百弗乃至七百弗ナリト云フ此他薪炭、醬油、煮付用油等ヲ使用スルヲ以テ一ケ月平均一百二十弗内外ヲ要スト雖モ等シク上流社會ニアリテモ十萬弗ト十五萬弗ノ資産ヲ有スル者ノ間ニハ自ラ差異アルハ勿論ナリ

#### ▲第二款 中流社會

中流社會ニハ商家アリ農家アリテ一概ニ之ヲ論スルコト能ハス左ニ農家ト商家ト各一例ヲ舉ケテ一般ニ及ハントス  
一般商家ノ食費ニ就テ記スルニ商家ハ自然驕奢ナルヲ以テ其食料品副食物モ上流資産家ト其間多少ノ差アルノミニシテ其食費ト炭油費ハ白米、副食物、炭薪、烟草、茶、石油、醬油、豆油、豚油等ニテ合計一ケ年七八百弗ヲ要スト云フ  
農家ニアリテハ上等農家ト雖モ自耕農極メテ少ナシ故ニ節約ヲ主トシ被服ノ如キモ夏、冬ニ着位ノ新調ヲ爲スニ過キス

シテ服地モ常服ハ綿服ナリ、飲食物中鶏、家鴨、野菜ノ如キハ自家ノ栽培、飼養スルモノニシテ酒、醬油ノ如キモ自家製造ニ係ルト云フ而シテ家族二十五人ヲ有スル上等農家ノ例ヲ舉レハ白米、炭薪、副食物(豚肉、魚等)石油、醬油、豆油、野菜等ニテ一ケ年約一千弗ヲ要スルニ過キサル有様ナレハ中流農家生活ノ状態ハ以テ推知スルヲ得ヘシ

#### ▲第三款 下流社會

前述ノ如ク此社會ニ屬スルモノ多様ナレトモ概括的ニ記スレハ左ノ如シ  
小農ニアリテ普通家族七八人アリ若シ男子ニシテ労働ニ從事シ得ヘキモノハ農隙ニ出稼キ即チ苦力(日稼労働者)トシテ賃銀ヲ得ルヲ常トス食物ノ如キモ普通白米ヲ食スルコトナク内地ニテハ紅米(赤米)ヲ食シ副食物ノ如キモ鹽魚、漬物、野菜位ニシテ之ニ豚肉ノ少許ヲ雜ヘテ料理スルニ過キス一ケ年約百二十三十弗ノ食費、炭油費ヲ要ス職工ニアリテハ日給七八十仙ヨリ四五十仙ニ過キス之ヲ月儲トスレハ十二三弗ヨリ十七八弗ナルヲ以テ生計困難ナルモノモアリ食費ハ一ケ年百弗乃至百二十三十弗内外ナリト云フ此他下級労働者ニアリテハ一ケ年四十二三弗ニテ食費其他ヲ支辨スルモノアリ

### ○第二節 住居

往居ニ就テハ上流社會ニアリテハ二階若クハ三階ノ家屋ヲ有シ繞スニ牆壁ヲ以テシ其内ニ四五棟ノ家アリ厦門共同居留地ニアリテハ西洋作りニテ室内敷物等ヲ敷キ相當ノ家具ヲ備ヘアリ内地ニアリテハ前述ノ如ク牆壁ヲ設ケ庭園アリ又市街ニアリテハ牆壁ナシト雖モ間口ノ狭キニ似ス奥行非常ニ長ク二階家若クハ平家ニシテ室内ノ裝飾一見美麗ニ驚クコトアリ故ニ商家ト富豪トヲ論セス其住宅ヲ維持スルニハ裝飾品家具費トシテ多額ノ費用ヲ要シ一ケ年五六百弗ヨリ甚シキハ一萬弗ニ至ルモノモアルナリ

中流社會ニアリテハ上流社會ノ規模ノ小ナルモノニテ家ノ構造ハ通シテ間數ヲ多クシ陰鬱ノ風アリ下流社會ニアリテハ自己所有ノ家屋ナルアリ借家ナルアリ多クハ平家ニシテ室内暗ク光線ノ入ラサル所サヘアリ通常寢スルニ寢臺ヲ用ユレ

トモ下流社會ノ甚シキニ至ルトキハ土間ニ二脚ノ「ベンチ」様ノモノヲ置キ上ニ板ヲ載セ之ニ藁ヲ敷キ上ニ疊表一枚ヲ敷キ寢臺トナスモノアリ而シテ家根ハ大抵瓦葺トス

### ●第四章 氣候及衛生

#### ○第一節 氣候

南部福建省ニ於ケル冬季ハ寧ロ寒氣薄キ方ニシテ嚴寒ノ際モ結氷ヲ見ルコト稀ナリ夏期ハ内地ニ至レハ随分甚シキモ各國居留地ナル當鼓浪嶼ハ夏期中常ニ涼風アリ暑氣強カラス寒暖計モ百度ニ上ルコトナシ只本邦ニ比シテ夏期長ク五月ヨリ十月ニ亘レリ而シテ雨期ハ年ニ依リ多少ノ相違アレトモ通常三月ヨリ五月ニ及ヒ其間濕潤頗ル甚シ故ニ當地方ニ於テ身體ニ適スル氣候ハ十一月ヨリ一月ニ至ル三ヶ月間ナリトス今當廈門稅關ノ取調ニ係ル昨三十八年中ノ當地方溫度及晴雨表ヲ掲クレハ左ノ如シ

月	寒 暖 計		雨天
	最高	最低	
一	七四	四五	六
二	六〇	四一	一一
三	七二	四四	一五
四	七九	五〇	二〇
五	八五	六一	七
六	九〇	六九	九

七	月	九一	七一	一〇
十	月	八二	五二	二
十一	月	七八	四八	一、七

備 考 八、九、十月中ハ稅關ノ測量器暴徒ノ爲ニ破壊セラレ測量シ得ザリシヲ以テ記載セス

#### ○第二節 衛生

##### 病院並ニ醫師

外國人ノ設立ニ係ル病院二院アリ救世醫館、濟生醫館ト稱シ其詳細ハ公私設備ノ項ニ記載セリ又外國醫師ハ六人アリテ前記病院、稅關、居留地役場及學校等ニ關係シ傍ラ自宅診察ヲ營メリ内一人ハ本邦醫ニシテ多年當地ニ滞在シ本邦人ノ外ニ清國人ノ患者多クシテ同國人間ニ信賴ヲ博シツ、アリ

##### 各種ノ傳染病

各國共同居留地ナル當鼓浪嶼ニ於テハ近年下水工事施サレ塵芥及不淨物ノ掃除行届キ牛乳及食品ノ検査ヲ行フ等衛生ノ設備完全ニ近キタルヲ以テ對岸廈門ニ黒死病猖獗ヲ極ムル際ニ於テモ鼓浪嶼ニ於テハ同病患者ヲ出スコト殆ント皆無ノ有様ナル上且ツ風土病ナル「マラリア」モ漸次其勢ヲ減スル傾アルナリ之ニ反シテ對岸廈門ハ清國市街中最モ不潔ナルモノ一ナリト稱セラレ衛生思想ノ如キハ毫モ存在セサルニ由リ夏期ニ至レハ殆ント毎年黒死病ノ流行ヲ見死者ヲ出ス尠カラサルナリ而シテ黒死病ハ雨期終リ漸ク暑熱ニ向ハントスルトキニ發生スルヲ例トセルカ酷暑ノ候ニハ虎刺刺及赤痢病患者ノ發生スルモノ尠カラス春期ニハ天然痘ノ行ハル、等殆ント年ヲ通シテ傳染病ノ絶ユルコトナク當鼓浪嶼ノ健康地ナルニ反シテ廈門ハ頗ル不健康地ヲ以テ目セサルヲ得サルナリ

最モ清國人ノ常トシテ傳染病患者ハ勿論同病ニ罹リタル死亡者モ秘シテ世人ニ知ラシメサルヲ務ムルヲ以テ到底其精確ナル數ヲ知ルニ由ナク斯シテ消毒其他ノ注意ニ就テハ毫モ顧ルトコロナキニ依リ黒死病ノ如キ當省内地ニ於テモ其猖獗ヲ逞クシ近年殖民地及南洋ニ出稼人ノ減少スル原因ノ一トシテ同病ニ罹ル死亡者多數ナルヲ數フル者アル程ナリ



又在留本邦人(臺灣籍民ヲ除ク)ノ衛生狀況ヲ顧ルニ昨年末在留民總數二百八十人ニシテ昨年中一人モ傳染病ニ罹リタルモノナク死亡者ハ四人ニシテ死亡原因ハ一人ハ肺結核、一人ハ老衰病、一人ハ毛細氣管支炎、一人ハ腸加答兒ナリ

第五章 貿易

過去十年間貿易對照表

年 數	輸 入		輸 出	
	外國ヨリ	内國港ヨリ	外國ヨリ	内國港ヨリ
明治二十九年	一二、三九二、九五三	三、九〇二、七二七	一、六六七、七六九	一、一五四、八四四
同 三十年	一一、三三六、二五五	三、六三一、七五六	一、四六七、九一六	九七三、三一五
同 三十一年	一一、五六九、四四二	三、五九二、三六三	一、三五三、四七二	九四三、五八五
同 三十二年	一一、六〇二、一一九	四、八五四、〇八一	一、二二二、一〇一	一、二〇一、三四三
同 三十三年	一一、〇七六、二二〇	五、一二四、五三三	一、二三九、八五六	六八一、一四一
同 三十四年	一一、一二九、四四八	五、三八九、〇七七	一、二二六、七〇三	八〇八、四七六
同 三十五年	一四、一五七、七〇二	五、一〇一、二〇〇	一、四五四、四二六	七八二、一一一
同 三十六年	一二、四九六、三二五	五、八五八、八四八	一、八六三、六一二	六九九、六六八
同 三十七年	一三、八九二、九九八	四、八七〇、一七一	二、〇一八、六九〇	六六三、八二八
同 三十八年	一一、八三三、四六二	六、四九五、四三二	二、一八七、九九四	八五二、三〇二

貿易ノ發達

當厦門港ハ開港既ニ年久シト雖モ其貿易ノ發達至テ遲々タルコトハ前表ノ如クニシテ試ニ南清重要港タル廣東ト比較スルニ其遜色同日ノ論ニ非サルナリ即チ後者ニ在ッテハ昨三十八年度貿易額九千二百萬兩餘ニ達シ十年前ノ該額ニ比シニ

倍ノ増額ヲ告クルノ盛狀ナルニ對シテ當港ノ貿易ハ前表ニ依テ知ルヲ得ヘキカ如ク昨年中其額僅ニ二千一百萬兩ニシテ十年前ニ比シ只一割強ノ増進ヲ見ル而已ナレハ貿易總額ノ點ハ兎ニ角進歩ノ程度遲々タル如此ニ至リテハ貿易港トシテノ厦門ハ有望ヲ以テ目スヘカラサルナリ

重要輸出品

元來當港主要輸出品ハ内地ノ製産業者ニ於テ熱心ニ其改良進歩ヲ講究スルノ意思ニ乏シキニ反シ常ニ市場ニ於テ競争ノ地位ニ立タサルヘカラサル對岸臺灣ノ産品ハ本邦ノ占領後攻々トシテ發達ノ方法ヲ策セラル、ヲ以テ當省産品ハ到處市場外ニ驅逐セラレツ、アル狀態ナルニ當局清國官吏ハ之ヲ獎勵保護スルノ策ニ出テサル而已ナラス彼惡稅タル釐厘稅ヲ賦課スルニ汲々タルニ依リ不振ノ産業ハ愈々衰退ニ赴クモノ今日ノ現狀ナリ即チ福建茶ノ如キモ當港開港當時ハ其輸出盛大ニシテ千八百七十四年度ニ於ケル海外輸出額ハ七百六十萬封度餘ノ多額ヲ報シタリシモ爾來次第ニ衰頹ニ赴キ千八百九十九年ニ至テ終ニ沈淪ノ極ニ達シ同年額ハ僅ニ三萬一千餘封度ノ少額ニ陥リシカ事ノ茲ニ至リシモノ臺灣茶ト競争上敗ラ取リタル結果ナリ然レトモ當時臺灣ニ於ケル港灣ノ設備未タ完全ナラサルニ反シ當港ハ天然ノ良港ニシテ船着ノ便利良好ナルヲ以テ臺灣茶ハ當港ヲ仲次港トシテ海外ノ顧客ニ供セラレ福建茶ニ依リ失シタル當港貿易ハ依テ以テ命脈ヲ維持シタリシモ臺灣ノ本邦占領後基隆ノ設備改良ヲ加エラレ臺灣茶ハ基隆港ヨリ直接ニ海外ニ輸出セラル、ノ勢ヲ呈シ明治三十五年ニ於テハ臺灣茶輸出總額千七百萬封度中僅ニ其一割方同港ヨリ輸出セラレタルニ過キサルモ昨年ニ至リテハ輸出總額千八百萬封度中其四割五分ハ當港ヲ經スシテ同港ヨリ直チニ歐米ニ輸送セラル、ニ至リ將來ハ一層此ヲ去テ彼ニ就クモノ其數ヲ増加スヘキハ蓋シ推知スルニ難カラサルナリ而シテ製茶貿易ノ衰頹ニ代リ當港貿易ノ趨勢ヲ挽回スヘキ當港重要輸出品タル製紙、砂糖及烟草貿易ノ形勢モ衰微振ハス荏苒停滯ノ狀態ヲ呈シツ、アリテ從前ハ福建紙ノ

製茶業ノ衰頹ト其原因

在外福建人ニ需要セラル、モノ頗ル盛況ナリシカ近來外國紙ノ品質良好ニシテ價格比較的低廉ナル爲メ大ニ其販路ヲ侵奪セラレ往年ノ全盛時代ニ比スレハ輸出額半額ニ達セサル悲境ニ陥リ紙價モ四五割方ノ暴落ヲ呈シタリトハ當業者ノ説クトコロニシテ福建製紙業者ノ困厄頗ル甚シク續々閉業者ヲ生スル有様ナルカ更ニ當地方製糖業ヲ査スルニ同品ハ從來

紙製業ノ衰微

製糖業ノ現況

煙草製造業ノ現況

ノ耕作法ヲ改良シ精巧ナル器械ヲ使用シ専心同業ニ當ルニ於テハ優ニ其産額ヲ増進シテ製茶貿易ノ衰頹ヨリスル當港貿易家ノ蒙リタル損害ヲ補充スヘキ有望品ナルニ拘ハラヌ臺灣糖ニ勝ヲ制セラレタル結果管ニ發達ノ氣運ニ向ハサル而已ナラス將來危機ニ瀕スルノ状態ヲ呈シ昨年中輸出額ノ如キ十年前ニ比シ約三分ノ一ニ減退シタル窮狀ニ沈淪シツ、アリ又烟草モ第一ノ得意先ナル臺灣ニ於テ刻ミ烟草ノ輸入税増加セラレタル爲メ昨年中ノ輸出額ハ十年前ニ比シ一千三百擔許ノ減少ヲ呈セリ

重要輸出品ノ状態ハ前記ノ如クナルカ今顧ミテ輸入品ノ狀況ヲ窺フニ當港ハ開港頗ル久シク外人ニ接觸セシ時期長キニ拘ハラス内地一般ニ土地確固ニシテ産業振ハス人民ノ多數ハ貧窮甚シキヲ以テ外品ヲ需求スルノ餘裕ナク只南洋歸リノ出稼民及中流以上ニ依リ外品ノ輸入ヲ誘進スルアルモ是逆モ未タ見ルヘキノ盛況ニ向フニ至ラヌシテ昨年中ノ外國輸入品ヲ十年前ノ該額ニ比較スルニ百萬兩餘ノ減少ヲ呈スル有様ナリ最モ昨年中清國諸港ヨリノ輸入額ハ十年前ニ比シ三百萬兩ノ増進ヲ顯ハシタレトモ是主トシテ近年外國阿片價格騰貴ノ爲メ四川及雲南省產物阿片ノ輸入増加ニ基クモノナルヲ考ヘ來レハ決シテ慶スヘキ現象ニアラサルナリ而シテ主要輸入品タル外國綿織物、綿糸、毛織物等モ十年一律發達ノ跡ヲ顯ハサスシテ品ニ依リテハ却ツテ退歩ノ狀ヲ呈スルヲ見ルナリ

南洋移民ト外國貿易トノ關係

當港貿易ノ現狀ハ前述ノ如シト雖モ他日省内鐵道ノ布設ヲ見交通機關ノ發達ヲ告ケ省内ノ鑛山發掘セラレ南洋出稼民ノ年々廻送スル巨額ノ資金利用セラレ産業興起スル曉ニ至レハ茲ニ一陽來復當港貿易モ見ルヘキモノアルニ至ルヘシ又當港ニハ他港ニ見ルヲ得サル特殊ノ事情アリテ當港ノ繁榮ヲ維持シツ、アリ即チ南洋ニ出稼スル福建省移民是ナリ、今ヤ福建省南部ノ土民ニシテ南洋ニ出稼スルモノ實ニ二百五十萬人ノ多キヲ數フル上其送金額年々數百萬弗ニ達シ地方ノ購買力ヲ膨脹スルニ加ヘテ歸郷土民ハ毎年外國ニ在テ刻苦勉勵ノ結果相當ノ資財ヲ貯蓄シテ歸來スルト同時ニ彼等ハ海外ニ在テ日々種々ノ外品ニ接觸シ不知不識其趣味便益ヲ感得スルニ至ルヲ以テ歸郷ノ後モ其使用ヲ欲スルハ自然ノ傾キナルニ依リ本港貿易ハ一時ニ急速ノ發達ヲ期スヘカラサルモ大體ヨリシテ漸次外國品ノ需要ヲ増加スルハ蓋シ推知スル

ヲ得ルナリ又南洋ト往來スル出稼移民數ハ年々數萬ヲ以テ算セラル、カ彼等ハ皆當港ヲ經由スルモノナルニ依リ當港海運業ハ爲メニ當港港灣ノ良好ナルト相俟テ其好況ヲ維持シツ、アルナリ  
今又左ニ明治三十八年間重要輸出入品ノ數量ヲ掲ケ其前年三十七年間ノ該額ト對照シ參考ニ供ス

品名	單位	明治三十七年	明治三十八年
阿片	擔	三、四二二	三、二九九
生金	巾	三三、四一五	二八、九〇〇
晒金	巾	五三、七四八	四七、九二〇
雲齋布	同	八一	一、四二五
天竺布	同	五一、五一五	五三、二七〇
寒冷紗	同	四、〇七五	五、五八四
色金巾	同	一六、九五五	一一、八九四
緋金巾	同	八、三七三	八、二二九
綿糸	擔	五九、二〇三	五七、九三二
毛織物			
英吳呂	個	四、四〇八	四、一九二
羅紗	碼	一三、一七一	一〇、四四八
「ラスチング」	個	七五八	八四四

第十一卷 第五章 貿易

羅世伊多	個	八七一	六〇九
「スマニシユ、ストライプス」	碼	二〇、六二三	一七、六〇四
毛糸	擔	四七〇	三七九
金屬類			
鐵板及鐵釘	擔	一、九九三	二、三〇一
古鐵	同	四、三八八	五、〇一七
鉛塊	同	一、四一三	一、二七四
水銀板	同	二二二	一六二
錫板	同	四、七八一	四、七三一
雜品			
白及黑海		六、八九九	五、五八三
印度棉花		三一	四八一
乾魚	同	一一、一二四	三五、三一八
麥粉	同	一三七、八六二	一二七、七八五
日本「マツチ」	同	五二五、九七〇	五二八、八二一
地蓆	個	七七二、四六七	六二五、七〇八
石油	同	四、二八三、一三〇	三、一九二、四二五
乾蝦	擔	一一、八五三	一二、八二六
米	同	三三一、九六四	三四三、二八四

五六二

品名 單位

麻	個	明治三十七年 二三一、九〇〇	明治三十八年 二九一、二六〇
煉瓦	同	五、二七六、一六一	三、二九九、七二三
粗製陶器	擔	六、六九三	六、八四六
麻袋	個	二二六、三一〇	二六六、〇五〇
鐵鍋及鐵器	同	四、一〇二	二、七八〇
龍眼肉	同	二、九八七	三、〇七八
上等紙	同	八、七八〇	一三、三五九
下等紙	同	三九、三九五	三八、二四一
砂糖	同	一一、二〇一	八、八一八
赤砂糖	同	五、五〇七	四、九七五
冰糖	同	三九、七五七	七七、九四九
冰糖	同	三四、六八一	二七、三三二
白砂糖	同	四、〇七六	五、九一三
烏龍茶	同	三、〇六五	二、八三九
包種茶	同	三、六一六	三、七五七
小種茶	同	一五一	一七六
加工烟草	同	一六、六七六	一四、三三六

五六三

第十一卷 第五章 貿易

第十一卷 第六章 商業及市場	
紙傘個	九一、七三八
素麵類擔	一三、六六九

●第六章 商業及市場

開港ノ起源

當港商業及市場ニ就テ記スルニ當リ先ツ其通商起源ヨリ觀察ヲ下シ而シテ後我帝國領事館設置後(明治二十九年)ニ於ケル北清、臺灣、内地トノ商業關係ヲ記述シ以テ一般商業ノ趨勢ニ及ハントス抑モ本港カ諸外國ト交通シタルハ遠ク十六世紀ニ在リト雖モ明末葡萄牙、西班牙、日本等ノ帆船來リテ廈門附近ナル石碼ニ於テ貿易センコトヲ乞ヒ明廷之ヲ許シテヨリ來往漸ク頻繁トナリ泉州、漳州人モ亦日本、南洋各地ニ行クモノ増加シタリ後天津條約ニヨリテ開港セル五港ノ一トナリテ石碼ノ貿易ハ遂ニ廈門ニ移リ其當時外國商人ニシテ廈門ニアリシハ僅ニ滙豐、和記、德記、怡和、水陸ノ五號ナリトス而シテ當時取引セシ貨物ハ輸入ニアリテハ鴉片、羅紗ヲ以テ主要ナルモノトナシ、輸出ニアリテハ茶ヲ以テ重ナルモノトナシ其他ノ雜貨ハ十中ノ二三ニ止マリタリト云フ今之カ數額等ヲ舉クルハ徒ニ勞多クシテ現今ノ商勢ニ多大ノ關係ヲ有スルモノニアラサルナリ今左ニ北清、臺灣及内地商業ヲ順次記載スヘシ

○第一節 廈門北清間貿易狀況

大北小北ノ別

廈門ニ於ケル北清貿易ヲ營ム團體ヲ北郊ト稱スルカ北清ヲ二區ニ分チ牛莊、芝罘及天津ヲ大北ト云ヒ上海、寧波及鎮江ヲ小北ト稱セリ然ルニ近來大北トノ商業ハ引合ハサル爲メ改業シテ小北トノ商業ヲ兼營スルモノ多ク從前ハ小北商店ハ約三十家アリタルモノ現今ハ約六十家ニ増加シタルニ反シ從前大北商店ハ約二十家アリシモノ現今ハ十家ニ減少シタリ加之廈門大北間輸出入貨物モ頗ル衰退シ日露戰爭前牛莊及芝罘ヨリノ輸入貨物ヲ運搬スル爲メ七八十隻ノ汽船入港シタリシカ昨年中ハ僅ニ五十隻許ニ減少シ芝罘ヨリハ昨年中只四隻ノ汽船入港シタル而已ナリ、又從前ハ例年百二十萬個許

ノ豆餅七十萬擔許ノ豆ノ輸入アリタルカ昨年中ノ輸入額ハ豆餅百萬個豆五十萬擔許ニ減少シ當地ヨリ大北向輸出砂糖ハ從前十二萬擔許ノ年額ナリシカ昨年中ハ七萬擔許ニ減退シ雜品ハ從前九萬件アリシモ昨年中ハ僅ニ六萬餘件ニ減少セリ且ツ貨物ノ價格ハ頗ル騰貴ヲ顯シ從前豆餅百斤ニ付キ二弗五六十仙豆每百斤三弗五六十仙黑砂糖每百斤軟銀二兩五錢(軟銀トハ當地方ノ俗稱ニシテ舊來當地方ノ流通刻印付銀ナルカ兩トノ交換標準ハ軟銀ノ一弗ニ付銀兩六錢也)白砂糖每百斤硬銀五兩三錢(硬銀トハ是又當地方ノ俗稱ニシテ日本圓銀ノ事ナルカ軟銀ニ比シ相場好ク兩トノ交換標準硬銀一弗ニ付銀兩七錢五厘許ナリ)ノ價格ナリシカ現今ハ豆餅三弗八十仙豆四弗六十仙黑砂糖軟銀四兩八錢白砂糖硬銀十兩二錢ニ昂騰シ其他ノ雜品ハ四五割方中ニハ二倍方高價ヲ顯スニ至レリ

因ニ曰フ當福建省、漳州府及泉州府ニ於テモ豆餅ヲ製造シ兩處ノ豆餅製造家ハ二十餘家豆餅製造機械ハ約三十個アリ兩所ニ於ケル一日ノ製造高三千個ニシテ一ヶ年ノ製造高約七十萬個ニ及ヘリ最モ每年開月(每年新曆六月乃至八月半ヨリ正月ニ至ル迄ヲ開月ト稱ス)中ハ休業スル例ナリ近來北清ノ豆類減少シ價格高騰シタルヲ以テ土製豆餅ノ製出高ハ往年ニ比シ二割方減退シタリト云フ而シテ土製豆餅ノ價格ハ北清豆餅ニ連レ高下スルヲ常トスルカ普通北清豆餅ヨリ八十仙方低價ナリ又豆餅重量ハ北清豆餅ニ倣フテ製造セラレ每個ノ重量四十六斤乃至五十三斤許ナリ當地北清間貿易ノ趨勢ヲ顧ルニ牛莊、芝罘ヨリハ豆餅及豆類ノ輸入アルニ對シ當地ヨリハ兩地ニ向ケ小許ノ砂糖及雜品ヲ輸出スル而已ナルヲ以テ常ニ輸入超過ノ傾向ヲ呈セルカ之ニ反シテ天津トノ貿易ハ輸出超過ノ狀態ヲ示セリ而シテ當地及牛莊、芝罘間輸入超過ニ對スル金高ハ當地ヨリ上海ニ向ケ爲替ヲ取組ミテ勘定ヲ濟スナリ又當地天津間ノ輸出超過ニ對スル勘定モ前例ト同シク同地ヨリ上海ニ爲替ヲ取組ミ同地ニテ勘定ヲ濟スナリ而シテ芝罘ノ爲換手形ハ一覽後十日限リ牛莊ハ十五日限リ天津ハ五日ヲ限リトシ右ノ三地トノ商業ヲ營ムニハ各代理人ヲ同三地ニ置クヲ必要トセリ又當地及北清間ノ主要貿易品及其價格ヲ舉クルニ左ノ如シ

廈門北清間 ノ主要貿易 品及其價格	
牛莊 中形 豆餅 (每個四十六七斤)	五六五
第十一卷 第六章 商業及市場	